

2025年(令和7年) 夏の生き物調査 玉川上水や緑道で観察された生物 (玉川上水・牟礼橋～浅間橋)							備考
調査者	田中(み)、大塚	高橋、大塚	黒木、田中(み)、高橋、大塚	大塚	大塚、田中(み)、黒木		道路開通前と比べて生き物が減少しています。以前は普通にいた種が見えなくなり、外来種が急激に増えたりしています。植物ではキンランをはじめとする希少種は減少しています。全体的に森林の生き物は減少し都市型の生き物や外来種の侵入が見られます。異常気象、経年変化、開発、遅延進行(手入れ不足)の影響が考えられます
	7月22日 晴 30℃～35℃	8月4日 晴 34℃～37℃	8月18日 晴れ 30℃～34℃	8月25日 曇り 29℃～32℃	9月1日 晴 31℃～34℃		空梅雨後、今年も猛暑の中、調査を行いました。初夏と9月までの記録も入れました。異常気象で年々、生き物にも厳しい夏が9月まで続きました。夏の期間、暑さや乾燥に強い生き物は出現しましたが、弱い生き物は確認できなかったようです。更なる地球温暖化対策と生物多様性に配慮した計画を進めて頂くよう望みます。
玉川上水や緑道で観察された生物							生態情報、生息地利用、衰退原因などまとめきれなかったので、回復を願い調査や保全活動を継続し再生の道を探ってきたい。旧岩通ガーデンの池がガマやヨシで覆われたことが原因でトンボをはじめとする水生昆虫が確認できなくなっているので再生するよう対策をお願いします。
トンボ目							上水内や岩通の池、近隣の神田川や公園、寺町の池など複数の生息地が隣接して存在することが地域個体群を維持するのに重要です。採餌、休息、産卵など目的に応じて使い分けています。上水では開通前にいたヤブヤンマやモノサシトンボなど樹林のある暗い池を好むトンボは確認できなくなっています。
オナガサナエ	●(成・メス)7月8日 東橋						上水の縦木で休息しているのに毎年、1-2匹出会うトンボでしたが、今年は上水では観察できませんでした。オスの尾部付展翼が長く大きいのが名前の由来です。2018.4.16に岩崎橋で羽化したばかりホソナサエ(東京都RDB区部EN)の個体を上水内の茂みで確認。翌日の観察会時には兵庫橋下流で羽化後と幼虫を確認しています。
コオニヤンマ	●(成)6月17日 高井戸公園	●(成)					数は少なくなりましたが、毎年、少数であつトンボです。上水の縦木で採餌、休息するのをよく見かけますが、今年は杉並上水では観察できませんでした。しかし、浅間橋上流で確認した人があります。上流の井の頭橋や高井戸公園の観察会の時に公園北側の林縁を飛ぶ姿も見て生息は確認しています。
オオヤマトンボ		●(成)					午後遅く、浅間橋上流で林縁の一定範囲を何度も往復してトロール飛行しているのを観察しました。成熟したオスは池沿いの岸辺をトロール飛行しています。井の頭池ではよく観察されていて、複眼は鋭足が長く、メスは単翅で打水産卵をするなどの特徴があります。
ハグロトンボ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		上水内で羽化しているトンボのひとつで、水路でも抜け殻を確認しています。牟礼橋下流側の橋の袂でよく観察できましたが、草が繁りすぎて暗くなり、今年は牟礼橋では数が少なかったです。代わりに間伐後に明るくなった岩崎橋では確認しやすくなりました。(東京都RDB区部VU)ホソミイトンボも岩崎橋で確認することができました。
オオシオカラトンボ	●(成・オス・メス)	●(成・オス)		●(成・オス)			上水の林縁で採餌、休息、産卵しているのが観察されていましたが、今年はあまり見かけませんでした。猛暑の影響が原因は不明です。井の頭池のトンボ調査に参加しましたが、井の頭池でも少なかったです。特徴はシオカラトンボより少し大きく、複眼は黒褐色です。オスは成熟すると白い粉を被り青灰色ですが、雌は黒に黄色の模様があり羽化後と幼虫は黒い模様があります。
シオカラトンボ	●(成・メス)オス 日	●(成・オス・メス)	●(成・オス・メス)	●(成・オス・メス)	●(成・オス・メス)		今年はシオカラトンボの群れ飛ぶ姿を多く確認しました。上水の林縁で採餌、休息しているのがよく見られます。産卵もしています。オオシオカラトンボより尾の先端の黒い部分が広く、複眼は青いのが区別点です。成熟すると灰青色の粉を被ります。雌は別名、妻わらトンボと呼ばれます。
コンアキトンボ	●(成)7月7日						都市に多い黒と白の体色を持つトンボで、オスの腹部の付け根の白い部分が空いた様に見える。コンアキトンボと名付けられました。今年は久しぶりに兵庫橋上流をハトロール旋回していました。木立に囲まれた池や沼に生息します。井の頭公園では池周りの木を伐採後、減少しました。道路整備前はヤブヤンマ、モノサシトンボと共に見られてい
ウスバキトンボ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		上水周辺や林や草はらの上を群れ飛ぶトンボ。旧盆から秋に数が増える。渡りをするトンボとして知られているが、発生場所やルートは知られていない。毎年、成虫は南方から台風などで運ばれると言われている。世代を繰り返して北上を続ける。日本では南西諸島を除く幼虫は越冬できず死滅してしまう。
ナツアカネ		●(成)	●(成・オス)	●(成・メス)	●(成・オス)9月16日		6月下旬ごろから羽化し秋に成熟する。オスは成熟すると全身真っ赤になる。アカアカネに似ているがナツアカネのオスの方が赤くなる。アカアカネのように遠距離移動はあまりしないようだ。真夏でも都会の公園で見つかる数が数は少なくなっている。胸の黒染は直角に断ち切られる模様が見られる。浅間橋上流で確認しました。
アカアカネ				●(成・オス・メス)9月23日	●(成・オス・メス)		9月中旬頃になると移動の時に都心でも見られますが、牟礼橋から浅間橋の間の葉を落としたり桜の上部の枝に50匹前後を確認しました。以前は下の方に降りてきたが、今年は草刈りされたばかりで、枝から降りている個体は少なかったです。普通に見られたアカアカネも田んぼの農業や水環境の変化などで激減しているのようで悲しいことです
コンシントンボ		●(未成熟・オス)8月5日	●(成・オス・メス)	●(成・オス・メス)			翅の先が黒いのが特徴のトンボで、上水の林縁で採餌、休息しているのが見られます。。上水内の下の枝に止まり採餌する姿が観察されますが、ここ数年、林床がササで覆われて採餌場所が無くなり確認することが少なくなっています。プールなど開けた環境にも産卵します
ノンメイトンボ					●(成・メス)9月23日		翅の先が黒いのが特徴のトンボで、浅間橋上流の林縁で採餌、休息しているのが見られました。9月中旬過ぎにアカアカネが出現する頃に見られました。近年、ノンメイトンボは減少し観れなくなっていて、コンシントンボより見かけることが少ないです。
マユタテアカネ					●(成・メス)9月18日		マユタテアカネ(東京都RDB区部EN)は浅間橋上流で2022.9.13に確認したことがあります。今年は杉並の上水では観察できませんでした。井の頭小鳥の森で8/1に観察しました。木立のある明るい池などで見られます。
ギンヤンマ	●(成・オス)7月30日		●(成・メス)8月8日	●(成・オス・メス)高源院8月20日	●(成・オス)神田川9月9日		今年は岩通の池がヨシやガマが繁りすぎて、水面を覆い尽くしていました。そのせいで、多くのトンボなどの水生昆虫が激減しました。今年はギンヤンマもクロスギンヤンマも確認できませんでした。冬場に池の再生に向けて改修が予定されているそうですが、トンボなど水生生物の復活を期待しています。
アジイトンボ	●(成・メス)						アオモンイトンボを小型にしたトンボです。高井戸公園トイレで確認しました。灯火に飛来した個体と思われます。少しオレンジ色の残る個体です。水草の多い明るい池に多く見られます。神田川で見られることがあります。
オオイトトンボ	●(成・メス)5月9日						2025年5/9浅間橋左岸上流の林縁で休息しているのを確認しました。上水では珍しいトンボです。全体的に黄色く、腹部に少し青みがある未成熟個体です。クロイトンボ、セシジイトンボに似ています。東京都RDB(CR)水草の多い明るい池で見られます。
ホソミイトンボ		●(成・メス)	●(成)		●(成)		昨年、浅間橋上流緑道で確認した細長いイトンボです。今年は岩崎橋上流側の上水内で、採餌や休息をしているメス複数個を何回か確認しました。間伐後に明るくなり観察するようになりました。クサグモの網に当たり、クモを狩るのを観察しました。オスは8～10節が水色ですが、メスは黒い斑紋があるそうです。眼後紋が繁りが、夏型と越冬型の
クロイトンボ	●(成・オス)6月21日 神田川						神田川では清水橋周辺部などでコナダモなどの水草が繁る場所でも多数、確認しました。高井戸公園の芝生でも確認しました。黒っぽい成熟したオスは粉をふいたように白くなります。胸部側面と腹部の先が青くなります。水草の多い明るい池に多くいます。
ショウジョウトンボ	●(成・オス)7月 旧岩通	●(未成熟・メス)8月5日 高井戸公園	●(成・オス)	●(成・オス)			今年は高井戸公園の野球場の芝生の地面で休息している未成熟個体を1匹確認しただけでした。旧岩通ガーデンの公園池で数匹が網羅りましたが、今年はメスの数が減りました。少しオレンジ色の残る個体です。水草の多い明るい池に多く見られます。神田川で見られることがあります。
アオモンイトンボ (旧岩通)	●(成・オス)				●(成・オス・メス)神田川8月26日		旧岩通ガーデンの池のガマやヨシが繁茂し水面が見えなくなり、イトンボ、ギンヤンマなどのトンボ類は減少しました。アオモンイトンボは(おろろ)して1匹だけ、旧岩通ガーデンの池の周りで確認しました。2022年4月25日に、旧岩通ガーデンの池ではホソミツツンボ(東京都RDB区部VU)を確認したこともあります。水生生物の再生を願って
オオシオカラトンボ (旧岩通)	●(成・オス)						今年はオオシオカラトンボは少なかったです。旧岩通ガーデンの池で数匹が網羅りをもってきましたが、岩通の池は水面がガマやヨシで繁り水面を覆ってしまったので、旧岩通ガーデンの池では確認できませんでした。水生生物の再生を希望しています。
シオカラトンボ (旧岩通)	●(成・オス・メス)	●(成・オス・メス)	●(成・オス・メス)	●(成・オス)	●(成・オス)		上水ではシオカラトンボの群れを観察しましたが、今年、旧岩通ガーデンの池では、とうとう水面がガマやヨシで覆われてしまいました。シオカラトンボをはじめイトンボ類やクサギヤンマなども観察できませんでした。冬場に池の再生に向けて改修が予定されているそうですが、トンボなど水生生物の復活を期待しています。
リスアカネ (旧岩通)					●(成・オス・メス)		(東京都RDB区部NT)2022.9.13に旧岩通ガーデンの池の周りの草むらに打産産卵していたこともありましたが、今年も確認できませんでした。翅の先に斑紋があるのが特徴です。成熟したオスは腹部が赤く、胸と頭が茶褐色になります。和名のリスはギリシスのトンボ学者リウス氏に因みます。木立のある明るい池で見られます。
ミヤマアカネ				●(未成熟・メス)8月19日			浅間橋上流左岸の林縁で食物を獲っている真っ赤なオスの個体を午前中に確認しました。午後から草刈りが入ったようです。見たと道路を越えて高井戸公園の樹林帯へ渡って移動していました。翅の先端から少し内側に帯状の褐色斑があるのが特徴です。胸部には斑紋がほとんどありません。小ぶりですが、美しいトンボです。
ヘビトンボ目							ネグロセンブリは、かつて上水内で確認しました。(東京都RDB区部VU)現在は確認できていません。井の頭ひょうたん橋でも確認しました(2015.5.5)。水生昆虫の仲間で、体色は黒く幼虫は肉食です。
コウチュウ目							
アオドウガネ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		一時よりは少ないですが、普通に観察される昆虫のひとつです。ムクドリやカラスなどの野鳥に捕食される姿を観察します。幼虫は土の上中で植物の根など、成虫はオニグルミやズナなど様々な葉を食べます。お房に毛が生えているのが特徴です。ヒメコガネくらの小さい個体確認しました。コガネムシ科のドウガネブイブイやヒメコガネは観れ
オオコフキコガネ	●(成)						以前は牟礼橋上流右岸の畑や屋敷林などに残る土壌環境が良好だった場所にみられました。体色が灰白色で丸みをおびます。毛の色ではコフキコガネと区別が難しいです。
コフキコガネ	●(成・メス)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成・オス)		以前は牟礼橋上流右岸などに多く見られました。周辺に雑木林や畑など残っていたので、土壌環境が豊かであったと考えます。体色が灰黄色、成虫はオニグルミなどに集まり葉を食べていました。
ヒメコガネ		●(成)	●(成)	●(成)			アオドウガネより小さく光沢がある葉色、以前は普通に多かったが、近年、確認できません。ブドウ、サクラ、クスギ、マメなど広葉樹の葉を食べる農業害虫で葉を食われます。土壌を豊かにし受粉を手助けする役割もあります。幼虫は朽木や腐葉土や芝の根も食べるので、浅い土壌に棲みゴルフ場でも発生します。暑さや乾燥に弱いです。
マメコガネ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		小さなコガネムシのなかまです。ノブドウの葉を食べます。最盛期には飛び回る群れを観察できます。他にマコ植物、イタドリも食べ、クワの花などにも集まります。日本から海外に持ち込まれた農業害虫として被害をもたらしました。北アメリカでは、ジャパニーズビートルと言われます。
シラカシハナムグリ	●(成)6月2日	●(成)8月11日	●(成)8月20日	●(成)	●(成)9月9日		シラカシの樹液に集まっていた。アカガシツ、ヤブガラシ、クワ科などヒメジョオンの花にも訪れます。少し黄色い花の香りが好きです。幼虫は朽木や腐葉土を食べます。体色は緑が多いですが、赤褐色や黒い個体も見られます。体には細かい毛が生えています。
ヒメトラハナムグリ	●(成)6月2日 高井戸公園						久しぶりに高井戸公園のカシワバアジサイで確認しました。上水では2020年8月上旬にクネズミモチの花などで確認してから見ていませんでした。マツバシイ、ウツギ、イボタキ、オオハイボタ、ユウボウなどの白色の花を好み集まり花粉や蜜を食べます。幼虫は朽木を食べます。ベイツ型擬態のハナムグリで、ハナバチに似る。個体数は少な
ヒラタハナムグリ	●(成)6月2日						初夏にミズギやコゴメウツギなどの白い花で発見することが多いです。黒い体に白い模様のある小さなハナムグリで、高井戸公園のカガクサジなどでも確認しています。幼虫は朽木を食べて育ちます。ハナムグリ類は土壌を豊かにし受粉を手助けする役割もあります。
セマダラコガネ	●(成)6月23日						マダラ模様のコガネムシで模様には変異があります。上水では近年、数化して見られます。草場で発生する。高井戸公園で芝根を食べて大発生しました。幼虫はゴルフ場で芝根を食べて大発生します。広葉樹などに多種多様な植物の花も食べ材木や庭の農業害虫で日本は重要視されないが、海外ではオリエントアルビートルと呼
ピロウドコガネ	●(成)6月2日	●(成)8月16日	●(成)	●(成)			体色は黒く、毛が生えているピロウドのようなコガネムシです。たまに確認します。普通種のコガネムシで似ている種類がいろいろいます。幼虫は朽木や腐葉土を食べます。幼虫は有機物や植物の根を食べます。
ヒメアシナガコガネ	●(成)6月						体色は薄緑黄色のコガネムシで長いです。毛が黄色いのでそう見えますが、地色は黒く黒い筋が入っています。白い花に集まり、樹木や蜜を食べたり、樹木の葉も食べます。近年、確認できませんが、ノイバラで観察したことがあります。幼虫は植物の根や有機物を食べます。
クロココガネ	●(成)7月8日						灯火につられて飛んできたのか夕方、腕にしがみついてきました。成虫は広葉樹の葉を食べます。幼虫は植物の根を食べます。体色は黒く、クロコガネに似ています。識別点は、前胸背前縁に沿って長い毛が生えています。クロコガネは毛がありません。
コイチャコガネ	●(成)6月20日						夕方浅間橋のコンナラの若木の根本付近で交尾する個体を確認しました。交尾後に速く土に潜り卵を産みつけます。灯火に集まることもありますが、灯火に集まる昆虫も多いようです。茶色の小型のコガネムシで、細かい毛が生えます。成虫はコナラやクスギの広葉樹の葉を食べ、幼虫は植物の根や腐葉土を食べ
シロテンハナムグリ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成・オス・メス交尾)	●(成)9月3日		旧岩通ガーデンの公園のクスギやシラカシの樹液に成虫が多く集まっていた。昨年は急に多くなりましたが、今年は昨年ほど多数でなく(普通に観察できました。今秋に岩通ガーデンの公園池でクスギが伐採されました。来年以降、他の箇所に出るとよいです。成虫は果実や花にも集まり、幼虫は朽木や腐葉土を食べ
シラホシハナムグリ(旧岩通)	●(成)		●(成)				クスギやシラカシの樹液にまいていました。頭の口の形がシロテンハナムグリに比べまっすぐで、全体が丸くこ足も短いです。シラホシハナムグリの方がシロテンハナムグリより虫の出方は細が多いようです。シラホシハナムグリは一時、2匹にはみられませんでした。近年、海岸などで急増した個体(外来種?)が内陸に分布を広げているら
クロカナン(旧岩通)	●(成)						艶のある黒い体色で、シロテンハナムグリより少し大きい。シラカシの太木で樹液を吸っていました。場所争いでシロテンハナムグリを叩き飛ばしてしまっ強さがありました。毎年、若草橋下流の幼稚園の前のコンナラの太木の樹液にきます。個体数は少なく、幼虫の期間は2年と長く、朽木や腐葉土を食べて育ちます。
カナン	●(成)						銅金色の光沢した体でシロテンハナムグリくらいの大きさです。緑の体色もいいです。構造などいいです。旧岩通ガーデンの甲虫の黒い樹液にきていました。そのクサギが今秋、なくなってしまうので、どこか他の場所に来夏まで生息するとよいです。上水内緑道に植栽したコナラやクスギが育ってきただで、ここでも確認しています。
カフトムシ	●(成)7月13日						武蔵野公園パートナーズの金本氏が、岩通ガーデンの樹液で久しぶりの確認(7/13) をお知らせいただきました。以前は成虫を確認していましたが、その調査期間に確認できませんでした。カラスなどが、カフトムシを食べた角が落ちているのをよく確認していました。
ノコギリクワガタ(旧岩通)	●(成・胴体部分)	●(成オス・メス)8月12日					旧岩通ガーデンの公園の植栽のシラカシで交尾中のペアを確認していた。カラスに食べられ胴体だけ落ちていたのを確認しました。武蔵野公園のパートナーズの金本氏が岩通ガーデンの樹液で確認(7/13) しました。今年もコクワガタ、ヒラタクワガタよりノコギリクワガタのみをみかけました。
ヒラタクワガタ	●(成)7月9日 宮下橋	●(成)8月4日					旧岩通ガーデンの公園のクスギの樹液で確認しました(東京都RDB区部VU) 個体により大きさに幅があります。上水では色々なクワガタをみますが、1年に1回は確認します。近年、塩化汚染やナラ枯れの影響が心配されます。
クワクワガタ	●(成オス)7月29日 岩通	●(成オス・メス)8月5日					旧岩通ガーデンの公園のクスギの樹液でオスメスを確認しました。アカボシマダラ、シラホシハナムグリ、ヨコボシオオクスギと場所を争っていました。今秋には甲虫の集まるクスギの樹液が伐採されました。岩通では大きな伐採、剪定があったので来年以降、継続し影響などみていきたい。浅間橋上流右岸では産卵痕を確認しています。
ザビキヨリsp	●(成)5月9日 9月7日	●(成)8月16日			●(成)9月3日		ザビキヨリはコムツキムシの中ではわかりやすい見かけの種類です。開発前は多種多様な種類のコムツキムシが見られました。回復を望みます。御向けに手を足をつけて死んだ真似をします。コムツキムシの名は、姿勢をもとに展す時に米をつぶような「カチカチ」という音がして、飛び上がります。脅くので、そうした隙に逃げます。
コムツキムシsp	●(成)5～6月21日 7月						翅の先に模様のある黒いコムツキムシ、上が焦茶で下が赤茶の小さなコムツキムシ。毛が多いコムツキムシなどだが種名は不明。コムツキムシは600種類くらい日本にいて見ても似ていて同定が困難です。専門知識や顕微鏡での観察なども必要です。同定にはWebサイト、博物館、専門機関に相談も良いでしょう。
クスノチビタマシ	●(成)	●(食跡)	●(成)8月20日		●(成)		クスの葉を食べる小さなチビタマシです。食痕を探すと見つかります。クズを食べる外来種のウスクビソウムシが勢力を拡大してからクスノチビタマシは減少しています。チビタマシは茶色に白い波型模様がある種類が多くどれも似ています。
ソーナンスチビタマシ	●(成)				●(成)		ウツギの葉を食べる小さなチビタマシです。食痕を探すと見つかります。チビタマシは茶色に白い波型模様がある種類が多くどれも似ています。
コウゾチビタマシ	●(成)	●(成)					ヒメコウソの葉を食べる小さなチビタマシです。食痕を探すと見つかります。体には赤いタラダニがにさんついていました。チビタマシは茶色に白い波型模様がある種類が多くどれも似ています。
ナミガタチビタマシ	●(成)7月7日	●(成)					ムクキの葉を食べる小さなチビタマシです。エノキの葉も食べることがあります。チビタマシは黒い体に白い波型模様がある種類が多くどれも似ています。
ウバタマシ	●(成)6月16日 高井戸公園						2024年、旧岩通ガーデン跡の公園の松れを少ししているマツに止まっていた。幼虫はマツ類、アカマツやクロマツの材を食べます。成虫は松の花粉を食うと考えられています。今年(2025年)は高井戸公園浅間橋近くのヒマラヤスギの下で死骸を確認しました。(東京都RDB区部VU)成虫で越冬します。
タマシム	●(翅)2024年7月28日	●(成)					一昨年(2023年)は岩崎橋下流のエノキの大木を何本か伐採したので確認できませんでした。今年は岩崎橋下流と牟礼橋下流でエノキやサクラの樹上を飛び回っているのを観察しました(東京都RDB区部VU) ケヤキ、サクラの大木の残った部分に産卵し幼虫は樹木の内部を食べて育ちます。伐採木を積み残し、甲虫が利用する場を設けてい
ヒメノミナガタマシ	●(成)2024年4月29日						中型のタマシムで菱形の紋のある長いタマシム。キンラン調査(2023年4月29日)の時に岩崎橋～浅間橋の開閉管理区域で確認しました。ケヤキ、ムクノキ、エノキの葉を食べます。樹皮下でチビタマシと一緒に成虫越冬していることもあるようだ。
ハナノミsp	●(成)6月2日 高井戸公園						高井戸公園のカシワバアジサイに見られました。近年、ハナノミを確認できません。理由として、林床が数化し間伐がない花が少なくなかです。数化の場所もある生物に必要ですが、明るい場所や木漏れ日の場所を好む生き物でもありますので、多様な環境の維持管理をお願い致します。他には、花のつく低木の強剪定、外来種駆除なども影響
ヒメマルカツオブシムシ	●(成)5月9日						初夏にハルジョオン、ヒメジョオンの白い花で見られます。近年は上水はヒメジョオンなど外来種駆除のため本種も見かけることが少なくなってきました。築堤や歩道などはヒメジョオンなど取りきれないの、そらで発生しています。幼虫は動物糞の繊維を食う害虫で、毛糸や絹の衣服、毛皮製品、動物や昆虫の乾燥標本、剥製などを食害し
トホシテントウ	●(成)5月16日 7月16日？		●(成)				ウリ科、ナス科が食草で、カラスウリが主な食草です。オオニジュウヤホシテントウのように大発生はしませんが、畑でも見かけますが被害はわずかです。
オオニジュウヤホシテントウ	●(食跡)6月17日 18日	●(食跡)	●(成)	●(食跡)	●(成)9月17日		ジャガイモやナスの害虫といわれます。上水では、ワルナスビ食べているのを確認しています。ニジュウヤホシテントウより多く見られます。肩が少し狭った体型をしています。
ニジュウヤホシテントウ	●(成)6月30日	●(成)8月12日					植物食のテントウムシです。薄褐色の体に黒い点があります。神田川と上水で確認しました。オオニジュウヤホシテントウより小さめで、星の数も少ないです。キウダマシの葉に穴を開けて食べたりします。ナス科のワルナスビの葉に穴を開けて食べたりします。畑のナス科を食べる農業害虫でもあります。
ナナホシテントウ	●(成)5月9日 6月？		●(成)8月8日	●(成)	●(成)		他の季節には見かけますが、猛暑の間は見られませんでした。暑さが少し緩んでから確認できました。アブラムシを食べるのとはよく知れていますが、ヤブガラシの蜜も吸っていました。
ナミテントウ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		他の季節には見かけますが、猛暑の間は見られませんでした。暑さが少し緩んでから確認できました。エノキの葉を吸うエノキワタアブラムシを食べますが、例年よりエノキワタアブラムシも少なかったのにナミテントウも見かけませんでした。
ムネアシロホシテントウ	●(幼)5月9日	●(成)7月28日					キロテントウと同じくらいの大きさです。サザ類、ケヤキ、エノキなどのうどん粉病源やアブラムシを捕食します。人間にとっては益虫になります。
ムネアカオオクロテントウ	●(成)7月12日			●(成)	●(成)10月6日 高井戸公園		頭が赤で、体が黒のテントウムシで大きい外来種テントウムシです。あまり増えてはいません。クズを食べるマルカメムシを食べますが、餌となるマルカメムシは、クズクビロハシムシがクズで大繁殖しているので、駆逐されているのが少ないです。
ハナグロオオテントウ	●(成)2023年						とても大きなテントウムシで、ムネアカオオクロテントウより大型です。体色に黒い点々があります。お腹が黒いので、ハラグロオオテントウと言います。桑の葉を吸うクワジラミを食べるので、益虫とされています。もとは西日本に生息していたが、温暖化で北上して関東へ分布を広げています。
キロテントウ	●(成)	●(成)7月28日			●(成)9月9日		体色は黄色く、ウドンコ病の菌を食べる菌食の益虫です。菌類がない場合は花粉などを代用として利用すると考えられています。キュウリの葉にアフリと一縷についていました。カラスウリ、ヤマグワ、ノイバラなどにもみられます。テントウムシより少しだけ小さめです。
ヒメカモノコテントウ	●(成)5月26日						斑紋に変異があり、亀甲型、黒紋型(オス)、四紋型、二紋型(メス)など多様で雌雄の見分けにも役立ちます。アブラムシを食べます。ナミテントウよりは小さいです。
モンクテリテントウ	●(成)6月30日						キロテントウより小さく、すばしこいテントウムシです。交尾中の個体も確認しました。アブラムシを食べます。沖縄で記録され分布を広げている移入種です。よく見ると毛が生えています。ケヤキの樹皮下で越冬をします。
ダンダラテントウ	●(幼)7月28日		●(幼)	●(成)			他の季節には見かけますが、猛暑の間は見られませんでした。エノキの葉を吸うエノキワタアブラムシを食べますが、例年よりエノキワタアブラムシも少ないので、ダンダラテントウも見かけませんでした。
クロカミキリ		●(成)2021年8月9日					3年前(2022年)に旧岩通ガーデン跡の公園のシラカシの大木の幹で確認しました。黒い体色でクワガタに似ています。触角の形状が数珠型で違います。灯火にも集まります。井の頭公園では今年、トイレ周辺で確認したそうです。日が暮れてから針葉樹のヒノキ、マツなどの伐採木に集まります。
トラフカミキリ	●神田川6月30日	●(食跡)？					東京都RDB区部NT です。大木の桑につくカミキリです。今年は上水では確認できませんでした。一昨年の神田川で観察会の時に確認しました。上水で確認したのは2023年になります。上水は大きな桑が多いので2、3年に1回は見るカミキリです。桑に食痕はあるので生息はしているようです。
リンゴカミキリ	●(成)2021年6月27日						牟礼橋下流や浅間橋上流の桜の枝で見られました。ハナコ植物に集まり葉や枝などを食害します。頭や翅の黒い(僅か橙色の小さい)カミキリです。似た種類が複数いますが、本種の上翅は黒色部分が遠近から透しにくいことで区別できます。ハナチに似ています。
クワカミキリ	●(成)6月21日	●(食跡)	●(成)8月20日				1年に1回は見かける桑の木を食べるカミキリです。トラフカミキリは若いクワを食べるようですが、クワカミキリは若いクワを食べるようです。少しシラカシの枝に3匹一緒に見られました。幼虫が樹木の内部を食べますが、樹木や地面に幼虫の出た木屑のような糞が落ちていることがあります。他にイチジク、ビワ、ヤナギ、リンゴ
ゴダラカミキリ	●(成)7月		●(成)8月18日				毎年、確認しているカミキリムシで、体色は黒に白い点々模様があります。若い桑に上ることが多いです。近年、外来種のツバハダゴダラカミキリも現れているそうです。サクラを食害するクビアカツバカミキリも共に確認していません。つかやとキーキーと音を立てるのでビクッります。他にイチジク、ミカン、プラタナス、センダン、ウルシ科など
キボシカミキリ	●(成)6月30日	●(成)					毎年、確認しているカミキリムシで、体色は黒色に薄黄色い点々の星模様があります。若い桑の葉を食べるのをよく見かけます。他には、ミカン、イチジクなどを食害します。大きな、色、斑紋に個体差があります。触覚はオスの方がメスより長いです。
キウスイカミキリ	●(成)5月19日 7月？			●(産卵跡)8月23日			セシタカワダテウやヨボシのキでクワ科植物で茎が萎れている産卵跡がみられました。例年、夏の期間以外に成虫が産卵しているのを観察しています。キウ栽培の害虫でもあります。体色は黒く、前胸部に赤い模様があります。一見して黒にしているの、ホタルムシと呼ぶ人もいます。
ラミカミキリ	●(成)6月9日						体色は青白色に黒い斑紋のある外来カミキリです。上水や神田川で確認しました。1度には3匹確認(2025.6.2神田川) することもあり、目にする機会が増えています。ヤブヤンマやカラムシに産卵するので、ラミカミキリといいますが、高井戸公園では、植栽のムクゲにも産卵(2025.5.26)していました。
アラハナカミキリ	●(成)2024年6月24日						幼虫は針葉樹、松、ハシノキ、クスギなどを食べて育ちます。ウツギ類など白い花の花粉を食います。体色は胸部と上翅が赤く、腹部、触覚、脚の基部などが黒いです。ベニハナカミキリは新種のケヤキ大木で確認したことがあります。
ハイイロヤバズカミキリ	●(成)2024年4月29日						灰白色の微毛に覆われ、上翅の先端が矢筈型に尖っています。枯れた竹類に産卵し、節の間で成虫越冬して、春に脱出します。ヨシ、ススキなども食べるそうです。キンラン調査(2023年4月29日)の時に岩崎橋～浅間橋の開閉管理区域で確認しました。
カスジトラカミキリ	●(成)2024年4月29日						蛹に擬態するカミキリです。幼虫はケヤキ、サクラ、クスギ、コナラ、イヌシデ、カキなどいろいろな伐採木を食べます。アリ、ガリマズミ、ノリウツギなどに花に集まります。キンラン調査(2023年4月29日)の時に岩崎橋～浅間橋の開閉管理区域で確認しました。
ヤバズカミキリ	●(成)2020年6月上旬	</					

アトジロサビカミキリ	●(成)2020年7月上旬					2020年7月上旬、浅間橋上流でアトジロサビカミキリを確認したことがあります。クワ、クリ、シイ、ヌルデ、アカメガシワ、ミカン、スギ、フジなどを食べます。各種、広葉樹の枯れ枝の樹皮や枯れ葉を食べます。上翅に白く太い帯があります。
モモブトカミキリモドキ	●(成)3月25日					高井戸公園北地区周辺の民家のリキュウバイの白い花に來ていました。後脚の腿が太く特徴的です。花粉や蜜を食べます。黄色の花にもきます。幼虫は朽木や枯れたススキの茎の中で育ちます。
ツマアカオジョウカイモドキ	●(成)2024年4月29日					岩崎橋下流右岸の閑静区域で2024年4月29日のキンラン調査の時にハルジオンの花の上で花粉と蜜を食べる金属光沢の青色のオスの個体を確認しました。お尻が尖り特徴的でした。
キバラリクビボソハムシ	●(成)6月30日	●(成)				ツクサが食草のハムシで、葉の上で見られることが多いです。環境色でお尻が黄色いのが特徴のハムシです。
クズクビソハムシ	●(成)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	中国産の外來種で、2016年に東京都目黒区で確認されてから猛威を奮っています。クズの葉に丸い特徴的な食痕を残します。幼虫は成虫より大食漢で葉の無くなり方が大きいです。クズにつく在来種のコフキゾウムシやマルカメシは減少しています。他にもコスミズショウ、オジロアシナガゾウムシなどクズにつく在来種は多いので経緯を見守
トホシクビソハムシ	●(成)5月26日(幼)6月17日	●(食跡)			●(食跡)	クワが食草のハムシで、頭は黒く茶色の上翅には黒い点があったりと個体差があります。幼虫は自分自身の身を守ります。
キイロクビナガハムシ	●(成)6月30日					浅間橋～岩崎橋のオニドコロで確認しました。食跡が目立つのでいることがわかります。サルトリイバラなども食べるようです。
ヤツボシハムシ	●(食跡)(成虫)7月7日	●(食跡)	●(食跡)	●(食跡)	●(食跡)	エノキが食草のハムシです。黒に橙、橙、黒など体色には個体差があります。エノキの葉の食べ跡で探すと確認できます。
コガタルリハムシ	●(成)5月19日					イタドリを葉を食べる環境色のハムシです。兵庫橋下流右岸や神田川で初夏に観察しました。
キボシツツハムシ	●(成)6月16日					初夏に上水や神田川の林縁で見られました。黒に黄色の模様のハムシです。卵を糞でつつみ地面に落とします。ブナ科、クスノ科、ムクロジ、トウダイグサ科、ヤブコウジ科で見られます。高井戸公園ではイタドリで確認しました。上水ではアズマネザサの上にいました。
クロボシツツハムシ	●(成)2024年4月21日					サクラ、クスギ、ハンノキが食草です。浅間橋の林床にはクスギの稚樹が群落で生えていた場所で確認しました。サクラ、ノイバラ、クスギなどが食草です。赤に黒色の模様のツツハムシの仲間です。成虫はテントウムシに擬態しています。卵を糞でつつみ地面に落とします。幼虫の状態を冬を越します。
イタドリハムシ	●(成)6月16日高井戸公園					初夏に見られる赤と黒の大型のハムシです。個体差が黄色と黒のイタドリハムシもいました。神田川、高井戸公園で確認しました。上水では確認できていません。イタドリが食草でイタドリの上でみられます。上水では明るくなり増えてきた種類です。以前はあまりみられませんでした。スイバも食べます。テントウムシの色に似ていて幼虫も形が似
オオアカマルノミハムシ	●(成)7月7日					センニンソウやポタンヅルの葉を食べます。体色が真っ赤で目立つハムシです。一時はたくさんいましたが、近頃は少数を確認しています。ノミのように後脚が発達して、逃げる時にノミのように跳ねます。アカマルノミハムシ、オオキイロノミハムシなど似ている仲間がいます。
ルリマルノミハムシ	●(成)		●(成)		●(成)	よく観察する普通種で、体色は青黒く光沢があるノミハムシです。ヒメジョオンやタンポポの花などの花粉や蜜などを食べます。ノミハムシの仲間は、後脚が発達しビョンとノミのように飛び跳ね逃げます。
アカガネサルハムシ	●(成)6月2日					紅色に光る体色のハムシです。ノブドウ、エビヅルなどブドウ科が食草で若葉を食べます。産卵は地面の落ち葉や石の下で行われ、幼虫は孵化すると地中に潜り、ブドウの根を食べて成長します。根の方はあまり害はないようです。成長の早いものは年内に羽化し成虫で越冬します。落下して死んだふり(擬死)をすることもあります。
アオハネサルハムシ	●(成)6月21日高井戸公園					広食性のサルハムシの仲間で、高井戸公園ではマメ科のハギにたくさんついていました。青や赤など個体差があり、光沢のある体差があります。ヤナギ、ヨモギなどの葉も食べます。
ヤマノイモハムシ	●(成)6月17日					ヤマノイモが食草のクビソハムシの仲間です。新芽や新葉を食べます。成虫は、頭部が赤く、上翅が青黒い体色です。幼虫は身を守るために自分の糞を背負って擬態します。
ドウガネサルハムシ	●(成)	●(成)8月?			●(成)	やブラガシが食草のサルハムシの仲間です。体色は銅金色で、素早い動きですぐ逃げて写真撮影するのが難しいです。
ヨモギハムシ	●(成)6月2日					緑色に光るハムシです。草地に多くいて、兵庫橋下流のヨモギで確認しました。同じキク科植物のヤマロウ科などにも食べるようです。成虫で越冬します。
ニレハムシ	●(成)5月9日 7月24日			●(成・幼)	●(成・幼)	サンゴジュハムシに似ています。体色は上翅は黄褐色ですが、腹部が黒く、腿が黄褐色です。クスギやケヤキなどニレ科の葉を食べます。葉についた食べ痕で確認できます。今年は浅間橋下流のケヤキで成虫や幼虫がたくさん確認できました。ニレハムシは夏の期間活動しますが、サンゴジュハムシはお休みして少ないです。
サンゴジュハムシ	●(成・食跡)	●(食跡)				ガマズミの葉を成虫も幼虫も群れて食べべだらけにしています。ニレハムシに似ています。体色は上翅、腹部も黄褐色でススキは黒いです。サンゴジュ、ゴマギなどのサンゴジュ科の葉も食べます。幼虫は葉を食べて、成長すると地中に潜り蛹となります。7～8月は夏眠期です。
クロウリハムシ	●(成)	●(成)8月14日	●(成)	●(成)	●(成)	よく見られる普通種で、黒いお腹に黄色い頭のハムシです。ウリ類など様々な葉を食べます。カラスウリの葉によくついています。成虫は日当たりの良い草むら、ブロック塀の隙間などで集団越冬し春に活動を開始します。幼虫は根を食べ成虫は葉を食害し繁殖力が高いので、割りと多く見られます。
ムシクソハムシ	●(成)5月1日					岩崎橋上流のケヤキの葉の上で見られました。糞に擬態して食べられるのを防いでいるハムシです。よく見ると糞だと思っているのに脚があって驚きます。あまり動くのはまだ見たことがありません。
ツツジコバムシ	●(成)6月2日高井戸公園			●(成)9月16日		高井戸公園の神田川沿い林縁に植栽のツツジに見られます。糞に擬態し食べられると行方わからなくなります。よく見ると糞だと思っているのに脚があって驚きます。あまり動くのはまだ見たことがありません。
ヨツムカメコハムシ	●(成)7月28日?	●(成)8月6日	●(成)			大きなカメコハムシの仲間で、国内外来種として分布を広げています。食草のサツマイモの仲間ヒルガオなどで見られました。ヒルガオの上に繁るヨウシュヤマゴボウの葉の上でも観察されました。
イチモンジカメコハムシ			●(幼)8月8日		●(食跡)	ムラサキシキブが食草のカメコハムシの仲間です。食痕は見ましたが成虫は確認できませんでした。幼虫は脱皮殻をつけています。井の頭公園では確認しました。
ヘリグロテントウノミハムシ	●(食跡)	●(食跡)	●(成)	●(成)		てんとう虫を丸く小さくしたようなノミハムシの仲間で、体色は黒く、背中に赤い二つの紋があります。イボタの葉などモクセイ科の植物が食草で、葉に小さい丸い穴を空けて食害します。モクセイ科はネズミモチやヒラギモクセイなど垣根に使われるのが多いので、見た目が悪くなり、小さい割に大食漢で驚きます。お尻に二つ棘?のようなものが
テントウノミハムシ	●(成)6月21日	●(成)	●(食跡)	●(成)		ヘリグロテントウノミハムシに似ていますが、少し小さく前の脚あたりがでっぱっています。ハバチの幼虫と一緒にモクセイ科のイボタの葉の上で確認しました。ヘリグロテントウノミハムシを確認したイボタとは別の木でした。
ブタクサハムシ	●(成)6月21日神田川					神田川のオオブタクサで確認しました。ブタクサやヒマワリ(キク科)も食べます。薄茶色の体に細く黒い縦線があります。幼虫はイガイがしています。卵はオレンジ色。北米原産の甲虫です。
エゴツルクビオトシブミ	●(成)6月17日					エゴノキの葉を巻いて、振籠をつくり中に産卵をします。産卵後は巻いた葉に地面に落とします。そのことから「落し文」の名前がつけられました。オトシブミ亜科の幼虫は葉を食べて、中で蛹化、エゴノキの新芽が展開する頃に羽化をします。葉に穴がぽつぽつ開くのが成虫の食跡で、出てきた印です。オスは長い首を持ちますが、メスの首は長
コフキゾウムシ	●(成)	●(成)	●(成)	●(食跡)		クズの葉の周りを食べるゾウムシです。食痕で虫の種類を見分けることができます。クスノチビタマシの食べ跡に似ています。クズクビソハムシが勢力拡大してから場所を奪われ減少しています。減少する前に爆発的に増加した時期(2019年)があり、葉の葉上に密にコフキゾウムシが見られたことがありました。
スグリゾウムシ	●(成)7月28日	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)9月16日	擬木や植物の上、よく目にするゾウムシですが、じっとして、地面に落ちると逃げると行方わからなくなります。今年は猛暑で乾燥しているせいも数は少ないです。
ヒレルクチブトゾウムシ	●(成)7月7日	●(成)8月?	●(成)			口吻が短いクチブトゾウムシの仲間。上翅は灰褐色で中央付近は褐色。後方には1対の黒い紋がある。ツツジの葉で観察された。サクラ、ウメなどの葉を食べます。広葉樹から落ちてきたのかもしれない。
カシワクチブトゾウムシ	●(成)5月13日					口吻が短いクチブトゾウムシの仲間。コナラ、クスギ、カシワなどの葉を食べます。ヒレルクチブトゾウムシより茶色っぽく細かい縦紋があります。動作はゆっくりですが、近づきすぎると自ら落ちて逃げる(擬死する)などの方法で敵から逃げます。
サビショウタンゾウムシ		●(成)		●(食跡)		口吻が短いクチブトゾウムシの仲間で、ヒョウタンのような体型から名前がつけました。サツマイモ、ラッカセイ、コボウ、ニンジン、ネギ、キク、ジャノヒゲなどの根や葉を幼虫も成虫も食べます。浅間橋から岩崎橋で成虫が食べたヤブランの葉の食痕(円形から半円形)を確認しました。
エゴヒゲナガゾウムシ	●(産卵跡)	●(産卵跡)	●(産卵跡)	●(産卵跡)		エゴノキの葉に穴を開け産卵します。雄の顔は白くて牛のような顔に見えることから別名ウシワラヒゲナガゾウムシと言います。今年は葉に開けた産卵痕は確認しましたが、成虫は見ることができませんでした。
コナラシギゾウムシ		●(成)		●(産卵痕)		シギゾウムシは猛暑の夏は観察できませんでしたが、暑さが少し緩んできたから成虫を確認しました。
クスギシギゾウムシ		●(成)		●(産卵跡)		今年、シギゾウムシの仲間の成虫は観察できませんでしたが、産卵して落とした実と枝を確認しました。
ツツジゲムネサルゾウムシ	●(成)6月16日高井戸公園					ツツジの蕾が着る頃に現れ始め花や新葉を食べます。食べた葉は黒くなり丸くなり、その中に隠れたりします。幼虫は蕾の内部を食害し、地面に降り土の中で成虫になります。上翅と頭の境目にトゲがあり、死んだふりをして、すぐ、ポロリと落ちて逃げます。
ハイロチョッキリ		●		●(産卵跡)	●(産卵跡)	昨年はシギゾウムシの仲間は観察できませんでしたが、ドングリの実と産卵して落とした実と枝を確認しました。チョッキリ亜科の幼虫は実を食べ、土の中で蛹化、羽化します。
オジロアシナガゾウムシ	●(成)6月16日	●(成)8月6日			●(成)9月18日	9月になり観察されました。クズの葉に産卵します。上水の保全作業でクズをだいぶ間引いたので、その影響がはいか心配している昆虫です。
ヒメゾウムシssp				●(成)		ウツギの葉を食べる小さな黒いヒメゾウムシです。ソーダースズビタマシと一緒に見られましたがそれより小さい大きさでした。2匹以上確認しました。
トウキョウヒメハシモウ (旧岩通)				●(成)		一昨年、旧岩通ガーデンの公園で確認している。宮下橋上流の公園の右岸でよく見られましたが工事後、確認できなくなりました。
ヨツボシオオキスイ	●(成)4月30日 7月	●(成)				コナラやクスギなどの樹液に日中集まります。黄色い斑紋が4つあります。似ている種類にミナピロオオキスイがあります。前翅の縁の隆起が部分的にくびれています。
ヨツボシケンキスイ	●(成)6月9日					ケンキスイの仲間には、赤や黄色の斑点や帯を持つものが多数います。彼らの食性は、腐敗した植物、発酵した果実など、多岐にわたりますが、本種は、コナラやクスギなどの樹液に集まります。赤い斑紋が4つあります。他の昆虫の幼虫も食べます。
アカマダラケンキスイ	●(成)6月9日					ケンキスイの仲間には、赤や黄色の斑点や帯を持つものが多数います。彼らの食性は、腐敗した植物、発酵した果実など、多岐にわたりますが、本種はコナラやクスギなどの樹液や腐った果実に集まります。上翅に単色の黒と赤の斑紋があります。ヨツボシケンキスイより小さいです。
ハムシダマシ	●(成)7月7日					ゴミシダマシ科 別名オオメバネハムシダマシ ハムシに似ています。頭部、胸部は黒色、上翅は赤褐色で毛が密生しています。幼虫は朽木や落葉の下で腐植物を食べ育ちます。
コムシアゴミミシダマシ	●(成)					朽木が増えたせいなのか、2023年にはコムシアゴミミシダマシを多く確認した時があります。タガにになると弱った気の神に群れて現れます。灯火にも集まります。
ハネカクシssp	●(成)7月7日					コウチュウ目ハネカクシ上科ハネカクシ科 前翅が小さく、ここに大きい後翅を細かく折りたたんで隠しているようにみえることから、この名がつけました。多くの種類がいます。お尻に針があり、お尻を持ち上げて威嚇します。体全体にも毒があるので、潰さないように払いましょう。
キマワリ	●(成)6月24日					立ち枯れ木や弱った木や擬木上などでみられる。日中、樹皮の上を歩き回る。オスの体型は細長く、メスはやや幅広い。
チョウ目(チョウ類)						チョウ・ガは減少している。異常気象、経年変化、開発の影響が考えられる。食草はあるようだが、緑道に花や樹液が少ないのも影響している。テングチョウ、ウラナミアカシジミ(東京都RDB区部VU)、ミズイロオナガシジミ、アカシジミ(東京都RDB区部VU)、トラフシジミ(東京都RDB区部VU)などは開発前はいたが今年は確認していない。
アゲハ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	朝は上水で羽化したばかりの個体が見れますが、星は上水内を飛び回りつつとしています。クサギやヤブラガで吸蜜する姿が観察できます。上水には花が少なく蜜源が乏しいのが難点です。アゲハが4頭同じ場所で休んでいました。
キアゲハ	●(成)		●(成)	●(成)	●(成)	セリが食草。上水の上流部の明日葉がある畑付近ではよくみられる。コセンダングサの群落付近で羽根で現れた。アゲハとの見分けは、本種の方は羽根の根元付近が黒い。
アオサゲアゲハ	●(成・食痕・産卵)	●(成・産卵行動)	●(成)	●(成)	●(成)	上水内のヤブラガの蜜を吸いこきていた。クスノキやシロダモ、緑道に植栽のヤブコウキイによく見られた。上水内にはニッケイが増えている。
クロアゲハ	●(成)6月21日	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	柑橘類が食草。上水では良く観察できる蝶だが、ここ数年減少中、猛暑が原因か? 畑で農業散布の影響か? 不明である。
ナガサキアゲハ	●(成)7月?			●(成) 8月23日	●(成)	クロアゲハに似ている。尾状突起がありません。クロアゲハより暑さに強いのか見かける。南方系で北上中の蝶のひとつ。
ジャコウアゲハ	●(成)6月27日 高井戸公園	●(成・メス・幼・卵)	●(幼・卵)	●(幼虫)	●(成)9月2日	ウマノズクサが食草です。柵どこかにウマノズクサを刈り取ってしまわないように残してください。ウマノズクサにマーキングを行う。柵に掲出予定。 RDB掲載種 ウマノズクサを刈り取るのでジャコウアゲハも見られる機会が減っている。
カラスアゲハ	●(成)	●(成)	●(成)8月8日	●(成)		今年は確認できなかった。蝶の食性はあるようだが、今年は緑道に花が少ないので、蝶がくる花があるといふ。
ツマグロヒヨウモン	●(成)上水周辺部	●(成・オス)	●(成)		●(成)10月6日高井戸公園	スミレが食草。ビオラやパンジーにも産卵する。幼虫は黒に赤のトゲグレの目立つ姿をしている。南方系で北上中の蝶のひとつ、コセンダングサの花に來ていた。
キタキチョウ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	植栽のハギ、ネムノキ、ヤマソノウ、モドハギなどマメ科が食草。草刈りでなくなることがあるので、ハギを残すようにしていただきたい
モンシロチョウ	●(成)6月21日	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	市民農園が上水沿いにあったときは食草が豊富にあったのでその姿を見かけた。今でも多くはないが住宅地の庭などにその姿は確認する。上水内に蜜源は少ないがヒメジョオンやインコツツ、コセンダングサなどに訪れる。
スジグロシロチョウ	●(成)					ツマキチョウやスジグロシロチョウは近年は減少している。食草のシヨクサイや蜜源が外来種で駆除されるのも原因のひとつ。在来種のイヌガラシ、ナズナ、タネツクバナけも食草。
ツバメシジミ	●(成)	●(成)		●(成)9月30日	●(成)	今夏は確認していない。昨年はインコツツで吸蜜していた。ハギやシロツメクサなどの食草でもみかけが、今年はハギやシロツメクサの花も猛暑で少なかった。
ヤマトシジミ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	食草のカタバミは多いのでよく見られる身近な蝶。ムラサキカタバミでは育たない。
モンキチョウ	●(成)7月30日	●(成)	●(成)			ムラサキツメクサ、シロツメクサ、カラスノエンドウ(毒)などの食草があるので、今年は草地環境の高井戸公園や岩通ガーデンや岩崎橋下流で見られた。食草のムラサキツメクサ、シロツメクサ、は外来種だが、上水内の暗い場所への侵入は難しいようだ。
ルリシジミ	●(成)7月	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)9月18日	植栽のハギによくきていたが猛暑の時期は確認できなかった。草刈りでハギをなくさないでほしい。ゼフィルスの仲間(アカシジミ、ウラナミアカシジミ、ミズイロオナガシジミ、トラフシジミなど)も観察できていないので回復を願う。
ウラナシジミ		●(成)8月3日		●(成)9月14日	●(成)	秋に数が増える蝶。食草のクズが生える兵庫橋上流下流や岩崎橋下流で観察できる。
ベニシジミ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		旧岩通公園や兵庫橋下流、高井戸公園の草地で見られる。春はセイウタンポポ、ヒメドリコソウ、ホトケノザ、夏はコセンダングサ、アザミ、セイタカアワダチソウなどで吸蜜する。ギンギンが食草。外来ギンギン駆除の時に失われる。草刈り時期を考えたい。
ウラギンシジミ	●(成)7月23日	●(成)	●(成)8月21日	●(成)	●(成)	クズが食草。クズが繁茂しているのによく見られる蝶。花に産卵するのでクズクビソハムシとの競合は少ないようだ。裏が銀色で、オスは裏が赤く、メスは裏が水色と茶色。幼虫は花や草からかい葉を食べる。ピンク色で花に擬態する。お尻に突起があり、刺激するとポンポンを出し威嚇する。
ムラサキツバメ		●(成)8月12日	●(成)	●(成)9月18日	●(成)9月4日	今年、違う時期に久我山上水で確認した(ムラサキシジミも確認した)マテバシンのひこばえにアリと共生する幼虫を岩通ガーデンで観察したことがある。南方系で北上中の蝶のひとつ
ムラサキシジミ	●(成)7月24日			●(成)9月4日		アラカシなどが食草でたまに見られる。道路整備前は相当多くの数を確認している。ゼフィルスの仲間(アカシジミ、ウラナミアカシジミ、トラフシジミなど)も観察できていない。
コムラサキ	●(成)7月21日					岩通ガーデンのクスギの樹液を吸っていた。午後には高井戸公園のクスギの樹液を吸っていた。同一個体かは不明。ヤナギ、エノキなどが食草。
ルリタテハ	●(成)7月	●(成)		●(成)	●(成)	ナラ枯れの影響がコナラの樹液に上るサトキマダラヒカゲなどの蝶は少ないがルリタテハは上水内の食草のユリやシオデ、サルトリイバラや周辺の住宅地で食草のホトケグスがあるため観察された。岩通ガーデンの樹液にも來ていた。
キタテハ	●(成)上水 7月			●(成)9月24日		花だけでなく樹液や獣糞などにも集まる。食草はカナムグラ。色が淡橙色の夏型と切れ込みの深く濃橙色の秋型という季節型が知られる。成虫越冬する。今夏は食草のカナムグラが杉並上水にいないので観察することが少ない。猛暑を避けて出現している。
ヒメアカタテハ	●(成)7月24日上水周辺		●(成)8月20日		●(成)9月30日高井戸公園	ミントの花やコセンダングサに來ていた。蜜源が上水内には少ないので花がどこかにあるとよい。ハハコグサ、ヨモギなどが食草。
アカタテハ				●(成)		岩通跡の公園のクスギで観察した。ルリタテハ、アカボシゴマダラとともに樹液を吸っていた。カラムシ、ヤブオオ、カララシが食草。葉を半分に折った中に隠れているが、近年は鳥によく食べられている。周辺の花と緑の広場で観察。蜜源が豊富。近隣にあるので生物多様性上、重要な花畑。他にオオハキリバチ
ホシミスジ	●(成)7月24日	●(成)	●(成)8月8日	●(成)8月26日		見かける機会が増えてきた。食草のユキヤナギ、シモツケ、カエデなどが上水や渠堤や高井戸公園にも見られる。他にコデマリなども食べる。食草が園芸種で植栽されることも多い。東京都RDB掲載種だが、近年分布拡大が進んでいる。
コムシズショウ	●(成・幼虫)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	食草のクズが増えているので確認される蝶のひとつだったが、クズクビソハムシとの競合で場所を奪われ影響を受けているかもしれない。
ゴマダラチョウ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成・幼)		食草のエノキが多い割にはアカボシゴマダラより数は少ない。幼虫が暗くなってから擬木を歩いていた。
アカボシゴマダラ	●(成)	●(幼虫)	●(成)	●(成)	●(成・蟻族げ殻)	生態系被害防止リスト掲載種。総合対策外来種。特定外来種指定。奄美大島周辺の島々にももとの在来種がいたが、1995年に秋ヶ瀬公園などに突如として現れた。その後関東を中心に分布の拡大が続いている。外見上の特徴から中国大陸の亜種に由来と推定される。人為的な放蝶といわれている。ゴマダラチョウとの競合が懸念される。
サトキマダラヒカゲ	●(成)6月21日	●(成)8月14日	●(成)	●(成)	●(成)	ナラ枯れの影響で樹液の出る木が少なくなったのも見かけなくなった原因のひとつ。夏の間は確認できなかった。ヒカゲチョウ、ヒメジャノメは調査日以外で見られた
ヒカゲチョウ	●(成)6月21日7月			●(成)8月26日	●(成)9月9日	日本固有種。成虫は年2回、5.6月と8.9月に見られる。樹液や腐った果実にも来る。食草はアズマネザサなどを食べる。近年、下生えのササが繁っているので本種を確認する(東京都RDB区部NT)
カマダラセセリ	●(成)7月29日	●(成)8月12日	●(成)8月21日	●(成)8月26日		少なくなった蝶のひとつだが、もともと夏の間は発生は少なめだが、食草のアズマネザサやススキが多いので今年は少数だが確認した。
イチモンジセセリ	●(成)7月7日	●(成)8月12日	●(成)	●(成)	●(成)	イネ科(ススキ、エノコログサなど)やヤカリツツグサ科が食草。後翅裏の模様が一文字に並んでいるのが名前の由来となっている。敏捷に飛び、花、糞、腐果に集まる。
チャバネセセリ	●(成)7月7日	●(成)8月12日	●(成)8月12日	●(成)	●(成・幼)	イネ科(ススキ、エノコログサなど)やヤカリツツグサ科、タケ科が食草。ススキに幼虫が見られた。敏捷に飛び、開発前はオオチャバネセセリも見られた。
ミズイロオナガシジミ	●(成)6月17日					昨年は見かけなかったが今年は確認できた。ナラ枯れの影響はあるのか不明。杉並では枯死した大木もあるが、若木が育っている。続けて出現を確認したい。
ダイミョウセセリ	2020年7月27日	●(巣の跡)	●(蛹)8月23日			近年みかなくなつた蝶。葉にある巣もみかなくなつた。食草はヤマノイモ、オニドコロ。食草の蔓草をダイミョウセセリのために残したい。東京都RDB 区部VU。翅を半開きにして止まる。関西型は後翅にも白斑があらわれる。
ヒメジノメ	●(成)	●(成)8月	●(成)8月23日	●(成)9月24日		5月下旬から10月に見られる。年3回の発生も。樹液や腐果、糞に集まる。食草のイネ科植物やヤカリツツグサ科などを広範囲に食べる。コジャノメは白帯が湾曲していて、眼状紋の差がある。又、暗い樹林内を好む。
チョウ目(ガ類)						蛾類は食べられることが多いのか今年は種量もあり、少ない印象でした。昨年、浅間橋近く高井戸公園にてコンアカスカンパを確認(東京都RDB区部NT)
ヨモギエダシヤク	●(成)6月17日				●(成)9月14日	クワ、バラ、ミカン、ツバキ、セリ、キク、マメ科が食草。落ち葉の下や土の中で蛹化する。
リンゴツノエダシヤク		●(成・オス)				ヤナギ、ブナ、ニレ、バラ、カエデ、ツツジ、キク科など広食性。
ツマジロエダシヤク	●(成)7月23日					クスノキ、モクレン科などを食べる。トナリの中にいたので灯火にあつまようです。
オオトビシエダシヤク				●(成) 9月9日		ヤナギ、ブナ、ニレ、バラ、マメ、ツバキ、キク、スギ、スイカズラ、トウダイグサ、タデ、サクラソウ科など広食性。

クロクモエダシャク				●(幼)		ヒノキが食草、杉並では右岸にヒノキが多く植栽されている
ヒロオビトンボエダシャク	●(成)6月16日					ツルウメモドキ、マユミが食草。幼虫は擬木を歩く姿を、成虫は林内を群飛する姿を見かける。
ウスグロナミエダシャク	●(成)6月2日					食草はオニグルミなどのクルミ科。年2化　5、6月　7、8月開帳　22～30センチ
ニトベエダシャク	●(幼)4月27日					広食性　サクラ、クスギ、コナラ、ヤマグワ、シラカシ、モクセイ科、スイカズラ、ツツジなどを食べる。4、5月に擬木に落ちたり、葉に付いている個体を観察することが多い。
フタテンオエダシャク	●(成)5月19日			●(成)9月30日		マメ科のネムノギが食草。兵庫橋右岸や岩通ガーデンで確認した。開通前はネムノギはなく、何本か植栽したので、カギバトモエやオオクモヘリカメムシなどネムノギを食草とする昆虫を見る機会は多くなっている。
ウスオエダシャク				●(成)10月14日		マメ科(ヤマハギ、ヤハズソウ、メドハギ)が食草。岩通ガーデンにて確認食草が多い。大きさは前翅長12～13ミリ、フタテンオエダシャクに似るが、尾状突起がほとんどない。
フタナトビヒメシャク	●(成)5月1日	●(成・幼)8月11,12日		●(幼)		小さなシャクトリムシです。食餌植物はバラ、ヒユ、ヤマノイモ、キク、ミズキ、カタバミ、マメ科など広範囲な植物です。多種種の植物を食べる昆虫を広食性といえます。クズの葉を食べていました。直立しゆらゆらして身を回しているようでした。
ベニスジヒメシャク				●(成)9月10日		食草はイヌタデ、イタドリ。紅色のスジがあります。
マエキヒメシャク				●(成)9月16日		幼虫はスイカズラ科、ヤナギ科、バラ科を食べる。角ばった後翅と突起が特徴。20-25
ナミスジチビヒメシャク	●(成)5月1日	●(成)8月12日		●(成)	●(成)9月16日	旧岩通ガーデン跡の公園や浅間橋上流で確認しました。13-15
ミジンキヒメシャク					●(成)9月12日	旧岩通ガーデン跡の公園の草原で確認しました。11-15
ウンモンオオシロヒメシャク	●(成)			●(成)		スイカズラが食草です。フタツメオオシロヒメシャクに似ています。こちらはネズミモチが食草です。フタツメオオシロヒメシャクは昨年の10月1日に確認しました。
フタテンシロカギバ	●(成)6月17日					ミズキの葉を食べる。交尾中のペアを観察(4.18)。白い翅で、ヒメシャクの仲間似ている。
オオミズアオ	●(幼)6月30日	●(幼)		●(幼)9月30日		毎年、何頭かは確認できているが減少気味。いつまでも久我山で観察できるよう願う。上流部ではよく目にする。(東京都RDB区部VU)の女神のような大きくて白い翅をもつ。種名にアルテミスが使われている。幼虫は緑色で、サクラ、モミジ、ミズキ、クリなどが食草。今年は成虫より終齢幼虫を見かけた。
カキバトモエ	●(幼)2020年7月27日			●(成)2022年9月6日		2020年7月27日に岩崎橋下流で幼虫を、2022年9月6日に高井戸公園で成虫を確認。ネムノギやハリエンジュが食草の大きい蛾。
コソツメアオシャク	●(成)2020年7月27日					2020年7月27日のセミ抜け殻しらべで杉並の水上で確認する。綺麗な目玉模様。小型のアオシャク。
スジモンツバメアオシャク	●(成)2024年4月29日					2024年4月29日のキンラン調査で杉並の水上で確認する。
ウスキツバメダシャク	●(成)6月17日					浅間橋で確認しました。イヌガヤ科、ブナ科、ニレ科、マメ科、モチノキ科、クロウモドモドキ、ツバキ科、スイカズラ科など広食性です。中型の蛾で、白い翅に薄黄色の筋がありました。
ウンモンズメ	●(成)6月16日高井戸公園	●(成)	●(成・幼)	●(成)8月31日		食草はケヤキ、アキニレなど。灯火に集まる。土の中に入り蛹で越冬する。スズメガの中でも今年は特に越冬する種類である。
モモズズメ	●(成)7月?	●(成)		●(成)8月26日		岩崎橋のサクラの木を降りてくる幼虫を確認した。土の中に潜り蛹化する。幼虫は全身にザラザラした白い顆粒があり尾角にもイボがある。成虫の後翅は桃色で桃の葉を食べるとのうが一説にある。バラ科、ニシキギ科、スイカズラ科が食草。幼虫は8月21日
セジズズメ	●(成)6月16日高井戸公園		●(幼)		●(成)9月3日	黒い幼虫は夜行列車のような模様。蛇のような目玉模様で威嚇する。夜行性。成虫は背中や翅にスジがある。コスズメに似ている。コスズメの腹部背面の縦筋は目立たなく色が薄い。食草はヤブガラシ、ノブドウ、ホウセンカ、コンニク、サトイモなど。
サザナミズメ	●(成)2024年4月25日					割に黒くて波線があり少し小さめのスズメガ。モクセイ科のイボタノキ、トネリコ、ネズミモチ、ヒイラギ、オリーブなどが食草。
トビロスズメ					●(成)	クズ、ニセアカシア、フジ、ハギなどのマメ科が食草。兵庫橋で大きい雌を確認。
ビロードズメ					●(成)	蛇に擬態する。目玉のような模様もあり、危険を感じると体を膨らませる。体や尾角をクネクネさせていた。ヤブガラシ、ブドウ、ツタ、オオタマヨイグサ、サトイモ、テンナンショウ、ホウセンカなどが食草。
クチバズズメ	●(幼)	●(幼)			●(成)	今年の夏は確認できませんでした。ナラ科が食草です。ナラ枯れに影響しているかもしれません？
エビガラズズメ			●(成)	●(成)		幼虫はヒルガオ科、マメ科、ナス科、などが食草です。岩崎橋左岸下流のヒルガオは突然無くなってしまったので、ビックリしました。その後、ヨウシュヤマゴボウに覆われてしまいました。人が取ったのか？虫が食べたのかは不明です。
ブドウズメ	●(幼)6月2日高井戸公園					以前、上水で見かけたことがあるが、高井戸公園のヤブガラシについていた。上水では一時ヤブガラシを切る方がいてヤブガラシの食草も昆虫を見ることが少なくなった時期があった。ヤブガラシはよい蜜源にもなるので半もしない程度には残して頂きたい。その他、ブドウ科のノブドウ、エビヅル、ツタも食べる。
クルマズズメ	●(成)7月24日					岩崎橋で確認しました。ツタ、エビヅル、キーウイなどが食草です。あまり見かけないスズメガの仲間です。
オオスカシバ	●(成)7月27日	●(成)	●(成)			クチナシが食草です。クサギやヤブガラシの蜜をホバリングしながら吸っていました。夕方近く吸蜜に訪れていました。
ホシホウジャク	●(成)	●(成)	●(成)8月19日	●(幼)	●(成)	ヘクソカズラやアカネが食草、日中、クサギやヤブガラシの蜜をホバリングしながら吸っているのをよく目にしました。夕方近くも蜜を吸いに現れていました。ハチに擬態している。幼虫の尾角はまっすぐで先端が黄色。ホシヒメホウジャクはクズやヌズビトハギが食草で昨年確認している。
コスズメ	●(幼)16月	●(成)				ブドウ科、アカバナ科などが食草。成虫はセジズズメに似ている。コスズメの腹部背面の縦筋は目立たない。
シモフリズズメ	●(成)7月4日		●(幼)			ゴマ科、モクセイ科、シソ科、ゴマノハグサ科、ノウゼンカズラ科、クマツヅラ科と幅広い幼虫の食餌植物である。ネズミモチ、イボタノキ、クサギ、ムラサキシキブ、ヒイラギ、オリーブ、ノウゼンカズラなどが上水にはあるので割によく見かける。
コシアカスカシバ	●(成)2022年7月24日					高井戸公園のコナラで蛹の抜け殻と成虫を確認した。キロスズメバチに擬態している。(東京都RDB区部NT)
コスカシバ			●(成)8月29日			桜の幹に産卵し幼虫は中を食べるため幹からは樹液が流れる。蛹に擬態している。高井戸公園駐車場の桜に来ていました。
ミノウスバ	●(成)4月27日					マユミ、コムギ、ニシキギの枝先に産卵し春、新芽が出る頃に孵化する。集団で葉をほうずりにしてしまう。蛹に比べると、擬木を幼虫が集団で歩く姿が観察される。成虫は晩秋に羽化する。翅は半透明、ウスバの由来になっている。胴体は橙色と黒の怪色生える。雌雄で触覚の形が違う。
クワコ	●(幼)7月23日	●(幼)	●(成)8月19日	●(幼)	●(幼)9月16日	黄蜜を吸いた名残かヤマグワが多いので、クワコは毎年見られる。大事にしたい種類。桑が食草のカイコの原種(野生種)若齢幼虫の時鳥の糞に擬態し、終齢幼虫になると木の枝に擬態する。冬季も桑の葉に包まる繭やぶら下がついている繭をよく目にする。
スジベコケガ	●(成)6月9日		●(成)8月20日			黄色に赤いスジのある小型の目立つ蛾。幼虫の食草は苔類、地衣類、落葉、灯火にも集まる。
キハラゴマダラヒトリ	●(成)6月30日		●(成)			ヒトリガ科食草はサクラ類、アブラナ科、マメ科。上から見ただけではわかりづらいが、背中の背面や足の一部が黄色い。白い翅にゴマ模様。模様には変異がある。クワノキにいた。クワゴマダラヒトリの可能性もある。腹が赤いとアカハラゴマダラヒトリ。
クワゴマダラヒトリ	●(成)7月7日			●(成)8月26日		ヒトリガ科、食草はクリ、コナラ、ヤナギ、ウツギ、サンゴジュ、ガマズミ、クワ、マメ類。広食性、白い翅に種摩模様があるが、紋の少ない個体もいる。頭と背面の一部が黄色い。
カノコガ	●(成)6月16日			●(成)		ヒトリガ科、食草はタンポポやシロツクサ科、ギンギンシ、スギナなど。フタオビドロバチに擬態しているといわれている。日中、飛翔し吸蜜している。似ているキハダカノコは腹全体が橙黄色。
オオシマカラスヨトウ	●(成)7月16日		●(成)			上水ではクスギ、コナラ、エノキも多いので、それが食草の蛾も多く確認される。
オウモンモンクチバ	●(成)7月16日	●(成)8月11日	●(成)8月19日			岩通ガーデンにて　食草はヌズビトハギ、ヤブマメ、クズなど　クズやヤブマメなどが多く見られるので、よく確認する蛾のひとつ。
ナカグロクチバ?	●(成・幼)7月?	●(成)				食草はイヌタデ、エノキグサ、コムギソウなど。北上中の南方種。高井戸公園のオオケタデに幼虫がついていた。
ハスモンヨトウ					●(成)10月14日	農業害虫で幅広い種類の作物に被害を与える。成虫は翅に縞模様があり斜紋夜盗という名前の言われがある。浅間橋上流緑道の杭に止まる。小さい雌を確認する。
ツメクサキシタバ					●(成)9月9日	マメ科が食草。昼行性だが灯火にも来る。
トサカフトメイガ	●(幼)	●(巢)	●(幼/巢)	●(幼)	●(巢)	オニグルミやヌルデなどに巣が見られる。今年はスモークツリーで確認した。巣の見栄えはよくないので、わかると思う。
アワノメイガ	●(成)					イネ科、トウモロコシの害虫で有名。オニグルミ(クルミ科)、ハゼノキ、ヌルデ、スモークツリー(ウルシ科)などで巣が見られる。
ベニフキノメイガ	●(成)7月30日			●(成)?		シソ科が食草、ラベンダー、ローズマリー、タイム、ミント、バジルなどのハーブなども食べるようだ。
シロオビノメイガ	●(成)7月30日			●(成)8月29日	●(成)	小さい蛾、メイガには色々な模様があり、隠れた人気がある。割に敏感で写真撮影が難しい。シロオビノメイガはメイガの中でもよく観察される。上水ではイノコツチが多いのでよく見られる。他にウリ科、アカザ科、ヒユ科、キク科などが食草。。旧岩通ガーデンの草地で確認した。
アカマダラメイガ	●(成)7月28日?		●(成)8月19日		●(成)	マダラメイガ亜科。赤と黄色のメイガ。食草はマメ科でメドハギなど。旧岩通の公園にいた。
オオキノメイガ	●(成)6月30日					6/30イイギリなどのヤナギ科、ボブラなどを食草とする。葉裏に逆さまに止まっていた。黄色で美しい。
ナカオフトメイガ	●(幼)7月28日?				●(幼)	バラ科、ボケ、クリ、イチゴ、ミズキ科が食餌植物。幼虫は樹上で葉をつづる。擬木上を這う本種も確認した。
カイバロガリメイガ	●(成)7月30日				●(成)	小さな蛾で、さまざまな樹木の古い葉を食べるそうです。変わった姿勢で止まり、交尾をしていました。
ワモンノメイガ					●(成)9月26日	翅の幅が狭く、茶色い小さな蛾です。草地でみかけました。
マドガ	●(成)7月7日					マドガ科翅の中室にある白い斑を窓に見立てたのが名前の由来。幼虫の食餌植物はボタンツル。センニンソウも食べそうだ。花の蜜なども吸っている。
モンクロシャチホコ		●(成)8月6日	●(成)	●(成・幼)	●(幼)	桜、梅、リンゴなどバラ科が食草で、サクラの多い上水では毎年見られる。秋にはこの虫を食べるツツドリなどの鳥類が訪れる。若齢幼虫の時は赤い体色で葉先に集まる。成虫は黒く金の毛虫になる。土の中で蛹化するので、一斉に降りてきて擬木を歩いているので目立つ。成虫は鳥のフンに擬態する。幼虫は8月29日に地面に降りてきた。
ツマキシヤチホコ	●(幼)	●(成・幼)	●(成)	●(幼)		コナラやクスギ、シラカシが食草で幼虫は毛が長く赤い。成虫は枝のような模様をしている。モンクロシャチホコと同時期に見られる。枝先にかたまて幼虫が見られる。葉先が食べられている場所がわかる。土の中で蛹化するので、木の幹を降りてくる姿が見られる。翅頂の黄白色紋の中室端の境界線は赤褐色。
ムクツマキシヤチホコ			●(成)8月21日			成虫は木の枝に擬態する。ツマキシヤチホコ、タカソツマキシヤチホコ、クロツマキシヤチホコに似る。ムクネキ、ケヤキ、アキニレなどが食草。翅頂の黄白色紋の中室端の境界線は黒色で、腎状紋は他の種類より白く明瞭です。
キシヤチホコ		●(成)8月16日			●(成)8月23日	ササ類が食草です。香川県では絶滅危惧種Ⅱ類に指定されています。
ブライヤエグリシャチホコ		●(成)				ケヤキが食草です。枯れ葉や木の皮に擬態しています。
ブライヤアオシャチホコ	●(幼)7月7日		●(成)			幼虫はクスギの葉で確認した。成虫はクスギの生えている下で確認した。食草はクスギ。幼虫はあまり特徴のない緑のシャチホコガです。同定が難しかったです。生えている食草から考えると見つけやすいです
ホノハシヤチホコ					●(幼)10月6日	コナラ、クスギ、クリ、カン類などの葉を食べます。岩通公園でコナラの幼木に綺麗な色の幼虫を見る。
ネスジヤチホコ					●(幼)9月9日	クスギなどを食べる。青い幼虫が擬木を歩いていました。
リンゴケンモン				●(成)		様で見られる赤と黒の毛虫。ドクガに擬態している。毒はないが触ろうとは思わない
ナシケンモン					●(幼)	イイギリ(ヤナギ科)の葉で蛹化する前に繭をつくっていた。バラ科、アブラナ科、マメ科、タデ科、アオイ科、キク科、アヤメ科の植物も食べる。
ヨツモンキヌハコガ	●(成)					黒に黄色の紋の可愛い蛾です。アカザ科の葉や実を食べます。
シロスジカバマルハキバガ	●(成)6月2日					橙色に白い紋様のキバガの仲間　苔などが食草です。
センダンヒメハマキ	●(成)6月17日					浅間橋上流で確認した。センダンは橙黄色でマダラ模様がある。南方系の蛾、北上している。
アカマエアオリンガ	●(成)6月16日高井戸公園					ハギ、アキニレ、ヤナギでみられます。
クロキンタアツバ	●(成)6月30日	●(幼)			●(幼)	ヤブマオ、カラムシが食草の蛾。キンタアツバ(東京都RDB区部ORI)もヤブマオが多いので確認している。
タイワンキンタアツバ	●(成)5月16日高井戸公園					ヤブマオ、カラムシなどのイラクサ科が食草。
ナミテンアツバ	●(成)5月26日					マメ科ヌズビトハギが食草です。
リンゴツマキリアツバ	●(成)6月17日					バラ科が食草、サクラなどにつく。久我山の水上は桜、榊、樟などが多いのでそれらが食草の昆虫が確認されることが多い。
トビロトラガ		●(幼)			●(成)9月18日	明らかに飛来する普通種だが街中では減少傾向。ブドウ・ヤブガラシ、ツタが幼虫の食草。成虫は翅裏がオレンジ色をしている。幼虫も黒橙白の派手な模様。
ミツモンキンウワバ	●(成)6月24日					イチジクキンウワバに似る。縞紋がやや小さめ。枯れたエゾノギンギンに止まり隠れていた。タデ科、マメ科、セリ科、キク科、アオイ科が食草。
ヒメエグリバ			●(幼)8月20日	●(幼)8月29日	●(幼)	アオツツラフジの葉を幼虫が食べていた。黒に黄色と赤の模様。成虫は枯れ葉に擬態する。黒い地に黄色と赤の模様がある。
ブドウトリバ	●(成)7月30日					幼虫の食草はブドウ、エビヅル、ノブドウ、ヤブガラシの葉や花を食べます。
クズマダラホソガ	●(食跡)	●(食跡)	●(食跡)8月8日	●(食跡)	●(食跡)	幼虫は、クズに星のようなマークの食跡をつけるので、いることがわかります。蛹もクズの葉で見られます。
ツトガsp	●(成)8月1日	●(成)8月14日				小さく細い蛾です。枝に擬態しています。
ビロードハマキ	●(幼)					シイ、カシなど広葉樹につきます。きれいな色の蛾です。
イラガ(スズメシヨウペンタゴ)	●(蛹抜け殻)		●(蛹抜け殻)			上水にはいろいろなイラガがいます。幼虫は棘を持ち触れると危ないです。成虫は無毒です。食草はカキ、サクラ、ウメ、ケヤキ、カエデ、クリ、クルミなど。
ヒメクイラガ	●(幼)	●(幼)				幼虫は黄黒、成虫は灰褐色。幼虫には毒があるので注意。食草はイヌシデ、カキ、サクラ、ウメ、ケヤキ、ムクロジ科など。
ヒロヘリアオイラガ	●(幼・蛹・抜け殻)	●(蛹・抜け殻)	●(蛹・抜け殻)	●(蛹・抜け殻)	●(蛹・抜け殻)	幼虫は広食性でいろいろな植物を食べる(サクラ、カエデ、バラ、クスミ、モモタマナ、カキ、マンゴーなど)毒棘に触れると電気が走ったような痛みを感じるので注意が必要です。外来種。南方系で北上中の蛾。樹木名の札の後ろ側などにかたまて多くの蛹が見られた。
タケノホククロバ	●(成)5月9、16日		●(成)	●(幼)8月23日	●(成)	タケノササが食草です。竹筴が繁っているの目についた種類です。幼虫は毒針毛を持ちますが、成虫は黒くて、花に吸蜜にきます。毒はありません。出現期は7月～9月です。似た種類のブドウスカシクロバ、ウメスカシクロバは出現期が6月ごろです。
ハゴロモヤドリガ?	●(繭)					ハゴロモ類に寄生する小型の蛾。チュウゴクアミガサハゴロモが急激に多くなり在来種のハゴロモは減少した。
マダラマルハヒロズゴク	●(幼)6月23日					ヒロズゴクのなかま　桜の幹に茶色い雪だるま形の幼虫がついていた。ツツリミノムシといって木くずでつくった扁平な虫に幼虫が入っています。アリが桜の幹に列をなしていました。アリの近くにおこぼれや昆虫の死骸や幼虫も食べる肉食の蛾です。
チャミノガ	●(幼)5月19日	●(幼)		●(幼)8月31日	●(幼)	ツバキ、フナ、ムクロジ、バラ、カバノキ、クスノキが寄主植物。
ニトベミノガ	●(幼)					アカメガシワ、バラ科、ブナ科、ツバキ科につく。小枝や葉を付着させ糞を大きくしていく。頭部の脱皮殻も美濃につける。ミノと幼虫を観察する。
シバミノガ	●(幼)			●(幼)		擬木についていました。小さいミノガです。
クロツヤミノガ		●(幼)	●(幼)	●(幼)		地衣類、苔、樹木の葉などを食べる。擬木についている姿を確認する。擬木についていました。
オオミノガ	●(幼)	●(幼)		●(成)8月23日		別名ミノムシ、オスの成虫は翅があるが、メスは翅がなく幼虫型です。食草はバラ科、クワ科などを食べます。中国から日本に入ってきたオオミノガヤドリバエが寄生し数を減らしています。復活傾向も見られるそうです。(東京都RDB区部NT)
ゴキブリ目						

クロゴキブリ	●(成)6月30日		●(成)8月18日	●(卵鞘)	●(1齢幼虫)	ヤマトゴキブリより大型で光沢があります。また屋内に多いです。1齢幼虫は黒く白い線と点が2つあります。
ヤマトゴキブリ		●(成)	●(成・幼)8月			クロゴキブリより小型で光沢が少ないです。また屋内だけでなく屋外の樹液にもきます。
モリチャバネゴキブリ	●(成)	●(幼)	●(幼)		●(成)9月3日	初齢幼虫がキノコ食べていて、キノコムシかとおもいました。成虫では前胸背板上の2本の黒条がやや太めで後方で近接することでチャバネゴキブリと区別できます。様々いる環境もちがいます。家内に入ることはあってもチャバネゴキブリのように定住、繁殖することはありません。
カマキリ目						
オオカマキリ	●(幼)	●(幼)	●(成)	●(成)		後翅の色は黒い、鎌の付け根は黄色、チョウセンカマキリは透明、釜の付け根はオレンジ色。林縁の縁や擬木などで獲物を狙っていた。
ハラビロカマキリ	●(幼)	●(幼)	●(成)	●(成)8月23日	●(成)	腹が膨らみ、翅に二つの紋があります。成長すると樹木の高いところで見ることが多くなる。樹液に走る線などの虫を狙っていた。
アミメカゲロウ目						
クサカゲロウsp	●(幼)	●(幼)	●(成)	●(成・幼)	●(成)9月16日	幼虫は、体を隠すために背中に脱皮殻やゴミやハゴロモ幼虫の白いロウ状の物質をのせています。背負わない種類のクサカゲロウもいます。鉤爪型の顎でアブラムシなどを捕らえ体液を吸います。成虫は夜に飛んだり樹木に止まったり活動しています。
ヨシボンクサカゲロウ	●(成)6月29日高井戸公園					卵は(優曇華)ウツドン科の花と呼ばれます。灯に集まるのかトイレの中にいました。
カオマダラクサカゲロウ		●(成)8月11日				顔はX字状の模様があります。触覚は黄褐色で第2節のみ黒い。幼虫はカモフラージュのための脱皮殻や死骸を背負います。最近ではチュウゴクアミガサハゴロモの白い蟻状物質を使っているので、チュウゴクアミガサハゴロモの幼虫と見間違え人もいます。他のカゲロウ類にも同様な行動をする幼虫がいます。
スズキクサカゲロウ					●(成)9月3日	頭に小さく黄色い線が背中にあります。暗くなってから飛んで葉裏に止まっています。
カゲロウ目						
カゲロウsp	●(成)					兵庫橋で確認しました。赤い目、白い翅をもっていました。水生昆虫は何種類か確認しています。春先が多いので今回は書ききれませんでした。
バツタ目						昔はクツワムシが聞かれたそうだ。井の頭では、ウマオイがでている。最近では、キリギリスやショウリウヨウバッタモドキなど出ている。草刈りで部分的に草を残す試みをしている。猛暑だが雨も適当に降り草の伸びもよい。南方系のヒメダママキモドキ、高井戸公園に草地が整備されたのでツツムシ類など出ている。
ショウリョウバッタ	●(幼)6月21日	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)9月2日	とんがり頭の身近なバツタ。イネ科植物の生えた草原に生息。イネ科植物の葉などを食べる。雌雄の大きさが非常に大きい。大きな方がメス、オスは小さくキチキチキチと飛んで逃げる。キチキチバツタとも言われる。ハタオリバツタ、コムツキバツタの名前もある。旧盆の頃、見られることから精霊バツタという。卵は土の中に産む
オンブバツタ	●(成)7月?	●(幼)	●(成)	●(成)	●(成)9月2日	上に乗っている小さい方がオス、下の大きながメスです。イネ科以外でも食草がクズ、カナムグラ、カラムシと広食性で、キク科、ヒルガオ科、シソ科、タデ科、ヒユ科、ナス科などの園芸植物や野菜の葉も食べたりします。
クルマバツタモドキ		●(幼)8月5日高井戸公園		●(成オス)		高井戸公園の駐車場で緑色の個体を確認した。道路開通前にもよく見られた。背中にXの模様がある。クルマバツタより小型。オスの後翅節は赤い。比較的、乾燥した環境でも適応力がある。今年は緑色型の個体が北地区のバツタのために残した草地にいた。
カネタタキ		●(幼)	●(幼)	●(成)8月26日	●(成)	低木や茂みの中で「デン・チン・チン」と軋を鳴らす音が聞こえます。部屋の中にも入ってきて鳴く虫です。雑食性と考えられています。昼間は葉裏に隠れていますが、暗くなると擬木の上で餌を取るのたたくきん見られることがあります。
アオマツムシ(外来種)	●(声)8月1日	●(成)8月6日	●(成)8月18日	●(成)	●(成)	明治期に中国大陸から入った外来種といわれています。桜、椿などを好む樹上で上の方から聞こえる大きな声はアオマツムシであることが多くリリーーと大きな声で鳴き、他の鳴く虫の声をかき消してしまいます。小昆虫や木の葉を食べる雑食性と考えられます。
ヒメクダマキモドキ	●(幼)6月21日					樹上性。一昨年と同様の時期に3齢幼虫を確認した。幼虫の背中は体高がありイガイがしています。南方系の昆虫でテテが街中の公園で見られるようになりました。サトクダマキモドキに似ていてひとまわり小さいです。
セジツコムシ					●(成)	水上の林の中にも見られるが旧岩通ガーデン跡の公園の草地で確認した。オスは周波数うの高い声で鳴くが雌をとると思えなくなってくる。背に茶色の筋がある。
ツツムシ	●(成)7月23日	●(成)8月13日	●(成)8月20日			バツタ目キリギリス科。触覚が長い。草食性。食草はキク科のヨモギ、セアカアワダテソウ、マメ科のハギ、アカツメクサを好んで食べる。新芽や蕾、花、若い実などを食べる。イネ科やカタワリグサ科の葉を選んで卵を産み付ける。
ヒロハネカントアン	●(声)7月8日					海岸のそばにいた南方系の昆虫でしたが、街中の公園でも聞かれるようになりました。高井戸公園や上水内にもいてルールルーと葉裏で鳴きます。道路整備前はカンタンやウスグモズ、オケラなどがいました。カンタンはクズの葉裏に穴を開けルルルルと美声で鳴きます。
エンマコオロギ		●(成)8月6日	●(成)8月16日	●(成)	●(成)	キリキリコロコロと美声で鳴くコオロギ類の最大種です。間魔様のような音を持つことから名がつけました。草刈りで草がなくなってしまうと減少してしまっています。
モリオカメコオロギ			●(成)8月16日	●(成)	●(成)	猛暑の間は見られなかった。暑さが少し緩んだから確認できた。上水内や緑道で声が聞かれた。ハラオカメコオロギより少ない。
ハラオカメコオロギ		●(成)8月13日	●(成)8月12日	●(成)	●(成)9月2日	緑道などで声が聞かれる。上水内より明るめの環境の緑道にすることが多い。猛暑で、気温が高いと鳴くテンボは速くなりそうだが、騒音でも鳴くテンボは速くなりそう。2019年は、コガタコオロギ、ヒゲシロスズがいました。開通前はオケラやカンタンなどがいました。
ツツレサセコオロギ		●(成)8月14日	●(成)8月18日	●(成)8月15日		昔の人はツツレサセコオロギの声を聴かれる頃になると、これから寒くなるので、若物の綴れ(結び)を直して冬支度をしなさい! 罰射し。縦割せ。綴れ割せ」と聞きなしました。リー、リー、リーと断続的に鳴きます。ハラオカメコオロギより少ないです。
ナツノツツレサセコオロギ	●(成)高井戸公園7月8日					初夏、ハラオカメコオロギなどが鳴く前に高井戸公園で声が聞かれました。リーリーリーリーと続けて鳴きます。
ミツクダコオロギ	●(成)高井戸公園	●(成)8月6日	●(成)8月15日			頭に3つの出っ張りがある。ロビハゲが白い。ツツノツツノツツノツツと小刻みに力強いテンボで早く鳴きます。コオロギ類は雑食で小動物や死骸、葉・草の種などを食べます。
カマドコオロギ		●(成)8月6日	●(成)8月31日	●(成)		暖かい場所にいる熱帯のイエコオロギ。2023年から声が増えたようだ。上水内や緑道で声が聞かれた。温暖化などで増えてきたと思われる。爬虫虫の餌としても流通している。炭褐色の縞模様のコロロギで断続的に鳴く。
クビキリギス	●(声)春	●(幼)	●(幼)8月20日	●(幼)		夏に旧岩通ガーデン跡の公園で幼虫を確認した。秋には上水で姿を確認する。春は早い時期から「ジューーーーーツツ」と鳴いている。赤い舌をしているので血吸いバツタとも言われる。噛み付くと痛いので持ち方に注意が必要。湿度の多いところで緑色、少ない場所で褐色になるという話がある。
イボバツタ			●(成)8月20日	●(成)	●(成)9月16日	草地がなくては暮らせませんが、割と硬い地面でも見られるバツタで地面と似たような色合いです。草地、荒地、裸地で見るようになります。玉川上水、緑道、旧岩通ガーデンで確認しています。
ホシササキリ	●(成)高井戸公園6月21日		●(幼)	●(幼)		バツタ目キリギリス科。草丈の低い草原で見られる。足にホシの黒い点があります。イネ科の葉鞘内部に産卵する。イネ科植物や動物質も食べる。草の残し方で増減する。刈り取る規模や時期で翌年、出ないこともある。上水内や緑道、旧岩通ガーデンでは何年か確認できていないです。
ウスイロササキリ? (旧岩通)				●(成)		草原や水田に生息する。後翅が長く突出する。ホシササキリよりスマートな印象。昨年は上水内からササキリ類の音が聞こえたが、今年は確認できなかった。
ショウリョウバッタ (旧岩通)	●(成・幼)	●(成)	●(成)	●(成)		とんがり頭の身近なバツタ。イネ科植物の生えた草原に生息。イネ科植物の葉などを食べる。雌雄の大きさが非常に大きい。大きな方がメス、オスは小さくキチキチキチと飛んで逃げる。キチキチバツタとも言われる。ハタオリバツタ、コムツキバツタの名前もある。旧盆の頃、見られることから精霊バツタという。卵は土の中に産む
ショウリョウバッタモドキ	●(成)	●(幼)	●(成)	●(成)		旧岩通ガーデンにて確認しました。イネ科植物を食べる。触覚が太く身体が細身であり飛翔力はないようで葉裏に隠れます。
キリギリス	●(声)高井戸公園	●(幼)				浅間橋上流左岸の薬堤で鳴き声を聞いた。旧岩通ガーデン公園で姿を確認した。ヒガシキリギリスは翅が短く側面に黒斑が多い。若齢幼虫は全身が緑色。耳が前脚の中間にあり足にはトゲがある。雑食性でハルジオン、タンポポ花粉イネ科の種子も食べる。カマキリも食べてしまう。草丈の高い草原を好む。鳴声から機織り虫と呼ばれる。
オンブバツタ (旧岩通)	●(幼)	●(幼)	●(成)	●(成)	●(成)	上に乗っている小さい方がオス、下の大きながメスです。イネ科以外でも食草がクズ、カナムグラ、カラムシと広食性で、キク科、ヒルガオ科、シソ科、タデ科、ヒユ科、ナス科などの園芸植物や野菜の葉も食べたりします。岩通の橋の外にバツタ類がいましたが、今年は少なかった。
コバネイナゴ (旧岩通)		●(幼)				今年は確認できませんでした。一昨年(2022年8月8日)に岩通の池にいました。翅は短く腹端をこえるものが多い。長短形も出現する。イネ科植物の葉を食べます。水田や草むらに生息する。佃煮などで食用になります。
ハネナガイナゴ(旧岩通)?			●(成)8月8日			今年は確認できませんでした。昨年(2023年8月8日)岩通の草地にいました。コバネイナゴに似るが翅は長く腹端をこえる。一般的に数は少ない。
ヒナバツタ	●(成・メス)6月9日高井戸公園	●(幼)	●(成)		●(成)9月9日	旧岩通ガーデンにて確認しました。周辺の高井戸公園などでも確認しています。草地で見られ乾燥し弱くイネ科を主食とします。胸背面に「く」の字模様があります。
ヒシバツタsp					●(成)9月17日	岩通ガーデンの芝生にいました。ヒシバツタ科は日本に26種存在し種の識別が難しい。ハラシバツタはよく見られる。土色の体色で背に斑紋があることが多い。
ツチイナゴ	●(幼)5月6日北鳥山7丁目緑地	●(幼)	●(幼)			岩通の草地にいま、周辺の神田川や北鳥山7丁目緑地で確認しています。複眼の下に涙のように流れる黒いすじがあります。草原や林縁のクズなどの上で見かけます。幼虫は緑色で、成虫は黄褐色となります。成虫で越冬します。翅は長く腹端をこえる。今年は周辺の花と緑の広場で確認した。
ナナフシ目						
ナナフシモドキ	●(幼)5月1日6月?					今年は調査日以外の2024年5月6日にナナフシモドキの幼虫を確認した。井の頭では、ニホトビナナフシ、ヤスマトビナナフシなど確認している。
ハサミムシ目						
コバネハサミムシ				●(成)		コブシの実を摘み観察していたらハサミムシがついてきました。実の下かみの中にいて、実や小昆虫を食べていたのかは不明です。
カメムシ目						
アオハハゴロモ	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成)上流に1匹	●(成)	木の芽のように擬態しています。セミに近い仲間で木の汁を吸います。今年は外来種のヘリチャハゴロモと共に目にしました。
ベッコウハゴロモ	●(成・死骸)		●(成)			クズ、ヤマノイモ、ウツギから草の汁を吸います。幼虫はお尿に真っ黒くな毛虫があります。在来種のベッコウハゴロはチュウゴクアミガサハゴロモが現れてから見なくなりました。今年は1回だけ確認しました。スケバハゴロモはまったく見なくなりましたが、近隣の北鳥山7丁目緑地の手をあまり入れていない敷に生き残っていました。
ヘリチャハゴロモ	●(成・幼)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	2023年に初めて確認した外来種。アオハハゴロモの近く(一緒に)でている。交雑しないのか急遽に増えていかないかを観察していきたい。隣の世田谷区の報告では2022年に確認されている。
チュウゴクアミガサハゴロモ	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	2023年確認の外来種で大繁殖。ナナ科、モセシイ科、シソ科、マメ科、キク科、バラ科、ミズキ科、タデ科、クルマミ科、エゴノキ科、ニシキギ科、ノウゼンカズラ科、キンポウゲ科、ツバキ科、センダン科、トウダイグサ科、マツバサ科、ナス科、マタビ科、ツツジ科、ブドウ科、クワ科、カハ/キ科、ミカン科、カキ/ネキ科、ウリ科、イネ科、アオイ科等広食
アミガサハゴロモ	●(成)7月	●(成)	●(成)	●(成)9月9日		チュウゴクアミガサハゴロモが増えてから在来種のアミガサハゴロモは減少して元気がないように見受けられます。ほとんど見なくなりました。チュウゴクアミガサハゴロモの幼虫は白かったり茶色かったり2。羽が曲がっていたり。あまり曲がっていない個体もいて変異がみられ交雑の可能性が疑われます。
アブラゼミ	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	セミ抜け殻しらべでは、アブラゼミが一番多(8割)を占めるようになった。鳴き声が油を熱した時に撥ねる音に似ていることから名付けられたという説がある。猛暑の中、例年より夜鳴き続けるセミも増えている感じがする。サクラを好む。初詠7/7に抜け殻
ミンシゼミ	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(声)	●(成)	セミ抜け殻しらべでは、ミンシゼミは二番目で全体の8割だった。サクラ、ケヤキ、アオギリを好む。乾燥した緑斜地を好むという説もある。三鷹市で初鳴きとのこと7/13
ニニイゼミ	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(声)	●(声)	セミ抜け殻しらべでは、減少傾向。抜け殻は小さく土をかぶる。平地の明るい雑木林で湿度が必要。他のセミに先駆け6月下旬頃から鳴き始める。今年は浅間橋で6/16初鳴きを確認する。木の根本近くで羽化し枯れ木に卵を産み、その年の秋に孵化する。
ツクツクボウシ		●(声)8月6日	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	●(成・抜け殻)	セミ抜け殻しらべでは、減少傾向。7月から出現しているが声が聞かれ始めるのは夏遅くなってから。10月くらいまで出現している。オージンツクとも呼ばれる。森林性サクラ、ケヤキ、ヒノキを好むという。それらの木は杉並の上水でとても多いので道路ができてまで確認できているのかもしいない。
ヒグラシ	●(声)7月18日	●(成)8月6日	●(成)8月18日	●(声)		セミ抜け殻しらべでは、抜け殻を確認できないが、久しぶりに調査日以外の日で久しぶりに抜け殻も確認する。鳴き声は浅間橋～岩崎橋の区間のみで朝方に聞かれる。広葉樹林や針葉樹を好む。7/18初鳴き
クマゼミ	●(声)7月24日	●(声)8月5日	●(声)	●(声)		昨年より遅れて確認しました。増えている様子は今の所ないようです。翅は通き通り大型で黒色のセミ、街中や海岸の埋立地に多い。小半で十数年前に団地の垣根として移植されたレッドロビン産卵場所を見てきた。木の杭が使われ草薙はなく天敵は少ないようだった。安心できる環境に集中し羽化が見られた。
キスゲフクレアブラムシ(カンゾウ)	●(成・幼)					別名・ゴンズイ/フクレアブラムシ。初夏から秋にかけてノカンゾウに寄生し、秋から春にはゴンズイやミツバツツギに寄生する。有翅型がオレンジ色で無翅型が黄色です。無翅型は、蟻物質で覆われ白く見えます。キスゲが少ないのであまり見かけなかった。
エノキワタアブラムシ(エノキ)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	ワタのようなアブラムシで、エノキの汁を吸う。甘露を出すのでアリにやられては共生関係がある。ダンガラテントウなどでテントウムシ類はアブラムシを捕食します。クモやハチも集まり、この虫が発生するとエノキを取り巻く生態系にぎやかになる。今年は少ない。テントウムシと共に猛暑の時は少ない。テントウムシは夏の終わりに出てきた。
カスガゲワタワタムシ(ナキリスゲ)		●(成・幼)8月13日	●(成・幼)	●(成・幼)	●9月16日	ナキリスゲにつくワタのようなアブラムシ。秋に有翅型が出現する。猛暑と夏の間に目にする数が減っている。雨後にナキリスゲの花が咲いて確認するようになりました。
ススキアブラムシsp	●(成・幼)5月26日		●(成・幼)	●		ススキについたいたアブラムシ。排泄物が甘露を出す。その甘露を求めてクロクサアリが集まっていた。アリはアブラムシを守る互利共生の関係
ヤクチナガオアブラムシ(ケヤキ・エノキ)		●樹木の下の方にいた	●	●	●	ケヤキやエノキ大木にクロクサアリと見られた。お尻から樹木の汁を吸った後の排泄物(甘露)を出す。アリの家畜のような存在でもある。甘露はアリが好むので、アブラムシは甘露をだすことによりアリに守ってもらえる。猛暑で雨が少なくと樹液も出ないのかわない時がありました。いつもより低い影になる部分でアブラムシとアリを確認しました
セイトカワダチソウアブラムシ	●(成・幼)5月19日					セイトカワダチソウの茎につくアブラムシ。成虫は赤い。豊隆や草刈りの後、見なくなった。刈り残されたところで繁殖している。菜園などはクズや外来種の刈り残しが見られ、それが種をつけけた明るい外来種が好む地面に落ちるので、草刈り後はチェックして頂きたい。
クリオアブラムシ	●(成・幼)6月2日高井戸公園					植栽のワバゲシについていた。以前、上水の開掘区域でコナラやクスギについていた。
ギシギシアブラムシ	●(成・幼)5月26日					ギシギシが食草のアブラムシ。体色は黒い、艶はない、
トウネズミモチハマキワタムシ						トウネズミモチにつくアブラムシで、葉から蜜分を吸うと、くるととまるまり、巣になり、その中で幼虫が育つ。わた状の蟻物質や甘露を分泌し、アリに守ってもらう。テントウムシやアブの幼虫もアブラムシを捕食しに集まる。近年、猛暑と外来種のチュウゴクアミガサハゴロモがその中にいる場合があり、アブラムシの数に影響しているようにみえる。
ヤニサシガメ	●(幼)6月	●(幼)8月14日				シマサシガメに似ている。名前の通りヤニっぽくてりがある。他の昆虫の体液を吸う。掘んだりするとサシガメ類は口吻で皮膚を突き刺す。病気を媒介することもあるので注意が必要。日本では原虫を媒介するサシガメはいないが、中南米の感染地域からの移民で、感染している人からの輸血で感染する。輸血感染を防ぐ対策が取られている。
シマサシガメ	●(幼)6月24日					シマサシガメはヤニサシガメに似ているがあっさりした感じ。足と胴体に縞模様がある。スロー-状の口吻で獲物の体液を吸う動物食のサシガメ。テントウシンの体液を吸っていた。クワジラムミコロニーで産卵もしていた。
アカサシガメ	●(成)5月26日高井戸公園					獲物の体液を口吻で挿して吸う肉食の赤いサシガメです。ハムシの成虫を捕まえていた。
ヨコヅナサシガメ	●(成)6月16日					サシガメ大型種。昭和初期九州に入った外来種。1990年代に関東で見かけるようになる。黒い体に上翅の縁が広く黒白線、羽化直後は赤い。桜、榎、樺、桑などに登ったり幹に隠れる姿を見かける。昆虫の体液を吸う。春～夏は木の梢で目につかない、産卵期に樹の窪みに降りてくる。秋は樹洞で幼虫が集団になる。春に成虫になる。
ツチカメムシ	●(成)6月17日					黒く光沢のある楕円形の体をしている。ヤツデ、クスノキ、クズなどの汁を吸う。土の中に潜り根からも汁を吸う。地面を歩いていた。
クロスジヒゲナガカメムシ				●(成)8月26日	●(成)	イネ科のエノログサ、メヒシバ、カタワリグサ科などの花穂の汁を吸います。ヒゲナガカメムシに似ているが、本種の方が黒色部が多い。黒い点が翅にある。今年は岩通ガーデンや緑道のエノログサやメヒシバで確認した。
ヒゲナガカメムシ	●(幼)7月24日		●(幼)8月20日	●(成)	●(成)	イネ科のイヌビエ、エノログサ、メヒシバ、スゲ類などの汁を吸います。鎌のような前脚を持っています。
ホシハラビロヘリカメムシ	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成)	●(成)	●(成・幼)	マメ科植物のクズ、大豆、ヌスビトハギなどが食草。腹部の幅が広く、前翅に丸い斑紋がある。身近に見られる普通種だが、以前はもっと多く見られた。少し減少したと思う種類のひとつ。
キバラヘリカメムシ	●(成)6月21日	●(成)	●(成)			マユミ、コヤムミ、マサキ、ツリバナなどニシキギ科の汁を吸う。驚いた時に青リゴのような香りを出す。腹部周辺が黄色と黒の縞模様になっている。
ハリカメムシ	●(成)7月?	●(成)	●(成)	●(成)		イネ科、タデ科で見られる。胸部の両端が突出している体はやや大きい。
ホオズキカメムシ	●(成)7月28日?	●(成・幼)	●(成)	●(幼)9月17日		後脚腿節が膨らみ、体の縁や脚に細かいトゲがある。ナス科、ヒルガオ科を食す。集団でハレムを形成することが知られている。
クサギカメムシ	●(幼)	●(幼)	●(成・幼)	●(幼)	●(幼)	体長13ミリ以上の大型種。紫色味のある体に黒点が密にちらばる。広食性で果樹や豆類の害虫として知られる。明かりに飛来し、しばしば室内に侵入する。悪臭を放つ。成虫越冬する。この夏は成虫より2、3齢幼虫を見る機会があった。
シロヘリクサチボカメムシ				●(幼)	●(幼)	地面に近い草の上に青い背中に赤い模様のある幼虫がいた。夜盗虫やスズメガの幼虫を食べる南方系のカメムシで分布をひろげつつあるそうだ。今年はスズメガの仲間も確認する機会があった。
ホソハリカメムシ	●(成)7月?	●(成)	●(成)	●(成)8月26日	●(成)	イネ科(エノログサ)の植物で見られる。胸部の両端が突出している細長いカメムシ。ハリカメムシより少し小さい。高井戸公園でも確認した。
ミナトメヘリカメムシ	●(成)7月28日?	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成)	●(成)	全胸部の左右の縁に鋭い棘がある。幅が広く色褪せた感じがする。南方系のカメムシ。柑桔類の害虫でもある。強烈な匂いを放つそうだが、嫌な匂いではなかった。撮影していたら人に向かって飛んでくる気の強いカメムシ。昨年はコブシの実があまりつかず確認できなかったが、今年は実を集団で吸い交尾も見られた。
クモヘリカメムシ	●(成)		●(成)8月20日	●(成)8月26日		イネ科植物(イヌビエ、エノログサ、メヒシバ、シマズメノエ)に見られる細身のカメムシ。
オオクモヘリカメムシ	●(成)6月	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)9月18日	幼虫はネムノキ、成虫ではカンクツ類や柿の果実の汁を吸う。ネムノキやその下のヨウシュヤマゴボウで確認。若齢幼虫は綺麗な模様をしている。ネムノキの下で見ることが多い。
ホソヘリカメムシ	●(成)6月20日	●(成)		●(成)	●(幼)9月30日	イネ科(メヒシバ、エノログサ)などで見られる。幼虫はアリに擬態する。マメ科、イネ科などを食草とする農業害虫とされている。ムラサキツツカサにも訪れる。オスの成虫の後脚腿節が太い。飛ぶとハチに似て見える。カメムシにしては珍しく匂いがない。
アカヒメヘリカメムシ	●(成)6月2日			●(成)		赤みがかった褐色で、光沢があり体が細か毛で覆われている。イネ科、タデ科、キク科など多様な植物につく。稲の害虫になることもある。
アカスジカメムシ	●(成)6月29日高井戸公園飯畑					セリ科のヤブジラミやフセンルネなどの花穂や種子の汁などが食草。一時、上水では見かけなくなったが周辺部で久しぶりに確認した。赤と黒の縦縞のカメムシ。鮮やかな警戒色をもつカメムシは匂いを出さないものが多いらしい。
アカスジキンカメムシ	●(二齢幼虫)					成虫を見る機会が減った。幼虫も夏の間は確認できなかった。プレーチになりそうな綺麗なカメムシ。なかなか成虫を見る機会がなくなっている。食草はコナラ、ハゼノキ、スギ、ヒノキ、ミズキ、ハンノキ、キブシなどでみかける。
ツヤオカメムシ	●(成)5月10日					灯りに飛来する。アオクサカメムシ、ミナシアオカメムシと似ている。艶がある緑のカメムシ。クワ、ヒノキなどの樹木について、果樹に被害を与える。
チャバネアオカメムシ	●(成)7月7日	●(幼)				見る機会が多かったカメムシだが、南方系にメチャバネアオカメムシを見る機会もある。夏の間はあまり見なかった。前胸背の側縁に暗色線をもつ。サクラ、クワ、キリ、スギ、ヒノキ、マメ、カキ、ナンなどを食べる。
ヒメチャバネアオカメムシ		●(成)8月6日	●(成)	●(成)	●(成)9月9日	チャバネアオカメムシより体長が小さい。前胸背の側縁は淡色で暗色線をもたない。南方系カメムシ。見る機会が増えた。サクラ、クワ、ヒノキの球果、果樹など
ウスラカメムシ	●(幼)5月19日		●(成)	●(成)		イネ科植物のススキ、エノログサ、メヒシバなどで見られる。真夏は確認できなかったが、初夏に確認した。緑道のイネ科を草刈りすると減少する種類。

マルカメムシ	●(成)	●(成)	●(幼)8月20日	●(成)	●(成・幼)	以前は集団でクズ上で観察されたが、クズクビボソハムシに場所を奪われてしまい減少している。クズ以外のところでみかけることもある。食草はクズ、ヌスビトハギ、ダイズ、アズキ、ノイバラ、ウツギ、アケビ、ミカンが知られている。
トゲシラホシカメムシ	●(成)				●(幼)	厩にするといぐをもちつシラホシカメムシ。エノコログサなどのイネ科植物につく。
ムラサキシラホシカメムシ			●(幼)			イネ科植物の生える草地で普通に見られる。他にマメ科、キク科が食草。タンポポ、ハルジオン、ツククサなどで見られる。暗紫色で丸い体系。小楕板の円形紋は大きい。
シラホシカメムシ				●(成)8月26日	●(成)	明かりに飛来する。楕円形に近い体形の小型種。小楕板に2つの小白点がある。以前は牟礼橋のエノコログサで確認したが草刈り後にイヌムギに変わり見かけなくなっていた。今年、岩通ガーデンのエノコログサで確認した。
キマダラカメムシ	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	●(成・幼)	1770年江戸時代に入ってきた外来種。その後、2000年に入ってから分布域を広げている東京では、2008年以降、急激に増え、一番目につくカメムシになった。 国内最大のカメムシ。広食性、サクラ、クワ、カキ、エノキ、クワ、ニセアカシアなどを食べる。鳥糞にも集まっていた。
ブチゲカメムシ	●(幼)7月2日	●(成)8月14日	●(成)			今年は高井戸公園を含め3カ所で目にした。暑さにも強いのか？増えている感じがした。マメ、キク、イネなどが食草。農業害虫のようすだ。
ヒメナガカメムシ	●(成)	●(成)	●(幼)	●(成)8月23日	●(幼)9月16日	オオアレチナギクの上で交尾をしていた。ヒメジョオンの花の上にも何匹かで止まっているハエかアブのような形のカメムシ。キク科の花だけでなくイネ科の種も食べる。幼虫をよく見るとゾウムシに似ている。今年はオオアレチナギクやヒメジョオンを駆除したのであまり見かけなかった。エノコログサで見られた。
ヨツボシヒョウタンナガカメムシ	●(成・幼)	●(成)8月14日	●(幼)8月20日	●(成・幼)8月26日	●(成・幼)9月16日	前胸背は前3分の2付近でくびれ、革質部につつの白点。エノコログサ、メヒシバなどのイネ科植物上で見られた。明かりにも飛来し成虫越冬する。
コバネヒョウタンナガカメムシ？			●(幼)			前胸背の前4分の3ほどが丸く大きく膨らむ。翅は短く、腹は露出する。地表を歩行する。成虫越冬する。高井戸公園のミズキで交尾中のペアを確認。
エサキモンキツノカメムシ	●(成)6月16日高井戸公園	●(成)				背中(小楕板)にハート模様のあるカメムシ。ミズキの葉裏に産卵する。メス成虫は産卵し孵化した後もしばらく幼虫を守る姿が観察できる。
セアツノカメムシ？	●(幼)					以前にはよく見かけたカメムシ。幼虫だったが、調べるとセアツノカメムシらしい。回復を期待する。ミズキ、ヒノキ、スギなどの実。お尻に赤い紋がついている。
セスジナガカメムシ	●(成)6月16日	●(成)				体は赤く縁取られ、前翅に人の字状の赤線がある。ポタンツルなどのセンニンソウ属でみられる。
オオホシカメムシ		●(幼)8月16日	●(幼)	●(幼)		アカメガシワに群生していたのが見られた。15ミリを超える大型種。赤と黒のオオホシカメムシ科
イトカメムシ	●(成)	●(幼)8月12日				ユスリカのような細いカメムシ。触覚は紡錘状に膨らみ、脚は単色。ヒメイトカメムシは脚に細かい黒点がある。クズの葉上で交尾中であった。植物食だが、アブラムシなども捕食する。
ハギメンガタカスミカメ	●(幼)7月12日		●(成)			メンガタカスミカメに似ている。前胸背板の黒紋・小楕板に白点がない。ヤブガラシの蜜を吸っていた。
セダカマルカスミカメsp	●(幼)					エノキの葉で確認。セダカマルカスミカメより黒く、オオセダカマルカスミカメは灯火にも来て黒っぽい。
クスベニヒラタカスミカメ(外来種)	●(食痕)	●(食痕)	●(成)6月20日	●(食痕)	●(食痕)	クスノキにつくカメムシ。クスノキの葉についた食痕が斑点状の模様になる。各地の天然記念物のクスノキで問題になっている。見かけは悪いが枯らすことはないようだ。近年、入ってきた外来種。
アウダチゾウグンバイ	●(成・幼)5月19日 7月	●(成)	●(成)	●(成)		カメムシ目グンバイムシ科 セイタカアワダチソウの葉裏で汁を吸う軍配虫。軍配の形に似ていることが名前の由来。葉を折り状にしてしまう。緑道のセイタカアワダチソウ、外来ギンギン増えた。在来種を増やしてください。ノウゼンカズラも増えるので対策してください。
ヘクソカズラグンバイ	●(食痕)		●(成)8月20日	●(成)	●(成)	カメムシ目グンバイムシ科 ヘクソカズラの葉で汁を吸う軍配虫。軍配の形に似ていることが名前の由来。葉を折り状にしてしまう。外来種。外来種のグンバイムシの方が影響は大きい。
ツツジグンバイ	●(食痕)	●(食痕)	●(食痕)	●(成)		カメムシ目グンバイムシ科 上水内のオオムラサキツツジについていました。サツキヤアザレアなどツツジ科の園芸種につきます。葉裏に軍配の形に似たグンバイムシの成虫やカメムシ型の幼虫がいます。ついた葉はかすり状になりますが、上水内ではそれほど広がっていません。
ナングンバイ	●(成)	●(成)	●(成)8月18日	●(成)	●(成)	カメムシ目グンバイムシ科 イヌザクワやクサボケ、カリン、ハナモモの葉裏で観察した。バラ科の葉を吸う。サクラの被害は軽微で枯らすことはない。葉裏に軍配の形に似たグンバイムシの成虫やカメムシ型の幼虫がいます。ついた葉はハダニがついたのようにかすり状になります。
オサヨコバイ			●(成)			オオツマグロヨコバイより小さく色の薄いヨコバイ
クロヒラタヨコバイ				●(成)8月23日		黒色で小さく楕円形。クスギなどの広葉樹の上でみられる。
テングスケバ			●(成)8月19日			開通前にいた昆虫で久しぶりに岩崎橋上流で確認した。新橋下流左岸でも以前はツマグロスケバと共に確認していたが、間伐と草刈りが行われなくなっから、食草のイネ科がないのか？確認していない。
クワキヨコバイsp	●(成・幼)6月2日					セイタカアワダチソウやクワにいた。ツマグロオオヨコバイより小さい。ツマグロオオヨコバイは普通種で一時は多かったが、最近は見かけるのが少ない。高井戸公園0.16確認
ミドリグンバイウシカ	●(成・幼)	●(成)		●(成)		きれいな緑のウシカ。クワなどを食草とする。相模の軍配に似ていることから名がつけられました。緑色でよく見るととても綺麗です。葉の汁を吸います。
クワキジラミ	●(成・幼)6月2日					クワの葉裏にお尻から白く長い尾のような顕物質をつけた幼虫が見られる。数は開通前より減っている。チュウゴクアミガサハゴロモに場所を奪われているようだ。コロニーにシマサシガメが産卵していた。
ヤマトキジラミ	●(成・幼)6月2日					ネムノギに寄生する小さな虫、新芽や蕾の汁を吸います。幼虫は白い顕物質を分泌していました。アミメアリがきていました。共生関係にあるようです。
キジラミsp	●(成・幼)5月1日					アケビの葉に黒と緑のアブラムシとともについていた。ベニキジラミではないようだった。ハコネキジラミの可能性ある。
ムネアカアワフキ	●(成)5月9日					巻貝状の果が椀の枝についているのがよく見つか。小さく黒い体に赤い胸が目立つ。メスの方が赤い部分が広い。木の汁を吸う。
アワフキムシsp	●(幼)5月9日13日					下草に泡の巣が見られた。泡を出て身を隠す。赤と黒の幼虫でシロオビアワフキの幼虫かもしれない。バラ、クワ、ヤナギ、マサキなど多様な植物につく。2025年5月10日近隣の寺町妙寿寺のボダイジュにタケウチゲアワフキ
ヒモワタカイガラムシ	●(幼)4月21日、 6月9日					木の枝に白い紐のように輪になりぶら下がるカイガラムシ。成熟すると長い脚蓋をリング状に形成する。クワの木についていた。3齢幼虫で越冬し4月中旬ごろに成虫となり、5月中下旬に成熟して産卵。幼虫は6月上旬中に現れ葉裏の葉隙に寄生する。9月、10月落葉前に枝に移動し越冬する。樺、樺、萩など多くの種類の樹木に寄生する。
ルビエロウカイガラムシ	●(幼)7月	●	●	●		明治初期に導入した外来種。ルビー色が名前の由来。モチノキ、モッコク、ヒサカキ、ツツケイジュ、ツツキ、カキなどにつく。排出物が植物にかかると黒ずんてスズ病をおこす。日本では翅の生えたオスは見ることが少ない。成虫越冬、6月上旬に産卵するとメスの母虫は死に幼虫は7月上旬に現れ秋に成虫となる。
イボタロウムシ	●(幼)6月 高井戸公園				●10月6日高井戸公園	モクセイ科の植物につく。2023年浅間橋のコバノトネリコで観察。2024、2025年高井戸公園の植栽コモノスズメモチいた。成虫越冬、5月上旬頃、♀成虫が球形の貝殻の中に産卵。幼虫の孵化は6月、7月頃♀成虫が葉から枝に移り白ロウを分泌し蛹になる。9月頃、蛹から羽化。ロウを加熱して濾し固めて家具や敷居、墓石の滑きに使う。昔は養
イセリアカイガラムシ					●10月6日高井戸公園	高井戸公園のユキヤナギやハチについていた。ナンテン、モッコク、相模類の果樹などにもつく。オーストラリア産のカイガラムシ。ベダリアテントウがこのカイガラムシを食べるため、防除に導入され制圧された歴史がある。赤い前の部分と後ろの白い卵の部分からなる。
ナミアメンボ					●	浅間橋にて何匹か泳いでいた。葉の上で交尾をする個体も確認した。
チャタテムシ目						遠く橋で交尾中の個体もいた。神田川でも見かける。カメムシの仲間、水面に落ちた昆虫などの体液を吸う。飛んでいるイトトンボも捕まえる。鈴のような匂いがするのが名前の由来。足に毛が生えていてスケートのように水面を滑る。
チャタテムシsp	●(成)					江戸時代、この虫が障子に止まると障子紙に共鳴して茶先で茶を立てるような音が生じたことからこの名が付いたという。
ハチ目						ウマノオバチ(区部NT)もかつて確認している。サトセアナガバチを調査日以外で確認した。
オオズメバチ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		一昨年は、兵庫橋上流右岸の切り株に営巣し駆除された。昨年は高井戸公園で見かけた。今年はコガタズメバチを見かける機会が多かった。農業上の益虫でもあるので共生を考えたい。秋になると数が増えるので注意が必要。黒い服や顔の毛に攻撃してくるので、白い帽子や服などを着る。カチカチ音を立てられたら、じっとして、そこから立
コガタズメバチ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	今年はコガタズメバチよりオオズメバチを見かける機会の方が多かった。
チャロスズメバチ					●(成) 6月9日	高井戸公園の駐車場クスギで初確認。5匹以上のハチが行ったり来たりしていた。次の日には岩通ガーデンのクスギにも1匹確認する。絶滅危惧種と言われていたが、生活の場を求めて近年、都市部に現れ始め増えているハチで注目したい。
クロスズメバチ	●(成)					ミミズやモンクロシャチホコの死骸を食べていた。観察すると飛び回り少し威嚇行動をしていた。
キムネクマバチ	●(成) 7月24日	●(成)	●(成)8月19日	●(成)	●(成)	クサギの花は蜜が豊にあるので横から盗蜜をしていた。各種の花に訪れている。オスは胸が黄色く顔に白い毛があり、針は持っていないので刺せないがメスは針を持っている。おとなしいハチだが、掴んだり、振り回うなどしたり、巣の近くだと刺されることもある。
コマルハチバチ			●(成)			2022年は上水にコマルハチバチの巣がありいんな花に訪れていた。今年は春先にみかけたが、夏の間はみけなかった。2023年夏に観察した個体は穴を掘っていた。土の中で越冬するそうだが、この時期からそうした行動をするかは不明。
ハキリバチsp	●(食痕)7月7日	●(食痕)	●(成)	●(食痕)	●(食痕)	ミントやヤブランの花の蜜を吸いに来ていた。オニドコロの葉を丸く切り取り運び去った。ヤマイモの葉も丸く切り取った食痕を目にした。以前、クズハキリバチも浅間橋～兵庫橋で確認。今年はハキリバチの巣をのっとり労働寄生するハラアカヤドリハキリバチがいた。
ハラアカヤドリハキリバチ		●(成)8月13日				ミントの蜜を吸っていた。オオハキリバチの巣の花粉団子に卵を産む。幼虫は花粉団子を食べて育つ。労働寄生蜂。以前はハラアカハキリバチヤドリ、ハラアカハキリヤドリといわれた。
セグロアシナガバチ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成) 8月26日		キアシナガバチとの違いは全体が茶色く見え、触覚が全体に黄土色。前伸腹部に黄色斑がないことで識別する。
キアシナガバチ		●(成)？	●(成)			黄色い部分が多い。触覚の先だけ黄色い。巣は木の枝や軒下につくられる。初期の巣は釣鐘型だが、大きくなるとそこからそのを広げるように発達していく
コアシナガバチ	●(成)6月21日	●(成)	●(成)	●(成)		成虫がヤブガラシの花の蜜を吸っていました。樹液にもやってきます。幼虫は芋虫や蛭の幼虫を食べます。低木や垣根、屋根裏など人目のつきにくいところに巣をつくります。緑道の林縁の低いところを餌を探しながら飛んでいました。
オオモンツチバチ	●(成)7月？	●(成)		●(成)旧岩通		ヤブガラシの蜜を吸っていました。腹部に黄色い紋があるツチバチの仲間。オスの触覚は長い。幼虫はコガネムシ類の幼虫を食べて育つ。大きなツチバチ。複腹の後ろに黄色の紋がある。
コモンツチバチ	●(成)オス？	●(成)	●(成)？			コガネムシ類の幼虫に産卵します。成虫は花の蜜を吸います。入れ替わり立ち替わりミントの花の蜜を吸いに来ていました。
キンケハラナガツチバチ	●(成)	●(成)	●(成)？	●(成) 8月23日		黒色で金味のある黄褐色。胸全体と腹の各部の後縁には黄褐色の毛が密生する。頭盾は黄色。雌は長毛が生えている。
ヒメハラナガツチバチ	●(成メス)	●(成)	●(成)？			黒色で毛は白色。ハラナガツチバチの仲間のオスはメスに比べ体が小さく触覚は目立つて長い。小型で普通に見られる。メスは翅の先が黒い。斑紋を欠き、第1～4腹部後縁の白色の帯、オスは第1～5腹部の背板に黄白色の横帯があり、頭や胸、脚にも斑紋がある。
ハラナガツチバチsp	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		最も普通に見られるハラナガツチバチの仲間。コガネムシ類の幼虫に産卵します。成虫は花の蜜を吸います。
オオハラナガツチバチ	●(成・メス)6月9日	●(成・メス)				コガネムシ類の幼虫に産卵します。成虫は花の蜜を吸います。ミントの花ニハラナガツチバチは集まってきますが、その近くの上水緑道のエノキの葉に静止していました。
セイヨウミツバチ	●(成)5月19日6月？			●(成)		朝タの涼しい時に蜜を集めますが、真夏は猛暑でみかけませんでした。コセンダングサやヤブガラシの蜜を集めています。今年は春秋に木の花(イボタ)や周辺の住宅(ミント)で姿をみかけました。上水内は数化して蜜源になる草本の花が少ないので近年はあまり多くみかけません。
ニホンミツバチ	分蜂？4月？			●(成)	●(成)	朝タの涼しい時に蜜を集める。4月21日上水内の桜のウロからの分蜂を観察しました。ちょうどキンラン調査の直前でゆつり観察はできませんでした。猛暑の時には確認できず春や9月中旬になってから観察できました。昨年はコセンダングサの群落で蜜を集めていました。蜜源になる花が少ないので近年は多くみかけません。
ヤマトリハナバチ	●(成)					スミスハキリバチやスルガハキリバチの巣の花粉団子に産卵します。幼虫は花粉団子を食べて育ちます。労働寄生蜂です。
ヒメハナバチsp	●(成) 5月1日					ノイバラの花にきていた。初夏にはこの時期、エゴノキ、コゴメウツギ、イボタ、マムシ、ナワシロイチゴ、スイカズラ、など多様な花が咲くので蜂も多くでる。
コハナバチsp	●(成) 5月1日					ノイバラの花にきていた。初夏にはこの時期、エゴノキ、コゴメウツギ、イボタ、マムシ、ナワシロイチゴ、スイカズラ、など多様な花が咲くので蜂も多くでる。
トガリヒメバチsp	●(成) 5月1日					ノイバラの花にきていた。初夏にはこの時期、エゴノキ、コゴメウツギ、イボタ、マムシ、ナワシロイチゴ、スイカズラ、など多様な花が咲くので蜂も多くでる。
ルリチュウレンジバチ	●(幼) 6月23日					ツツジにつく黒青いハチ。結婚飛行？の時はブンブンとツツジの周りを群飛する。幼虫は大食漢で被害が大きい。
ムカシハナバチsp				●(成)8月29日		ミツバチより触覚が長い。ミントの花に来ていた。木の花は咲くが草の花は蜜に覆われ少ないので住宅地の庭のミントによくきている。
キイロハバチ	●(成)6月？		●(成)8月20日	●(成)	●(成)	成虫は前胸背が赤褐色のハバチ。センニンソウに産卵する。幼虫は頭が黄色くて薄緑色。頭が黒くて体の薄緑色のハバチ幼虫もいた。ルイスアカマルハバチはポタンヅルに産卵するそうだが、センニンソウに産卵するかは不明。
チャイロハバチ	●(幼) 6月17日					黄色の体に頭は黒い幼虫、成虫は橙の体、茶色の翅をもつ、ヘクソカズラ(アカネ科)が食草のハバチ。雄だけで単為生殖するので雄はいないそうだ。
ハグロハバチ	●(成)？	●(成)				ギンギシ、イタドリが食草の黒いハバチ。葉を穴だらけにする。幼虫の模様はわかりやすい。
シマクロハバチ	●(成)5月16日					イボタの花にきていた。特徴的な白い紋や色合いだった。
セグロカブラハバチ			●(成)			幼虫はアブラナ科につく。クサギの葉にきていた。葉に含まれる化学物質が繁殖や防御物質として必要で摂取するそうだ。
クルマミルハバチ	●(幼)5月16日					オニグルミの葉を食べるハバチ。幼虫の頃、特徴的な白い顕物質をまとう。可愛い顔をしている。今年はだいぶ葉裏についているのが観察できた。土の中に潜り越冬する。
カブラハバチsp	●(成) 6月？				●(成)	クサギの葉にきていた。葉に含まれる化学物質が繁殖や防御物質として必要で摂取するそうだ。
ハバチsp	●(成) 7月21日	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	幼虫の頃に桜の葉に白い糸をだし天幕をつくり集団で葉を食べる。
サクラヒラタハバチ	●(成)？					幼虫は桜の葉に集団で糸を出し天幕の巣をつくる。トサカフトメイガのような巣なので蛾の幼虫に似ている。土の中で前蛹になり越冬する。幼虫の体は薄黄白色で頭は黒い。成虫は黒色で、黄色い脚、顔、肩をしている。年1回発生、春に出現する。
ヒラタハバチsp	●(成)？		●(成)			黄色と黒のハバチの仲間。幼虫は葉を食べて育つ。同じ場所に止まり占有行動していた。
キイロコウコマユバチ	●(成)6月30日					オニグルミの葉裏に4匹を確認した。飛んで葉から葉へ移動したりしていた。メイガ科の幼虫に寄生するそうだ。
ウマノオバチ	●(成)2010年以前					長い産卵管を持つ蜂で、木の内部にいる蟻に寄って産卵をするそうす。かつて岩崎橋下流で記録があった寄生蜂です。ミヤマカミキリもかつて岩崎橋下流で確認をしました。ミヤマカミキリもウマノオバチも近年は確認されていません。寄主として、あるいはタマムシにも産卵するといわれています。タマムシは確認されています。
ルリモンハナバチ		●(成) 2021年8月10日				まつかげ橋や井の頭橋の区間周辺で確認しています。上水では、アキノナムラソウ、ハエドクソウの花が盛りの時に現れています。井の頭公園ではキバナコスモスにも現れています。幸せの青い蜂、ブルービーと呼ばれます。コシトハナバチなどの蜂に労働寄生する。他の蜂の子供に用意された巣と餌で花粉団子を食べて育ちます。
オオセイボウ				●(成)		浅間橋上流の周辺住宅の庭のミントの花に来ていた。ちょうどズズバチも出した時に確認した。スズバチの巣に寄生する。金属光沢の青と緑の美しいハチ。
キオビツチバチ	●(成)7月7日	●(成)				調査日以外では確認。腹部に黄色い紋があるツチバチの仲間。オスの触覚は長い。幼虫はコガネムシ類の幼虫を食べて育つ。
オオフタオビドロバチ？	●(成)？					黒色で腹部に2本の黄色い帯を持つハチ。頭部、前胸部背板などに黄色い斑がある。竹筒、木材の穴、樹木に開いたカミキリの脱出孔などに泥で仕切りをつくった巣をつくり、ハマキガやメイガを採り幼虫の餌とする。
エントツドロバチ	●(成)					別名 オオカバフスジドロバチ 泥でつくった巣の入り口は煙突状で、その中に産卵します。餌となる蜂の幼虫を巣の中に運び蜜をします。蜂の幼虫は餌を食べて中で育ちます。竹筒の中を巣に使うこともあります。ヤブガラシの蜜をすいできていた
スズバチ			●(成)8月19日		●(成)	黒色で胸部が細長く、腹部中央部と胸部上部に橙色紋がある大きなツツリバチ。泥で鈴のような形をしたつばの巣を作る。蜂や蛭の幼虫を狩る。ヤブガラシの蜜を吸いに来ていた
ミカドツクリバチ	●(成)6月16日高井戸公園	●(成)8月5日	●(成)	●(成)		黒い体色に黄色い紋がある。泥でつくったトックリ型の巣をつくる。斑紋には個体差がある。林縁の地面近くで獲物を探して飛んでいるようだった。ノブドウの蜜を吸いに来ていた。
オオシロフクモバチ	●(成) 6月9日 7月18日	●(成)				別名・オオシロフベッコウ。黒色で腹部に白い紋がある。クモバチの仲間。クモ(ジョロウグモ、サツマノミダマンなど)を捕らえ麻酔をかけて幼虫の餌にする。ハエトリグモを持っていた。
コトゲアシクモバチ	●					今年は見かけなかった。黒色、翅はくもって不明瞭な斑点がある。腹部に棘状の突起がある。蜜を舐めたりもする。棚ゴモの仲間などを狩る。
ジガバチsp	●(成)6月					狩ったイモムシに麻酔をかけ掘っていた穴まで運んでから、イモムシに産卵し穴をふさぐ。羽音がジガジガいうそう聞いてみたい。初夏に高井戸公園で見かけた。
クロアナバチ	●(成) 7月30日	●(成)	●(成)8月8日	●(成)		クビキリギリスやツムムシ類を狩る。 ツムムシなどを探しているようだった。穴の中に獲物を入れ幼虫の餌となる。ヤブガラシの蜜も吸っていた。
サトセナガアナバチ	●(成) 6月18日高井戸公園	●(成)			●(成)9月14日	青緑色の金属光沢を持つハチ。浅間橋上流や牟礼橋下流の木上で確認した。ゴキブリの幼虫を狩る。浅間橋上流や牟礼橋下流では夜間、ゴキブリ類が樹木の上に出ているのを確認したので、狩っていると思われる。サクラやコナラの古木の上を素早く動き回っているのを上水上流部や高井戸公園でも確認している。
アシプトコバチsp	●(成)	●(成)	●(成)8月29日	●(成)		ハエ類やチョウ・ガ類に寄生する。開発中に多くの蜂など上位の生物が餌がないか探回っていたことを思い出す。蜂の種類は多かったが、寄生蜂も宿主が減ると減少している。ハエヤドリアシプトコバチに似るが後脚関節は黄色くなかった。
ヤマトゲアナバチ	●(成) 6月9日					ギンクバチ科 腹部背面の後縁側に1対つづ貴紋が並んでいる。地面に巣穴を掘り、ハエなどを捕えて運ぶそうだ。ハエに似た小さいハチ。撮影した前屈みになっていた。前足に棘があった。
タマゴクロバチsp					●(成)9月9日	朱色のアリのような極めて小さい蜂。お尻がとんがり黒い。目も黒い。脚に寄生するらしいが種類は不明。
ヒメバチsp(トガリヒメバチsp？)	●(成)		●(成)			触覚の先に白い模様がある黒くて細いヒメバチの仲間。
トゲムネアリバチ	●(成メス) 7月28日					アリバチ科幼虫はハナバチ類の巣に寄生し育つ。成虫メスは胸部が赤く、頭部と腹部は黒い、腹部に白い帯がある。翅がニアリに似ている。脚と触覚第1・2節は赤から黄褐色。ムネアカアリバチに似ている。小型で足と触覚は黒っぽい。桑の葉の上で足早に何か探し回っているようだった。

クロクサアリ	●(成)	●(成)	●	●	●	ケヤキ大木で集団が、ヤノクチナガオオアブラムシの甘露を吸う姿を確認しました。クリオオアブラムシが出す甘露にも集まっていました。光沢のある黒いアリ。樺などの樹木に巣をつくる。最初、新女王は巣を作る時にアメイロケリなどの巣に侵入して、一時的に寄生することが知られている。ミミズの死骸に集まっていました。
クロヤマアリ			●	●	●	日当たりの良い公園や草原の土の露出した所、身近な場所に巣をつくる。サムライアリは本種の巣を襲い、働きアリや蟻をさらっていくことが知られている。
ヒメアリ	●(成)		●	●	●	体長2ミリの小さなアリで、腹部は黒色、胸などは黄褐色をしています。花の蜜に集まる姿が見られます。キュウリノ葉の上にいました。アブラムシやカイガラムシの甘露にも集まります。
アミメアリ	●(引越し)	●		●	●	頭部と胸部に網目模様があります。女王アリをもちず、働きアリが産卵します。石や樹木に巣をつくり頻繁に移動をします。動物糞より樹液や果実、草子に集まります。アカメガシワの蜜腺やエノキワタアブラムシとエノキやクズの茎で群れを観察しました。
トビイロシワアリ				●	●(成)10月6日	体長2.5m、フタフシアリ科シワアリ属クノガリに類似する。セミやミミズの死骸にきていた。餌に砂をかけることが知られている。巣の入り口がフジツボのような土の盛り上がりになるのが特徴。
テラニシリアゲアリ	●(成)5月16日			●	●	アブラムシ類と共生関係にあり、甘露を受け取る代わりに天敵から守ります。腹部の先端は尖って相手を威嚇攻撃します。キカラスウリの蜜を吸っていた。アカメガシワの蜜腺にも群れが集まる。ハバチの死骸に群れて集っていた。体色は黒から黒褐色。
ハリプロシリアゲアリ		●			●(成)8月23日	林内の立ち木の腐朽部、根際付近に多く営巣する。結婚飛行は7〜8月に行われる。テラニシリアゲアリと似る。胸部にある前伸腹筋刺が短く尖り方が鈍いのがハリプロシリアゲアリ。
トビロケアリ	●(成)		●	●	●	オカダンゴムシを襲っていた。未熟ですが、写真と照らし合わせ同定しました。
キイロケアリ		●(成)8月14日				ノボドウの花の蜜に集まっていました。お尻に棘があります。草地、芝生やコンクリートの下などに生息します。塚をつくることもあります。巣の中でアブラムシを育て蜜を食べます。
ハヤシケアリ(ケヤキ)	●					ヤブガラシの花の蜜に群れて集まっていました。2〜3ミリの小型のアリ。森林や林縁に生息し木や土の中に巣をつきます。腐朽部根元付近に多くあります。気につくアブラムシに集まり木の幹を上り下りする個体を見かけます。7、8月に結婚飛行が行われます。
アシジロヒラツアリ			●(成)			ハズ島で増えているアリ、ススキで観察された。ススキで、ススキアブラムシを飼っているらしい。蜜を舐めていた。
クサオオアリ	●(成)	●(成)8月14日	●(成)		●(成)9月12日	体長4から6ミリと中型で樹上性。木の枯れ枝などに巣をつくる。やや光沢がある。エノキワタアブラムシのあたりでみました。
クロオオアリ	●(成)		●(成)		●	大型。小型個体と大型個体で差がある。触角や足は比較的に長い。裸地や道ばたなどの開けた場所に巣をつくる。口は地上に土を盛り上げた噴火口のような塚をつくる。
ウメマツオオアリ	●(成)7月30日	●(成)			●(成)8月29日	本所の平野部で比較的に見られる樹上営巣性のアリ。巣は立木の枯れ木などに見られる。体長5〜6m、前胸の部分が少し褐色がかかる個体が多い。ハエの死骸に群がっていた。擬木を歩いていた。
カドツアリ		●(成)				兵庫橋のベンチ近くで確認した。フタツシアリ亜科 林床の土の中
ハエ目						
シオヤアブ	●(成オス)	●(成オスメス)	●(成オス)	●(成)		大型のムシヒキアブで、オスの腹部は白い毛が密集しているが、メスにはない。餌となる昆虫が少ないと見られなくなる。餌となる昆虫が多い場所に擬木などで、ナワバリを張っているのが見られる。甲虫目やハチ目などの昆虫を捕食する。
ホソヒタアブ	●(成)5月16,26日					オスは目がくっつき、メスは目が離れている。普通に見かけける種類だが、上水内が数で草本の花が見られないので、上水内や緑道より、築堤、歩道、周辺の人家の庭の土に蜜源を求めに行っている。ヒメジョオン、ハルジオンは蜜源が豊富で訪花するが、花が外来種駆除の対象植物なので本種も目にする機会が以前より減っている。
アオメアブ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)		体は黄褐色で緑色の複眼をもつ。日の角度で赤に見えることもある。大型の昆虫を捕らえることもある。
ナミホシヒタアブ	●(成)5月16、26日					触覚に黒い部分がある。フタホシヒタアブに似る。
ホソヒヒタアブ					●(成)9月9日	ホソヒタアブより小さい。ヒメジョオンやミントにきていた。
ヒラタアブsp	●(成)					ヨコジマオオヒラタアブに似たアブ。未同定
ヒメヒラタアブsp		●(成)				ホソヒタアブより小さい。ヒメジョオンやミントにきていた。
タカサゴアシフトハナアブ		●(成)				浅間橋から牟礼橋でアシフトハナアブは確認していますが、そのアシフトハナアブの姿に似ているアブという印象です。
マツムラハラフトハナアブ	●(成)2021年5月10日					マツムラハラフトハナアブ(東京都区部RDB→)21.5.10浅間橋上流で確認。大きめのマルハナバチくらいの大きさだった。
スイセンハナアブ	●(成)5月1日					幼虫はアヤマ科、ヒガンバナ科、ユリ科の球根を食べ空洞にする。球根に寄生した幼虫が世界各地に広がった。
マガリケムシヒキ	●(成)					後頭の毛が途中で前に折れ曲がっていることが特徴。アブやハエを好んで捕食する。
トラフムシヒキ?	●(成)					腹部が縞模様になったムシヒキアブ。ハエ、蜂、甲虫などを捕らえて、体液を吸う。
サキグルムシヒキ	●(成)7月7日					腹部が黒い。小さいムシヒキアブ。ナワバリで自分より大きな昆虫も狙う。擬木によく止まる姿が見られるのは、他のムシヒキアブも同じ。
ニトベハラボンツリアブ		●(成)				イトトンボのような飛び方の珍しいアブ林縁を移動していた(2022.8.8)体と後脚が細長く花に止まり吸蜜する。
クロスタイシアブ		●(成)				ムシヒキアブ科、体長10から15ミリ。時期4〜8月 黒色で胸部には灰白色から灰黄色の縦毛が生え、細い黒色の縦条がある。オスは顔面に黄色毛をもつ。
メハEsp	●(成)	●(成)				ヤマトクチフトメハエは、ツチハチ類に寄生する。ツチハチはシロテンハナムグリなどに寄生する。生態系がないと寄生バチは存在できない、ヨウシュヤメコボウの蜜を吸いにきていた。ツチバチを待ち構えているらしい。2023年8.1に確認。今年はミントの花にきていた。ツチバチと一緒に蜜を吸っていた。
モンキアシナガヤセバエ高井戸公園	●(成)5月26日					クスギの樹液にいた。腐敗した果実にも集まる。胸に縦線がある。翅に縦線がない。ホシアシナガヤセバに似ている。
コウヤツリアブ	●(成)7月7日			●(成)		体は黒色で、腹部は白い、おしゃねなツリアブ。カリバチやハナバチなどに寄生をする。牟礼橋や浅間橋で確認した
ビロードツリアブ	●(成)4月7日					春早く小さな背の低い花から花へ吸蜜する毛深い可愛いアブ。これを見ても春の訪れを感じることが出来ます。近年、見られていなかったが旧岩通ガーデン跡の公園で2年続けて本種を確認しました。とても嬉しいです。上水には花が少ないので見ることが出来なかったのも一つの要因です。
クロバナツリアブ	●(成)					体は黒色で、腹部は白い、コウヤツリアブに似ている。ドロバチ、ハキリバチ、ジガバチ類に寄生をする。浅間橋で確認した。
アシナガハEsp	●(成)7月23日	●(成)		●(成)		種類の多い分類群のひとつ。アブの方が近縁。観察したのは緑色のアシナガハエ。寄ると違って撮影が割と難しい。
ミハEsp	●(成)8月1日					果実に卵を産む。腹の形が特徴的。農業上、重要な位置を占めて影響を与える昆虫。農業害虫で有名なハエです。生殖活動ができない妻ができてウリなど被害がなくなりました。その仲間です。
イエハエ	●(成)7月28日			●(成)	●(成)	腹は全体が橙黄色のものから黒色のものまで変異がある。人家周辺でよく見られるが、自然環境下では少ない。幼虫は数滴や生ごみなどで生育する。
センチュウハエ	●(成)7月30日	●(成)				ヤブガラシの蜜を吸っていた。上水ではハエはアブと同じくらいみかけが 樹液にきていた。昔に比べると水洗トイレや下水道の普及に伴いやや少なくなってきたそうです。
ニクハEsp	●(成)6月24日		●(成)8月20日	●(成)		雄では両複眼が接しているが雌では離れている。
ヤドリハEsp	●(成)					翅の付け根が白く4枚ついているようにみえた。平均横というそうです。
ツマグロキンバエ	●(成)6月23日					クロバエ科、花でよく見られる小型のハエ、トウネズミモチ花にきていた。口は長く突き出し蜜や花粉を食べる。複眼は青緑で縞模様がある。翅の先は黒く閉じて止まる、
ヒロズキンバエ	●(成)6月30日					イチゴの新たな花粉媒介昆虫と考えている人もいる。
キンバEsp	●(成)		●(成)8月20日	●(成)	●(成)	体は金緑色。ヤブガラシの花の蜜を吸っていた。ミドリキンバエなどいろいろな種類がいる。花の蜜にもくち。クロバエ科の成虫はおもに動物死体、人畜糞や厨芥に産卵し幼虫はそれらを食べて成長する。衛生上問題となることも多い。釣り餌として売られている「サシ虫」はキンバエ類の幼虫
キノコバEsp				●(成)	●(成)	ホコリダケの小さなハエがきていました
ハグロケバエ	●(成)6月2日					5.6月と8.9月に成虫が見られる。大発生して群飛する姿を確認したこともある。コナラや楓の蜜を吸います。幼虫は堆肥などから大発生することもあります。有機物の分解をしています。メスアカケバエも以前確認した。
カトウトゲアシモグリハエ	●(成)6月23日					トゲアシモグリハエ科 クスギの幹に多数他の昆虫と集って樹液を吸っていた。翅に斑紋のある小さなハエ。
ハモグリハEsp	●(幼)5月9日					いろいろな葉にいろいろなハエが産卵して、葉に字を書いたように幼虫が道を掘りながら食べ進みます。[「字書き虫」ともいったりします。
ホリカワクシヒゲガガンボ	●(成)5月26日 高井戸公園	●				ちょっと綺麗なガガンボの仲間。ベッコウガガンボに似る。前翅基部の透明部分が広く、翅端部の黒斑が大きい。灯火にも飛来する。幼虫は朽木の中で育つ。2023年は高井戸公園南区浅間橋そばで確認した。今年は高井戸公園北区伐採木の切り株にいた。
キイロホリガガンボsp	●(成)5月26日					幼虫は土の中で生活し。植物の根を食べる。ムギなどの作物の害虫となる。成虫は鼻の蜜を吸います。翅は無紋。
ヒトスジシマカ	●	●	●	●	●	別名ヤブカ 黒の体色に白い縞がある。出現期は5月から11月。早朝と夕方方に活発に活動する。猛毒の時期は少なかった。オスは吸血しない。メスが産卵のため吸血する。花の蜜や草の汁を通常はエサにしている。 Deng 熱などの感染症を媒介する。
ユスリカsp	●5月26日					ハエ目ユスリカ科 見た目が蚊に似ていますが人の血は吸いません。幼虫は赤虫と呼ばれる水中に棲みます。オスは釣り餌として利用されます。成虫になると翅が生え空中を飛びまです。繁殖のために蚊柱をつります。ユスリカは鳥や昆虫などの食物にもなります。
クモ類						クモは影響が現れやすいと感じる。餌となる昆虫の現象も原因のひとつ。蜘蛛はなかなか成体にならない。何年か確認していない蜘蛛はたくさんいたが、今年は伐採や藪や草地をのこしているで確認できたクモがいる。
ナガコガネグモ	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)9月23日	コガネグモに比べて体が細い。餌がなくて大きくなれない。コガネグモより都市化した場所で見られる。成体はジグザグのリボン状の隠れ帯をつける。刺激を受けると網を揺さぶる行動をとる。開発前は上水でコガネグモを確認している。8月下旬の草刈りで姿が確認できなかったが、岩通の柵内で確認した。
コガタコガネグモ	●(幼)		●(成)	●(成)	●(成)9月16日	藪や餌となる昆虫がいる環境でみられる。擬木近くで網を張る姿が見られる。チュウガタコガネグモという似た種類は最近、確認していない。コガタコガネグモもオオシロコガネグモなど何年も確認できていなかったが、緑を残す配慮を行っているので旧岩通公園や浅間橋上流で確認するようになってきた。
ムツボンシオニグモ	●(幼)4月18日					擬木で餌を探していた。網は張っていなかった。小さい個体で腹は黄色くお尻に黒点があった。
ドウウオニグモ			●(成)			黄色い小型の鬼蜘蛛の仲間。水田、草原、河原で見られる。見えやすいところに網を張っているが、何年か確認していない。餌の取れないと蜘蛛や蜂やカマキリのような肉食の昆虫や蜘蛛は小さかったり、探し回ったり、数が少なくなったり、幼虫のままで成虫の姿を見れなかったする。コガタコガネグモも最近確認していない。
ビジョオニグモ				●(成)	●(成)	腹部が、腰のおじさんのような顔に見える蜘蛛。
サツマノミダマン	●(幼)7月7日	●(幼)8月16日	●			ハゼの実に似ているクモ。ハゼの実とは、サツマの実とも呼ばれることがあるのが、この名の言われ。コガネグモ科ヒメオニグモ属の仲間で、垂直円網を夜に張って朝たたむ。高井戸公園でも6月27日確認。ワキグロサツマノミダマンは、今年の初夏(2024年5月6日)確認している。
ジョウウグモ	●(幼)	●(幼)	●(幼)	●(成)	●(幼)	脱皮を繰り返し大きくなり秋になると目立つ蜘蛛。1番数多く見られる。オスはメスより小さい。餌が多くとれた個体ほど大きい。幼体は春に孵化し「まだい」と呼ばれる集団生活を送ったあと、バレーニングを行う。円居は5月9日に見られた。網は複雑で、壊れた網は部分的に張り替える。網は大きくて下に長い馬蹄形。
コゲチャオニグモ	●(幼)6月30日	●(幼)8月16日	●(幼)	●(成)8月28日	●(幼)9月2日	コガネグモ科、茶色の小型のクモ。色彩は変異に富む。星間は葉の上に隠れている。円形の網を張る。
オニグモ	●(成)	●(幼)8月16日				大型の円網を夜に張り直す蜘蛛。星は網をたたみ物陰で休んでいる。たたまない個体もあるようだ。網はタンパク源、食べて再利用する。
ギンメッキゴミグモ	●(幼)7月28日	●(幼)	●(幼)	●(幼)	●(幼)9月2日	コガネグモの仲間(ゴミグモ属)で綺麗な円網を張る。腹部が銀色をした小型のゴミグモ。上を向いて網に止まっている。ギンメッキゴミグモは数は少なく小さい個体が多いが、まだ見かける。ただのゴミグモは道路開通以来、確認していない。
ゴミグモ	●(幼)6月2日					牟礼橋を岸下流で観察会の時に緑道のヤブコウイで久しぶりに確認した。網に食べかすなどのゴミを付けてゴミに擬態して隠れる。以前に確認した時と近い場所に現れた。
マルゴミグモ	●(幼)7月12日		●(幼)			7/14 小さな蜘蛛。網の上に集まるように止まっていた。食べかすはついていてゴミはさほどついていなかった。近年急激な北上傾向が見られる。コガネグモ科
コアシダカグモ		●(幼)8月16日			●(成)9月18日	アシダカグモは屋内にいたことがあるが、コアシダカグモは屋外の蜘蛛。アシダカグモより小さく、腹部に模様がある。夕方過ぎになると擬木の上に出てきて狩りをしていた。牟礼橋下流と岩崎橋下流で確認した。牟礼橋下流にはゴキブリ類が出ていたので、それらを狩っているようだ。(東京都RDB区部VU)
ササグモ	●(幼)	●(幼)	●(幼)8月20日	●(幼)8月29日		網を張らない徘徊性の蜘蛛。草や花の上で多く見られた蜘蛛だったが、餌が取れないのか見かけることが減った。旧岩通ガーデンや上水内で確認した。
ヒラタグモ	●(黒)	●(黒)	●(黒)	●(黒)	●(黒)	擬木に巣が見られる。円盤状住居の網に受信糸が放射状に伸びて昆虫がふれると蜘蛛が飛び出してきて捕らえる仕組み。本体は黒白で足は赤い小さなクモ。
アシナガグモ	●(幼)	●旧岩通	●(成)8月8日			木や草の間に網を張る細身の蜘蛛。
ウロコアシナガグモ	●(成メス)高井戸公園5月26日					綺麗な感じの蜘蛛で、開発前はよく上水で大きくなった本種を確認したが、小さい個体ばかりをたまに見つけるぐらいになった。しかし、見られない時期もあったので、又増えてほしいものだ。人の背丈くらいのところの枝葉に網を張る。円網で「水平、垂直いろんな角度をとる。
コンロカネグモ	●(成メス)					樹間に水平円網を張っていた。オオシロカネクモ綺麗な感じのアシナガグモ。刺激を与えると腹部の筋が黒くなる。
カゲヤヒメグモ	●(成)	●(成・卵室)				ヒメグモに似る。樹木の木の分かれ目に網を張っていた。お尻が尖っていた。以前は葉を吊り下げてそこで観察したこともある。
オオヒメグモ	●(成)	●(成)	●	●(成)	●	擬木柵に粘性のない不規則な網を張る姿が見られる。粘糸のついた糸(ガムフット)を地表に下ろして徘徊性の節足動物をとらえる。獲物が粘着物質に触れると糸が外れて虫が吊りになる。モンクシロチャホコを食べていた。オカダンゴムシも網にかかっていた。
ウズグモ	●(成)5月16日					水平な円網で渦状の隠れ帯を持つ小さなクモ。林縁の下草や根本付近で観察する。久しぶりに観察したクモ。樹林や下草をのこしているの、あるクモや鳥類にはよいようだ。逆に花が咲かないので困る種類もある。
ネコハグモ	●(成)	●	●	●8月23日	●9月16日	葉に網を張る小さな蜘蛛。模様が特徴的。今年は猛毒で乾燥していた真夏の時期は、葉の上で網を張る姿を観察できませんでした。
キンイロエビグモ	●(幼)	●(幼)8月16日	●(幼)	●(幼)8月29日	●(幼)9月3日	擬木にペタンと張り付いているのを確認することがある。徘徊性の蜘蛛。桑の葉裏に白っぽい蜘蛛を確認。腹白型と金色型がある。腹部に4つ点がある。
アサヒエビグモ	●(幼)16月17日					キンイロエビグモに似ている。違いは、アサヒエビグモは、茶色っぽく側面が黒く腹部に斑紋はなくマダラ模様がある。キンイロエビグモは明るい色で腹部の両側に明瞭な斑紋がある。
ウツキヨモリグモ			●(成)			地面近くを走って逃げる徘徊性の小型の蜘蛛。イオウイロハシリグモなどの大型の蜘蛛は見かけることが少なかった。卵室をお尻(糸状)につけたり、小蜘蛛を背中(腹部)に乗せて運ぶから子守り蜘蛛と呼ばれるようになった。
ジグモ	●(黒)	●(黒)				開通前に確認したことがあるが以前より小さい巣のため気づかないでいた。以前確認した同じ場所のロープ橋近く5つほど巣があった。
イエユウレイグモ		●(成)				高井戸公園のトイレにいた。屋内性のクモで、天井や隙間にシート状の不規則な網を張る。触れると体を揺らして驚かす。ユウレイグモより大きい。
ヤチグモsp?	●(成)					木の根際の洞に巣をついていた。上水の擬木上で観察した。岩通の樹木のウロで観察した
フクログモsp	●6月20日			●		網を張らずに地上や草の間、樹枝葉上を夜間歩き回り小昆虫を捕食する。多くが葉を綴り部屋をつくり中にこもり、卵室を守る。樹皮、唐木、石の下に産室をつくる種もある。
ワシグモsp?	●					やや細長く楕円の頭部と腹部にしっかりと歩脚をもち地上を低い姿勢で走り回る。網を張らない蜘蛛。糸状の形が前の対と後ろの対が円筒形で長い。前の対は互いに大きく離れている。1センチ前後の大きさが多い。体色は黒から黒褐色。
イタチグモ?		●8月16日				ウエムラグモ科イタチグモ属 袋状住居をつくる。土壌性の蜘蛛で広く生息し歩き回って獲物を探す。
ワカバグモ	●(成)	●(幼)	●(幼)	●(成)	●(幼)	緑色の蜘蛛。オスでは成熟すると頭と頸部基部が褐色になる。樹上の葉の上で待ち伏せして獲物を捕まえる。ワカバグモはよく目にする蜘蛛のひとつ。
アズチグモ	●(成オス)		●	●	●(成メス)9月9日	白い小さな蜘蛛。花にいたことが多く、センシソウの花にいた。オスは小さくてオレンジ色。安土蜘蛛と漢字で書くので、アツチグモとするのが正しいという説もあるが、図鑑ではアズチグモとするのが多かった。
ハナグモ	●(成)5月9日					カニグモ科 草地や林縁に生息する。植物の茎や花で獲物待ち伏せ。頭胸部は濃い緑色で、腹部はコハナグモより丸みはない。腹には模様があったりなかったりする。コハナグモに似ている。
コハナグモ	●(成)6月17日高井戸公園	●(幼)		●(成)		カニグモ科 ハナグモより見かけない。小さいので花などよく見ると気づくことがある。 草地や林縁に生息する。植物の茎や花で獲物待ち伏せ。頭胸部は濃い緑色で、腹部は丸みがあり、白く中央に模様がある。ハナグモに似ている。旧岩通ガーデン跡の公園のネムノキで確認。上水や緑道でも確認している。
ヤミイロカニグモ	●(成)5月17日					カニグモ科 徘徊性のクモ イボタの花の側で獲物待ち伏せしていた。近年、花にけるカニグモの仲間は見かけることが少ない。ハルジオン、ヒメジョオンを駆除して草本の花がないのも原因のひとつのようだ。木の花には来ているようだが高いところは見えないため不明である。6/16高井戸公園にて確認する。
ネコハエトリ	●(成)	●(成)	●(成)	●(幼)	●(成)	徘徊性の普通に見かける蜘蛛で、可愛いと人気がある。神奈川県や千葉県の一部では、蜘蛛の雄に相撲をとらせる「ホチン遊び」というのがある。ミントの花で待ち伏せしていた。
チャイロアサヒハエトリ	●(成)6月25日					足が長く黄色い体に暗褐色の模様がある蜘蛛。
デーニツハエトリ	●(幼)6月	●(成)8月11日		●(成メス)8月23日		腹部に赤褐色の太い線をもつ徘徊性のハエトリグモ。

ミスジハエトリ	●(成)	●(成)8月11日				葉に筋模様のある蜘蛛でハエトリゴモの中では、あまり確認しない。屋内外に生息。昔は屋内に生息していたが、今ではアダンソンハエトリが分布を広げて生息域をうばわれているという報告がある。
メスジロハエトリ	●(幼)6月		●(幼)8月8日			木の葉や茎にいた。とても小さいハエトリゴモ、メスは白く褐色の斑模様がある。擬木の上やのはの上で確認した。
シラヒゲハエトリ	●(幼)	●(成・幼)	●(成)	●(成・幼)	●(成)	白い髭のような毛むくじらの蜘蛛。擬木欄でよく見られる白っぽい一番上水でよく見られるハエトリゴモ。シラヒゲハエトリがワカバゴモやハエやモンクシロヤチホコ幼虫を捕まえて食べていた。
アオオビハエトリ	●(成)6月16日					灰黒色の体に青い模様がある。脚とお尻をを上げてダンスをする。アリを捕えて食べる。アリがアブラムシの蜜を吸うようにアオオビハエトリも蜜を吸うそうだ。擬木の上や林縁の葉の上のアリがいる場所で確認することが多い。夏には見かけなかった。
マミジロハエトリ	●(成オス・メス)5月16日		●(幼オス)	●(成)8月28日	●(成メス)	特にオスの前眼列の上に白い毛が密集して生えていて眉毛に見えることから名付けられた。ワカバゴモを捕まえていた。
アダンソンハエトリ					●(成)9月4日	高井戸公園のトイレで確認。主に屋内で見えるクモだが、上水で確認したことがある。
クサグモ	●(成)	●(黒)	●	●	●(成)	タナグモ科　棚網を垣根などに張っている。三厘の上水の茶の垣根は、タナグモの巣を取り除かないで、葉を食べる虫から守る益虫でもある。
コクサグモ	●(成)	●(黒)	●	●	●	タナグモ科　棚網を垣根などに張っている。コクサグモでは胸の2本の黒い縦線が横線で区切られる。
ヤガタアリゴモ	●(成メス)		●(成メス)8月20日	●(成オス)		赤い部分が目立つアリゴモ。擬木欄を走る姿を見かける。
アリゴモ	●(成)6月16日			●(成オス)		アリに擬態するクモの仲間。
クワガタアリゴモ	●(成メス)7月30日					アリに擬態するクモの仲間。
ヤサアリゴモ	●(成メス)6月	●(成オス)8月				アリに擬態するクモの仲間。
シロカネイソウロウゴモ				●(成)8月31日	●(成)10月6日	今年はジョロウゴモの網が小さいがジョロウゴモの巣に居候する本種を浅間橋上流で確認した。仁丹のように光る小さいクモ。
ダニ目						
タカラダニ	●	●	●	●	●	全身が赤く目立つ。タカラダニ類の幼虫はセミ、バッタ、カミキリムシ、クモなどに寄生しその体液を吸う。成虫は苔の葉を食べたり、植物の葉につくハダニやカイガラムシを捕食する雑食性。すべて、メスで単為生殖を行う。生態がよくわかっていない不思議な虫。コウゾチビタマシムについていた。
ミズ目						
ミズミ	●	●(成)				土壌をつくるミズミは大きな存在。ムクロリやモグラやいろんな生き物を土壌生物は支えている。底辺が広く豊かでないと思える系ビラミッドは支えられない。雨が降ったあとは緑道にできている。死骸にアミメアリが集まっていた。クロスズメバチに死骸を食べられていた。
多足類						
アオズムカデ		●				雨の日や湿度のある時は擬木にムカデの子供がでている。古木にも登ることもある。
ジムカデ						イネ科のイヌムギを駆除した地面に生息していた。オカダンゴムシなどと一緒だった。土壌は栄養がありそうで黒かった。
イシムカデ						イネ科のイヌムギを駆除した地面に生息していた。オカダンゴムシなどと一緒だった。土壌は栄養がありそうで黒かった。
ヤケヤスデ ^{sp}		●	●			土壌環境をつくる生物、ムカデは肉食だが、ヤスデは腐植食性で毒を持たない。
コバネハサミムシ					●(成)	コシンの種を地面から取って観察していた時に見つけた。小さなハサミムシだった。
オカダンゴムシ	●	●	●	●	●	刺激を受けると腹面を内側に丸まり、球形のダンゴのような形になる。雨の日や湿度のある時は擬木にでている。土壌環境をつくる大事な生物。模様希、薄い色は雌の成虫の可能性が高い。甲殻類のなかま。明治時代にきた外来種説がある。コシビロダンゴムシという森林性のダンゴムシがいて乾燥に強いオカダンゴムシは人家周辺に広まっ
ワラジムシ	●7月23日		●8月16日	●8月23日		ダンゴムシににているが、刺激を受けても丸まらない。ダンゴムシと共に観察されることが多い。擬木に湿気のある日に確認できる。甲殻類のなかま。
貝類						猛暑で乾燥している時期は見られなかった。開発で影響を受けた種類です。ヒダリマキマイマイや微小貝は減少しました。以前は擬木の上にも雨が降るとたくさん出ていました。気候変動でも生息しにくくなっていると考えます。
ミスジマイマイ	●7月24日	●	●	●	●	ミスジマイマイは樹上で見られるがヒダリマキマイマイなどは草地性のカタツムリは草刈りや改変に影響を受けやすい。
オナジマイマイ	●5月10日			●	●	殻はやや平たく殻の裏の臍孔は開く。周縁に褐色の色帯を持つ型と持たない型がある。越冬し複数年生きる。草地の開けた環境で見られる。野菜や苗も食害する外来種。
ウスカワマイマイ	●5月10.16.26日					殻は球形。殻の色は淡い黄褐色で薄く半透明。そのため、軟体の模様が透けて見える。(マダラ模様が多い)成熟しても殻口が反ることはない。　人家周辺や畑など開けた環境で見られる。殻の裏の臍孔は半分閉じる。
キセルガイ ^{sp}	●6月17日		●	●	●	木の幹、落ち葉の下、岩陰、擬木欄に普通に生息する。大部分が左巻き。落ち葉、朽木、樹皮、藻類、菌類なども食べる。キノコを食べていた。
ナメクジ(フタスジナメクジ)	●7月	●	●	●	●	普通に見られるナメクジ背部に3本の線が入る。在来種
ノハラナメクジ	●5月.26日					ヨーロッパ産の外来種　野菜の食害が問題になっている。草地、道端、林縁、庭、公園などで見られ森林内では見られない。高温や乾燥に弱い。体色には多様性が認められる。体前部背面に長い楕円形の外套膜が笠上にある。
オオコウラナメクジ	●5月.26日					マイマイ目。体長5センチほど、褐色で頭部触覚は黒い、後方に亀甲模様、小斑紋、前方は黄褐色で背中にも縞を持つ、その後方には稜角がある。
ニヨリチャコウラナメクジ	●5月13日					普通に見られるナメクジ背部に甲羅のようなでっぱりがある。外来種。関東地方から東には主にニヨリチャコウラナメクジ、東海地方から西には主にチャコウラナメクジが分布し、2種は生殖器の形で区別できるそうだ。
マルシタラガイ		●				カタツムリ類、とくに微小貝は開発で影響を受け減少した種類です。殻は薄く色は淡黄褐色で半透明、光沢がある。周縁は丸い。アオキの葉裏でみつかるそうだが、雨の日に擬木で見ました。
エンスマイマイ?	●					カタツムリ類、とくに微小貝は開発で影響を受け減少した種類です。
爬虫類						
ヒガシニホトカゲ	●(成)	●(幼)	●(成)	●(幼)	●(成)	幼体と成体で色が異なる。オスの成体は褐色の体の側面に黒褐色の線が走る。繁殖期のオスは頬から腹にかけて赤みを帯びる。幼体は体色が黒や暗褐色で5本の明色の縦線が入る。メスは幼体の色彩を残し成熟する。昆虫類やミミズ、蜘蛛などの肉食、果物を食べることもある。東京都RDB　区部OREN
ニホナカナヘビ	●(成)5月26日7月?	●(成)	●(成)	●(成)	●(成)9月2日	ヒガシニホトカゲより木に登ったりできるので環境に適応力があるようだ。今年は乾燥した時期に一時、姿をみけなかった。昆虫や蜘蛛、ワラジ虫などの陸生型節足動物、果実などを食べる。東京都RDB　区部OREN
アオダイショウ	●(幼)7月12日	●(成)	●(抜け殻)8月20日	●(幼)9月4日	●(成)9月4日	浅間橋上流で擬木に餌を探しに出てきた幼蛇を確認した。幼蛇の脱皮殻を傘礼橋上流で確認した。東京都RDB　区部NT　近年は太い蛇を確認していない。上流でシマヘビを確認したことがある。開通後はヒバリを確認していない。両生類ではアズマヒキガエル、ニホンアマガエルを確認していない。
ニホンヤモリ		●(成)8月16日		●(幼)9月3日		夕方になると擬木の隙間から出てきて餌を擬木で撮っているのを確認した。
ミシシッピーアカミミガメ	●(成)6月17日					兵庫橋で2匹確認。春は浅間橋で確認した。別名ミドリガメ。祭りの緑日でカメすくいとして大量に繁殖された。成長すると大きくなり長生きするので、飼いきれなくなり人が野外へ放たれ広まり、在来の生態系に深刻な被害を与えてきた。2023年より条件付き特定外来種に指定された。道路整備中に、上水(杉並)では、カミツキガメも確認された
虫類						
エゴノコアシ(エゴノコアシアブラムシ)	●7月30日		●			エゴノキにつく猫の足の裏のような虫こぶ。エゴノコアシアブラムシが寄生してできる。7月になると有翅型が出現し、アシボノへ移動する。秋に生まれる有翅型はまた、エゴノキへ戻り雌雄を産む、卵が越冬し春に無翅型の雌が生まれる。
エゴノキハヒラタマルフシ(エゴタマバエ)	●7月	●				エゴノキの葉にエゴタマバエが卵を産み丸いフシになる虫こぶ
ヌルデハイボケフシ(ヌルデフシダニ)	●	●	●	●	●	ヌルデの葉にヌルデフシダニがイボをつくる虫こぶ。
オニグルミハイボケフシ	●5月16日					オニグルミの葉にフシダニがイボをつくる虫こぶ。
ケヤキハフクロフシ(ケヤキヒストジワタムシ)	●6月		●		●(抜け殻)	ケヤキの葉にケヤキヒストジワタムシが袋状のコブをつくる。5. 6月にササ類にうつる。ケヤキとササの二つの環境がないと生きられない。虫こぶをつくる昆虫には、そうした生物が多い。
ヤマハギハトジタマゴフシ	●5月26日高井戸公園					ハギハトジコブタマバエのつくる虫こぶ、ハギの葉を二つ折りして餃子のように見える。
ニッケイハミヤクイボフシ(ニッケイトガリキジラム)	●	●		●	●	ヤブニツケイの葉にニッケイトガリキジラムがイボ状の虫こぶをつくる。
カラスウリクキアクレフシ			●		●	虫こぶの名前には規則性がある。植物の名前、作られる場所、虫こぶの特徴、フシの順番。カラスウリ、茎、ふくれ、フシ　となる。寄生者はウリウロコタマバエ。
ケヤキハウロコタマフシ・ケヤキコタマフシ(タマバチ)			●		●	ケヤキの葉裏にタマバチが小さい球状の虫こぶをつくる。
エノキハイボフシ	●7月7日		●8月20日			フシダニによってつくられる虫こぶです。　初夏には、エノキハトガリタマフシ(エノキガリタマバエ)も見られます。こちらは、カワラヒワなどの野鳥が食べることもあります。他の虫こぶも野鳥が食べているのを見かけることがあります。
シロダモハコブフシ(シロダモタマバエ)			●			シロダモの葉裏にシロダモタマバエが小さいこぶ状の虫こぶをつくる。寄生バチはコガネコバチとシロダモタマバエコムバチ。8月27日にはシロダモの葉に穴があいて、虫こぶはほとんどなかった。タマバエが羽化したか、野鳥が採食したか不明。シジュウカラもシロダモの虫こぶを食べるようだ。ヒヨドリが虫こぶを食べていたのは観察した。
イヌシデマフクレフシ		●		●		イヌシデの冬芽にできる虫こぶ。寄生者はシロメフクレダニ。5月にダニが脱出します。
クスノキハクボミフシ	●	●			●	クストガリキジラムによって葉に形成されるイボ状の虫こぶ。葉裏に幼虫が羽化する。クストガリキジラミトビコバチが寄生する。
ナラハイトコタマフシ	●6月17日				●9月9日	コナラの葉に脱出孔を確認した。ナラハイトコタマバチがつくる虫こぶ
ナラハヒラタマルタマフシ	●7月18日					コナラの葉にできる赤く丸い虫こぶ。ナラハヒラタマルタマバチの卵です。寄生される植物組織が異常な発達を起こしてできるコブ状の突起を虫こぶといえます。6、7月頃産卵が始まり、8、9月頃に虫食いが見え下し虫食いの中で内側を食べて成長し越冬します。翌春、4、5月に羽化した成虫になるそうです。
クスギエダイガフシ						クスギエダイガタマバチ、ナラフシタマバチ、クスギタマバチ、クスギイガフシバチによって新梢に作られる球形の虫食い
センダンハキファシ	●	●				センダンコクログジラムによってつくられた虫食い。越冬した成虫は5月ごろ新芽に集まってきて完尾し産卵する。孵化した幼虫が吸汁すると虫食いの形成が始まる。6月末頃に最終幼虫は健全な葉に移り7月上旬から中旬に羽化する。
植物　花や実が目立つ種類をあげた						遷移して進行し放置竹林やクズなどの飯に覆われて、アマナ(東京都RDB区部VU)、ノカンゾウ(東京都RDB区部DD)など衰退している。チダケサシは緑道の草刈りで失われてしまった。管理者に10年以上上伝が続いている。把握しきれず段々と失われていくので、引き続き対策をお願いします。
アズマネザサ	●	●	●	●	●	昨年の秋(10月)に一斉に笹枯れしました。とくに傘礼橋下流右岸がササ枯れました。春先は勢いが衰えたかと思いましたが、夏には元に戻っていました。
アオギリ	●(実)開いていない	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	アオイ科アオギリ属　幹肌が青緑色で大きな葉がつく様子でキリに似ることから名付けられている。果実は蒴果で、秋に熟す。舟形の繭にエンドウマメくらいの種子をつける。耐火性がある。樹皮は粗布や縄の材料にする。建材にも用いる。耐久性は低い。広島で被爆アオギリは、再び芽生えて人々に勇気を与えた。
アオツツラフジ	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	別名カミエド。エビはブドウの古名で、果実に白い粉がついているのをカビに見立ててカミエドと誤んだ。ツツラは衣類を入れるカゴのこと。このツルで籠を編んだ。紫の実の中身は、種の形がアンモナイトのようで、面白いつる植物。今年はアオツツラフジが食害のヒメエグリバを確認した。
アカバナツウゲショウ	●(花)6月20日					アカバナ科ツウゲイサ属　午後遅くに咲き次の日の午前中くらいまで咲いている。タ化粧ともいう。ピンク色の宵文の低い可愛い花だが外来種。果実は雨に濡れると開いて散布される。
アカメガシワ	●(花・実)	●(実)	●(花・実)	●(実)	●(実)	トウダイグサ科　落葉高木。雌雄異株。春に出る新芽が紅い色をして葉は柏の葉のように大きいのが、名前由来となっている。パイオニア植物。葉裏に線点があってアリが集まることが知られている。伐採や森林火災により森林が破壊されると一気に繁殖する。種子はハトやメジロなどの鳥類が散布する。
アキカラマツ	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	キンポウゲ科　かわいらしい葉をもつ。カラマツの葉を思わせる花をつけることが名前の由来との説がある。カラマツソウは白色の花で茎が空洞。果実は垂れ下がる。小麦の赤錆病の中間宿主植物。ハチなどの昆虫が訪れる。
アキノエノコログサ	●(花・実)	●(花・実)	●(花・実)	●(実)	●(実)	イネ科　猫じゃらしと呼ばれる身近な草。エノコログサより一回り大きく穂が垂れている。近年では都会周辺でエノコログサより多いとの声もある。昆虫や鳥などが食べている姿を観察できる。
アキノタムラソウ	●(花)	●(花・実)	●(花・実)	●(花・実)	●(花)	ヤブに覆われて減少傾向、蝶や蜂の蜜源になるが、花が少ないのでチョウも訪れなかった。シノ科。茎は角張って四角形。葉は対生で葉の出入は変異がある。
アキノノゲシ	●	●	●	●	●	キク科の一年草または二年草。レタスの仲間。稲作とともに日本に渡ってきた史前帰化植物。青が高くなってから花を咲かせるので、草刈りで花を見ることが少ないつも刈られてしまう。
アシボリ	●	●	●	●	●	イネ科の1年草。ササガヤと似ている。アシボリの方が葉が長い。披針形で中央部が最も広い。林縁などに生える。茎が先よりも根元の方が細いのでアシボリという。
アマチャヅル			●		●	ウリ科のツル植物。ヤブガラシの葉に似ているが、葉は葉らしく短毛がある鳥足状模様。できたら噛み触れて比べてみましょう。雌雄異株。開花は8. 9月。滋養強壮、咳止めのお茶として飲まれた。しかし医薬品との相互作用は不明との報告もある。
アメリカタカサブロウ				●(花・実)		岩道で見られた。新しく造成された水田や道端に多い。タカサブロウはアメリカタカサブロウより早く導入されたと考えられている。二つは、そう果の形が違う。アメリカタカサブロウは翼が目立たない。
アレチウリ	●　駆除				●9月26日駆除	特定外来種　兵庫橋右岸で見られた。気がついたのが9月に入ってからだったが、まだ広がっていないが注意が必要、ウリ科の1年生草本。　ハチなどが花の蜜を求めて訪れる。雌雄同株で、雌雄異花で、トゲだらけの球状の種子ができる。クズのように他の植物を覆い尽くしてしまう。
アレチヌスビトハギ	●(花)		●(実)		●	北アメリカ原産の1年生草本。花は繡繖だが、繁殖力の強い外来種。岩道跡の公園や築堤、岩崎橋下流左岸緑道に見られる。外来種駆除の効果が在来のヌスビトハギを今年は多く確認。果実は3から6節、在来のヌスビトハギは2節。衣服にくっつく、ひつつき虫と呼ばれる。
イギリ	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	ヤナギ科の落葉高木。枝は下から輪状に出る。枝の落ちたあとは目玉模様になり落ちる。落葉しても葡萄のふさのように赤い実が残りますヒヨドリなどが食べる。雌雄異株。大きな葉はこ飯を包んだ。伐採跡にでるパイオニア種で大木になる。葉はキリやアカメガシワに似て大きく心形。葉柄にも蜜腺があるのでアリを誘き寄せ守ってもらっている
イタドリ	●	●	●	●	●(花)9月	タデ科、別名スカンボ。スイハもスカンボという呼び名がある。若芽は食用になり少し酸っぱい。食べすぎないこと。日本では在来種だが、ヨーロッパや北アメリカでは、外来種で強盗草と言われる。生えている場所是不動産価値が下がると言われる。攪乱を受けた場所によく出る先駆植物。茎をタコウインナーのように裂き竹をさし水車にする遊びが
イヌガラシ				●(花・実)		アブラナ科　スカンゴボウに似ている。実の形が違う。春には確認した。ツマキチョウやスジグロシロチョウの食草。外来種のショカツガイが繁殖だからと種を蒔き一時増えたツマキチョウも増えたことがあったが、外来種駆除でまた減少した。在来種を圧すほど増えると注意。在来種のイヌガラシ、ナズナ、タネツクシなども食草。
イヌシデ	●(実)	●	●(実)	●(実)	●(実)	別名シロ、高木、本州から九州の温帯に自生。低地から山地の林に普通。雑木林に多く混成する。コナラやアカシデなどよく混成する。雌雄同株。葉は毛が多く、アカシデに比べて葉先と葉柄が短い。樹皮は白と灰色の縦線模様が目立つ。
イヌタデ	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	タデ科　別名「アカマンマ」　飯事遊びで、この花をこ飯に見立てた。似ているハナタデは葉先が尾状になる。ハナタデは減少している。
イヌツゲ	●(花)5月26日	●(実)	●(実)	●(実)	●(雷)9月30日	モチノキ科常緑樹　雌雄異株　葉は互生。　材はツゲより劣るためイヌツゲと名付けられる。ツゲはツゲ科　葉は対生。上水内にも生えるが、上水緑道の道路側メッシュコブ内の植栽や垣根に使われている。
イヌビエ	●(実)		●(実)	●(実)	●(実)	イネ科　緑道に生える。カメシなどがきている。鳥の食物にもなる。水田雑草の一つとして嫌われる存在。イネに似ていて除草剤にいい。田植え前後に芽生え、稲の出穂に先立ち開花結実し、刈り取られる前に種子散布をしてしまう。
イヌホオズキ	●(花)		●(実)		●(実)	ナス科。在来種。似た仲間にアメリカイヌホオズキ、テリミノイヌホオズキ、カンザシイヌホオズキなどがある。難しい実のつき方。種の数、葉や花や実の数や形などを比較して区別する。
イヌゴツヂ		●	●	●(花)		増えて目立たない花だが昆虫の蜜源になる在来種。名前の由来は膨らんだ茎を猪の踵に見立てた。ヒナタノイコヅチとはタネの付属体の大きさ。ルーベで確認するとイノコヅチ(ヒカゲノイコヅチ)の付属体の方が1ミリと大きい。ヒナタノイノヅチは0.5ミリ。
イボタ	●	●	●	●		モクセイ科の落葉低木。初夏に白い花をつける。ハナムグリや蝶、蜂などの昆虫類が訪れる。テントウムシハミシに葉を食われる。イボタロウシムシが寄生することがある。
イロハモミジ	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	ムクロジ科カエデ属　葉が掌のように分かれておりいろはにほへとと数えたとこと由来する。又、蛙の手の形に似ることから「蛙手」の意味で名付けられた。葉が鋭く深裂する場合はモミジ、浅く切れ込ばカエデと称されることが多い。成木は縦に筋が入り若木は滑らか。葉は日当たりの良い場所は赤く、悪い場所は黄色になることが多い。今年
イモカタバミ	●(花)6月20日					カタバミ科の多年草。三つ葉に濃緑の花弁で中心が黄色く見える。似ているムラサキカタバミは中心が白く玉三葉の斑模様がある。浅間橋上流水内になる。ホウチャクソウの近くで広がらないよう注意が必要。カタバミ類の球根は駆除が困難。花時は結露で駆除しにくい。原産地は中南米の標高が高い地域で暑さや湿度に弱いようだ。
ウツギ	●(花)6月20日	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	アジサイ科の落葉低木。初夏に白い花をつける。ハナムグリや蝶、蜂などが訪れる。別名ウノハナ。空木の名前は茎の髄が中空のことによる。即月に咲くことから名由来と言われる。卯木にはハナ科(コゴメツツギ)、アジサイ科(ノリウツギ)、スイカズラ科(タニウツギ、ハコネウツギ)など多様な科に別れる。水辺に花を咲かす風情は上水らし
ウド	●	●	●	●		ウコギ科　上水内にもありましたが、岩道でゲンゲにはえてマキギンシで増えできました。花期は8〜9月実は熟すと黒黒色になります。冬には地上部が枯れます。ウドは育ちすぎると食用にならないから、うどの大木の例えがありますが、樹木ではなく草本の1種です。
ウズノズクサ	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	今年は草刈りされないようマーキングして頂いたが、後々の樹木も草刈りしないので一時覆われてしまっ。過度な管理が難しい。保全していきたい希少種(東京都RDB区部VU)ハエが受粉し手ができる。ジャコウアゲハは食草で、上水で1回だけ確認したが以前より少ない。高井戸公園でも1回記録されたそうだ。
ウツミツバ	●(花・実)	●(花・実)	●(実)	●(実)		今年、浅間橋下流緑道に新たに出来たが、結実前に草刈りされた。マークをするのを忘れたと知られてしまう。多年草なので来年も期待している。一年草や二年草は結実前に刈られるので少ない。
エゴノキ	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	小高木〜高木。北海道南部〜沖縄の温帯〜亜熱帯に自生。沿海〜山地の明るい林内、谷沿い、林縁などに生える。緑白色のサクランボの下向きにつける。緑白色のサクランボの下の実をつける。褐色に熟し遅けた実野鳥の餌となる。エゴツルクビオシツミ、エゴヒゲナガソウムシなどの昆虫も若い実を幼虫が利用。エゴノコアシ(虫こぶ)も観察が
エノキ	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	高木、本州から九州の暖温帯に自生。沿海〜山地の林縁、河原、道端、明るい林などに普通。葉は先半分に鋸歯があり、三行脈が目立つ。昔は街道の一里塚や村境、橋の柱などに植えられた。実は多くの野鳥の餌となる。ゴマダラチョウやオオムラサキの食草。器具の柄に使われたからとか、「燃え木」が転じてエノキになったとか諸説がある

エノキガサ	●	●	●(花)	●(花・実)	●(花・実)	トウダイグサ科の普通に見られる1年草で、緑道に見られる。葉がエノキの樹に似ている。別名を縮茎草という。赤い部分は雄花の花序で、花序の基部に雄花を包んでいる縮茎のような苞葉がある。
エノコログサ	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)	イネ科 小穂はアキノエノコログサに比べて著しく小さく、緑道に普通に生える身近な種。バナエドやカラムシ 類の食草となり、実と野鳥の食物ともなる。メシバも好まれる。
エビノコ	●(花・実)	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)	ブナ科のつる性の落葉木。雌雄異株。実が海老の目に似ていることから名付けられた。古名はアサキカマズ 上はイネ科の実である。アブラウの葉裏はツルツルしており、エビノコの葉裏はクモ毛が生えている。もぐさ代わり利用する。葉の先が丸くなり秋には赤く紅葉する。黒い実がより食べれる。
オオアレチナギク	●(花・実)	●(花・実)	●(花)	●(実)	●(花・実)	善いと種をつけるのが今年は早い。キク科の外來種で背が高くなりすぎ。南アフリカ原産。大正時代に渡来した。上水内より、明るい場所にはえてきて、外來種観察を行いました。ヒメカシヨモギなどにいます。葉はビロード状、舌状花は見えず花弁は目立ちません。
オオシバ	●(花・実)5月9日					キク科の多年草。黄色の頭花をつけ、似たジシバより葉が数大きく丸型。上水や高井戸公園でも両種が見られる。今年は数が落ちて大きくない。草地のよい環境を好む。
オオトラノオ	●(花)	●		●(実)	●(実)	サクランボ科、白い花が虎の尾のように垂れることが名前の由来。ノボトラノオ、ヌボトラノオなどの種類もあり、バジトラノオ(東京都RDB)は宮下流左岸に咲き続けていたが、3年前に盗掘にあい失われてしまった。もうこれ以上、失われることのないように対策していただきたい。
オキザリス				●(花)19月14日		カタバミ科の多年草。園芸種。紫の葉の上に上水と緑道の花が咲く緑道の境や緑道などにて。カタバミ類の緑花は駆除が困難、広がらないように注意が必要。花時は駆除しにくい。雨の後に花が見られる。
オシロイバナ	●	●				緑道に巻かれた種がこぼれ落ちてきたもの。温暖化により宿根草として野生化している。白いピンク色の花が咲く個体。スズメガが吸蜜する。
オウタチカタバミ	●(花・実)	●(花・実)	●(花・実)	●(花)	●(花)	北アメリカ原産の赤く、ムラサキカミ、イモカタミ、オキザリスも外來種・園芸種。茎が立ち上がり、托葉が小さく目立たない。5円玉を葉で覆くとびかきになる。かじると酸っぱい。家奴のカタバミ紋は絶えないということから縁起がよいと家奴にする武士が多かった。ヤマトシジミの食草。カタバミは在来種。
オニグルミ	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)		落葉性高木。雌花は穂状でつく。コガネカミ類も葉に集まる。葉は羽状複葉、ビロードのような手触り。アブラノオ植物で伐採後に生えてくる。川岸にも根絶し後に生える。種は水に流れ硬い外の皮が割れ発芽しやすいとする。上水では実が実る時期に人が拾っている。縄文時代の頃の遺跡からも殻が見える。
オニドコロ	●(花・ムカゴ)	●(花)	●(花・実・ムカゴ)	●(花・実・ムカゴ)	●(花・実)	落葉性つる植物。ヤマノイモの葉に比べてハート型。ヤマノイモより多く生えている。根はヤマノイモに比べて美味しくない。雌雄異株。実はやマノイモに比べて長細い。ハムシやスズメガ、ダイオウセリなど昆虫の食草になる。
オニユリ	●(ムカゴ)	●(ムカゴ)	●(ムカゴ)	●(ムカゴ)		ユリ科の多年草植物。球根で増えるが、茎には茶色いムカゴを多数つく。ムカゴにも葉が出る。橙色の花をつけ雄はクロツグバやアゲハなどの蝶を呼び寄せ。オニユリやヤマユリは盗掘の可能性があり増殖してかない。白いツカサゴユリは外來種として有名。
ガガイモ	●	●	●	●		岩通ガーデンの芝生で確認。以前は薄根下流の上水内にあったが、間伐が少なく草地が少なくなったので最近確認していない。キョウチクトウ科のつる性多年草。葉は対生、花はピンクで葉が密集している。種はポート型で二つに割れて中から白い毛が生えた種を飛ばす。穀の中が光ることからカガミイモ、ガガイモと名前白の由来になった。
カゼクサ	●	●	●	●(実)		単子葉類イネ科スズメガや風風の多年草。道端や荒地に普通に生える。種に細い小穂をつける。大きな株になり、風になびいて涼やかな草だ。
カタミ	●(花・実)	●(花・実)	●(花)	●(花・実)	●(花・実)	ヤマトシジミの食草。薄赤カタミやカタミは在来種。外來種では、オウタチカタミ、ムラサキカタミ、イモカタミ、オキザリスがある。基部に小さな托葉がある。5円玉を葉で覆くとびかきになる。かじると酸っぱい。家奴のカタバミ紋は絶えないということから縁起がよいと家奴にする武士が多かった。
ガマ(岩通)コガマ	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)		岩通の池のガマが繁りすぎて見えないところが増えて今年は岩通でノボ類が少なかった。ガマはすぐ繁殖して、また水が浅くなると見えないことになる。冬以降に根元の対策をしていなければならない。水辺環境の復活を望む。ガマの雌花穂は大きくコガマは小さく、上部より下部が細い。
ガマミ	●	●	●(花・実)			白く細い花にビロード状の葉を持つ。山地や丘陵の雑木林の落葉低木。緑道に植栽されたが、上水内にもある。葉は対生し、サゴジハムシに食べられ枯らけになっていることもある。花には、ハナカミキリが訪れることもある。実はあるに熱く食用にもなり、野鳥も食べる。名前の由来は穂の柄に用いられ、実が酸っぱいことからの説がある
カヤツリガサ			●(花・実)			キョウチクトウ科の在来種。外來種のツバキツリの方が繁殖力が高い。旧岩通跡の公園で見られる。開けは明るい水辺、水田、湿地などで見られる。昔、カヤツリガサの茎を製して蚊帳吊りにつく遊んだ。
カラスウリ	●(花)	●(花)	●(花)	●(花・実)	●(花)	ウリ科のつる植物。雌雄異株。葉はビロードのような手触りで、茎は虫こぶがつき癒えることもある。花は夜にスーッと咲く白い花を開きスズメガなどが訪れ受粉する。実の始りは黄緑色のスガウのようで、朱色に熟し、ヒヨドリなどが食べる。種は打出の小槌に似ていてお倉が増える緑地物でお財布に入れたりする。トシテントウ、ウリハムシがつく。
カラスノゴマ				●		アオイ科の1年草。草丈30から90センチほど。上水の林縁の明るいところに黄色いうっむき加減の小さな花が咲く。胡麻のような種をつけることが名前の由来。種は弾けて飛ぶ。1年草は種ができる前に草刈りするとすぐに減少してしまうので注意が必要。
カラスビシャク	●(花)15月9日 6月		●(花)	●(花)		タドイ科多年草。乾燥させた根茎は半夏という生薬で知られる。仏灸根は葉が使う納約に見立てられたのが名前の由来。葉は若い根は葉が一葉が、厚みの三つ葉のようである。草刈りするとよく。田畑の畦や林縁などで見かけ。史前植物と考えられている。北アメリカの一部では侵略的外來種と考えられている。漢方薬(カ)
カラムシ	●(花)	●(花)	●(花)	●(花)		イラクサ科多年草。 ヤブマオと近縁の仲間、カラムシは互生、ヤブマオは対生。茎の植物繊維から糸を紡いで麻布を織った。 風によって花粉を運ぶ風媒花、雌花が上の方につく。外來種のラミーカミリはこの草に卵を産む。
キカサスウリ	●	●	●	●		ウリ科の落葉性つる植物。雌雄異株。葉は光沢がありつるしている。白い花は日没後から開花し翌日の昼間も咲いている。スズメガがポリネーターになる。実は、カラスウリより丸く黄色くなる。古くは根茎を煮して天に晒し、乾燥させて天花粉に加工した。
キツネアザミ	●(花・実)5月9日					キク科のキツネアザミ属の二年草。紅葉の筒状花をつける。背が高くなる。種は風に飛んで運ばれる。明るい草地に生える。アザミに似ているがアザミでないことが名前の由来。アザミのようなトゲはない。
ギョウギンバ	●			●(花)19月		イネ科 メシバを小さくしたような形。草丈は5から15センチほど。茎は地上を這う。シバは地中を這う。乾燥に強い明るい場所のみみられる。タイルの隙間から生えていることもある。道路がでいてから新しくみかけるようになった。シバと同様に緑化に用いられ牧草としても用いられる。ハミューダグラスの名で呼ばれることが多い。
キリ	●	●	●	●		落葉高木。ハイオオコナ植物で成長が早い。大きな葉をつける。初夏に紫の花をつけ昆虫が訪れる。材は軽(狂い)や割れも少ない。タヌや草、琵琶、下駄に使われる。岩崎橋の緑道にあり虫キリは、昨年から花や実をつけているが、照明の近くのため多少時期がずれて咲いたり身を付けたりする。
キンズヒキ	●(花・実)	●(花・実)	●(花・実)	●(花・実)		バラ科の多年草。草丈30から50センチほど、黄色い花は下から虫花をつける。花には蜂などが訪れる虫花。種はひつき虫と呼ばれ、動物の毛につくいて運ばれる動物散布の植物。
キンラン	●(実)	●(実)	●(実)	●(実)		移植したキンラン(東京都RDB区部VII)は確認できなかったが、今年は緑道や岩通ガーデンで留やつる種観察など保全活動の成果でキンラン(東京都RDB区部EN)は久しぶりに2種確認した。右岸に、移植したキンランを保全しているが、自生キンランは数株、左岸に見られる。
クサギ	●(花)	●(花)	●(花)	●(花・実)	●(花・実)	シソ科の落葉低木・小高木。 日当たりの良い原野や上水では、雑木林の先駆植物。葉をもむとビーンツァンターの香りがする。臭いという人もいるので臭木となったのが名前の由来。花は雄や雌を呼び寄せ受粉する。長い口吻をもつアゲハやスズメガはうまく吸えるが、クマバチは横から穴を開け盗蜜している。実は紫色で染め物に使う。
クサボケ	●(花・実)	●(花・実)	●(花・実)	●(花・実)		緑道に植栽したものは大きくない。上水内では兵庫橋の明るい草地に自生している。自生のもは、草丈は低く草の下に隠れ咲いていることが多い。花はオランジで咲かすことにあつたかと確認する。

[illegible]

オオバン						神田川の清水橋下流で2020年前後に1羽通過確認
コチドリ						高井戸公園整備中の北地区で繁殖（2020/6/29）、巣立ち雛を確認した。その後、おおぞら公園の野球場（2017/6/13）で繁殖を確認する。
アオシギ						2010年頃の野鳥の会東京の観察会で、まだ道路が整備中であった牟礼橋下流左岸の榎木や畑が残る場所で採餌中でした。水生昆虫やミズズなどを食べるため、当時の牟礼橋下流左岸には、周辺に榎木林や畑など残っていたので、土壌環境が豊かであったと考えます。
カワウ	● 4月					カワウは井の頭公園で繁殖していた時期に神田川や上水でも餌を獲る姿が増えた。9月に井の頭公園の七井橋のラウウシウウの営巣木に剪定して糸を張り営巣できないようにしてカワウがいなくなったので、神田川で見かける姿も減ると考える。七井橋のカワウの営巣木の下の人は人通りも多く水生動物園も近かったので対策は仕方ない。
ゴイサギ	● 冬から3月神田川	● 8月14日				ペリカン目サギ科の鳥類。成鳥はグレー、上面は青みがかった灰色で、下面は白い羽毛で覆われる。虹彩は赤く冠羽がある。若鳥はホシゴイと呼ばれ褐色の羽毛に黄褐色の斑点が入る。兵庫橋上空S。上水下流沿いに高井戸公園方面へ飛んで行く。井の頭池や神田川など水辺を行き来している。東京都RDB 区部VU
アオサギ	● 4月8日		● 8月19日神田川	●		ペリカン目サギ科の大型鳥類。成鳥はグレー、白、黒の色合い若鳥は冠羽や飾り羽根がなく背中が褐色みを帯び胸に縦斑がある。嘴は黄色、オスは暗褐色で赤みを帯びる。春は牟礼橋で夏は神田川で確認した。小型の哺乳類や昆虫、爬虫類も食べる。
ダイサギ	● 1月6日					浅間橋でダイサギとコサギが上水から飛び立ち神田川と上水上流方面へ飛んでいくのを確認する。
コサギ	● 3月4日					ペリカン目サギ科の中型鳥類。白い羽根に繁殖期に飾り羽根が出て目先がピンクになる。脚は黒く、指は黄色い。水の中で脚指を振るって獲物を追い出し捕える採餌方法をする。上水は見通しが効かない場所が増えたので、神田川で見かけることが多い。上水内から朝方、飛び出すことがある。春先3月4日に見かけた。
ツミ	● 2月16日			● (成+メス)		タカ目タカ科の猛禽類。温暖な地域では周年生息(留鳥)寒冷地では冬季に南下(夏鳥)することもある。主に小型鳥類を捕食するが爬虫類、小型哺乳類、昆虫も食べる。今夏は確認していないが他の時期では確認。2月16日観察会で記録した。昨夏は浅間橋上流でハンソボガラス3羽とバトルしていた。東京都RDB 区部EN 車道建設前は営業
オオタカ	●					タカ目タカ科の猛禽類。羽根の色が青みがかった灰色をした蒼を意味する蒼鷹に由来する。カラス大の大きさでメスの方がオスより大きく、幼鳥は褐色をしている。エノキ大木にてムクドリ大の幼鳥？を捕らえるのを確認。周囲にはヒノキの大木、榎の繁みの隠れ獲物を獲った。井の頭公園で営巣確認。周辺部を餌場として利用。東京都RDB 区ト
トビ	● 3月4日					タカ目タカ科の猛禽類。別名トンビ。鷹の中では大型。♂より♀の方が大きく、カラスより一回り大きい。浅間橋でカラスにモビングされていた。上昇気流を利用し輪を描くように軌翔する。尾羽は先端がバチ型。雑食性で動物の死骸から様々な食物を捕食し飛翔しながら獲物を探し見つけると急降下して獲物を捕える。人の食べ物も狙う。餌付け
ノスリ						高井戸公園整備中の時に野鳥の会東京の探鳥会でノスリを高井戸公園上空で確認した。
アオバズク						上水では浅間橋上流の長山氏榎木林がある頃に隣に住む大橋さんからアオバズクの報告を聞く。また、北鳥山東歌老会館7丁目屋敷林から北野にかけても道路整備前にアオバズク声あり。
フクロウ						2023年12月15日北鳥山7丁目屋敷林でフクロウ声の報告あり
カワセミ	● 4月				● 9月17日	ブンボウソウ目カワセミ科 青い宝石と呼ばれる。2020年6月6日に浅間橋で巣立ちまもない幼鳥の記録があり、繁殖の可能性があった。近年は上流部や神田川で確認、上水の下流部では、あまり確認しないが、4月に兵庫橋で確認した。魚の群れがいて食物を得られるのかもしれない。オスの嘴は黒く、メスは赤い。若鳥は色が薄い。
コゲラ		●		●	● 9月	キツツキ目キツツキ科の鳥類。スズメと同じくらいの大きさ。日本に生息するキツツキとしては最も小さい。オスよりメスがやや大きい。灰褐色と白のマダラ模様。後頭部にオスは赤い羽根がある。足には前と後ろに2本づつ指がある。1980年代以降、都市部でも繁殖するようになった。兵庫橋のサクラにも虫がいるようで、よく見られる。
アオゲラ	● 6月？	● 8月5日		● 8月26日		キツツキ目キツツキ科の日本固有種。岩崎橋～浅間橋から高井戸公園周辺で確認され鳴いている。東京都RDB EN 尾羽や翼は黄緑色で、和名の由来になっている。オスは額から後頭が赤い部分が広い。メスは後頭の羽衣のみ赤い。食性は動物食傾向の強い雑食で、主に幹や枝で昆虫を採食するが、果実も食べる。
チョウゲンボウ						道路整備前のブルーシートが敷かれていて雑草が繁っていた頃は杉並上水でよく見かけた。その後、高井戸公園整備前から整備中の草原が繁っている頃は草地を利用する鳥類が現れた。その頃チョウゲンボウは1年を通して確認していたので、どこかで営巣の可能性があった。
サンショウクイ						渡りの通過の時期に杉並の上水上空で声が聞かれた。道路が開通してからは確認していない。
サンショウチョウ						渡りの通過の時期に杉並の浅間橋上水内で囀る姿を確認した。道路が開通してからは確認していない。
モズ	● 2月16日高井戸公園5月？				● 9月26日高井戸公園	スズメ目モズ科の鳥類。百舌と漢字で書き鳴き声を真似する。小さな猛禽類。昆虫や野鳥なども食べ、はやにえを行う。渡ってきた時に餌場になる畑地や公園に縄張りを構える。9月末になり高井戸公園で雄雌が高鳴き。開通により一時は数が減少した。回復の兆しもあるが、営巣には、モズの餌となるような昆虫類など得られる環境を戻したい
カケス						ドンダリがたくさん突った年の秋から冬に杉並の岩通ガーデンにも現れたことがある。
オナガ	●	●	●	●	●	スズメ目カラス科の鳥類。局所的に生息域がある。日本でも西日本では繁殖が確認されておらず、留鳥として見るものがなくなった。食性は雑食で、昆虫、果実、種子などを常食する。ねぐらが上水の周辺にある。2グループ以上の群れが上水を移動している。東京都RDB NT
ハシボソガラス	●	●	●	●	●	スズメ目カラス科の鳥類。ハシトガラスより小さく、嘴が細くほっそりしている。鳴き声はガーガーと濁った声で鳴く。お辞儀のように頭も上下させて鳴く。雑食性で比較的、植物質を好む傾向がある。くるみを上から落とすと割らせる法もハシボソガラスが行う。繁殖期以外でもハシトガラスと場所や食物をめくり争っている。
ハシブトガラス	●	●	●	●	●	スズメ目カラス科の鳥類。ハシボソガラスよりやや大きく、嘴が太く上嘴が曲がっているところと、顔が出っぱっているとこや、アカアーカーと濁らない声で判別できる。鳴き声に合わせ尾を上下に振る。幼鳥は虹彩の色が青や灰色で、口の中が赤い。ある程度、大きくなると数が少なくなる。井の頭などに移動するようだ。食物は雑食。
ヒガラ						観察会のあった日に田中耕太郎氏が杉並の岩崎橋上流でジュウカラの群れにいるヒガラを見つけ皆で確認した。
ヤマガラ						道路整備前は大木や古木が連続して残り樹木のボリュームがあったのでエゴノキの実を食べる群れを見かけたが、道路開通後は一冬再来したこともあったが近年は姿をまた確認できなくなっている。法面に影響があるとエゴノキ、イヌシデ、ミズキなどを伐ったり、トウネズミモチやシロモを外来種駆除で伐ったり道路整備も重なり多くの鳥が姿を
ジュウカラ	●	●	●	●		スズメ目ジュウカラ科 今夏は、猛暑などで繁殖に影響のある野鳥が考えられる。幼鳥の数は少なめ。スズメと同じように幼鳥が移動できるよになるとの餌の取れるところへ移動する。スズメくらい大きさである。名前は鳴き声に由来する。オスは喉から下尾筒にかけての黒い縦線(ネクタイ)がメスより太い。幼鳥の嘴は黄色い。食性は雑食。
ヒバリ						近年、屋上に営巣をしているため、上水でも声が聞かれることがあった。その昔、畑が広がる頃は農家の奥さんの話によるとささいな話のたのしい。2015年頃、北鳥山の久我山ガーデンヒルズの屋上に2014.5.14 卵3つ営巣確認。芦花公園団地はほぼ営巣の可能性、三鷹台団地、牟礼団地でも声が聞かれている。近年、緑の残る北西地域に
ヒヨドリ	●	●	●	●	●	スズメ目ヒヨドリ科の鳥類。灰色の長い尾を持つ中型の鳥。樹木で桜などの花の蜜を吸う。実や虫もたべる。同じ食べ物のメジロを追い立てたりする。声が鋭く気が強そうにみえる。春秋に通過が多い。留鳥と言われるが東京では1970年代まで冬鳥と言われていた。温暖化や植生変化などが玉川上水では1年中数多く見られる鳥になっている。
ツバメ	●	●				スズメ目ツバメ科 喉と顔が赤い。腹は白く、背は藍色、尾は長く二股に切れ込み無尾形になっている。歩行には不向きな足と飛行に適した翼をもつ。ツバメの家族群れを兵庫橋上空で観察した。上水より神田川や高井戸公園内の観察があるが、虫が少なく、巣をかける場所が少ないなどの理由で一時より少なくなっている。
ウグイス	● 3月					道路整備前のウグイスの数の多さといったら忘れない、ここは山かと思うほどの囀りの多さであった。上水沿いが玉川上水整備活用計画に放射5号道路整備で激減してまったが、杉並の上水では、この冬はスズメナザサや樹木を残しているせいだろうかうて声が聞かれる。杉並の上水(浅間橋から牟礼橋)では橋ごとに1羽づついたこともあ
ヤブサメ						道路整備前に長山氏榎木林があった時に渡りの通過時に声が聞かれた。渡り鳥の通過は道路ができてから減少した。通過していても車の音で聞き取りにくい。または、囀らない。上水を通過しない他のルートを行っている可能性がある。
エナガ			●		●	スズメ目エナガ科 夏の終わりに榎の大木で餌を取り移動する小さな群れを確認した。夏の確認には年によりムラがあるので継続観察をしていきたい。白く長い体に長い尾羽がついた小鳥。形が柄杓のようだというのが名前の由来。北方系のシマエナガは頭部全体が白く近年、人気が高まっている。冬は他の種と混群をつくり、先導役となる。
ムジセッカ						高井戸公園整備中に南地区と神田川で姿と声を大塚豊氏と確認記録した(2020/11月～3月)安齊英明氏もカラフトムジセッカを神田川で確認したそうだ。
センダイムシクイ						渡りの通過の時期に杉並の上水内で姿や囀りがよく聞かれた。道路が開通してからは段々と確認できなくなった。
エゾムシクイ						渡りの通過の時期に杉並の上水内で囀りがよく聞かれた。道路が開通してからは段々と確認できなくなった。
メボソムシクイ						渡りの通過の時期に杉並の上水内で囀りが聞かれた。道路が開通してからは確認していない。
オオムシクイ						渡りの通過の時期に杉並の上水内で姿や囀りがよく聞かれた。道路が開通してからは段々と確認できなくなった。
オオシキリ						渡りの通過の時期に姿と囀りを確認していた。(西沢つつじ園、浅間橋上流の区民公園、高井戸公園予定地2017/5/15、牟礼橋2020/5/18、井の頭池など)下流部では暫く確認していない。
ヨヨシシ						渡りの通過の時期に2021年5月18日、浅間橋上流上水内で囀りが聞かれた。シマセニウウを確認した5メートルほど上流でほぼ同じ環境だと記憶している。コロナ禍の時期は右岸は特に手が入らず数化していたと記憶している。
シマセニウウ						渡りの通過の時期に2020年6月5日浅間橋上流上水内(センダンやアズマネザサ、クズ、低木が繁り繁化していた)で囀りが聞かれた。コロナ禍の通過まもない頃はまだまだ少ない時期で確認した。高井戸公園予定地の未整備だった草地に整備が入る時期と重なる頃であった。高井戸公園北地区東一部開闊2020年6月、北地区西側追加開闊2021年6月
メジロ	●	●	●	●	●	スズメ目メジロ科 スズメより小さい。緑の背と暗褐色の羽を持ち雌雄同色。目の周囲の白色部(アイリング)が、和名の由来。非繁殖期は山地から平地に移動し。繁殖期は暑いので分岐し、2羽で鳴き交わしながら花から花へと飛び回る。冬から春に数が増える。上水では兵庫橋のツバキによく訪れ愛粉させる。
ミソサザイ						萬動橋から浅間橋の上水全体で地鳴きが始まるほか、春先の早朝に宮下橋で囀りが聞かれたこともある。現在は越冬の時期や通過で井の頭公園の小鳥の森周辺部で地鳴きが始まる。その他の野鳥も萬動橋から浅間橋の上水全体で声は聞かれていたが、玉川上水整備活用計画や放射5号道路整備で減少したと考える。
ムクドリ	●	●				スズメ目ムクドリ科の鳥類。スズメハトの中間くらい大きさ。サクラの実のある頃に幼鳥を連れだ群れが見られる。クワの実やハナムグリの幼虫を食べる姿をよく見る。周辺にねぐらが点在し、ケヤキの大木など葉を落とすと竹林に移動する。大群が見られたが近年は一時より減少している。この夏はカ類が現れ土壌食物も少なくなり、近隣
トラツグミ						落ち葉をめくって腐葉土を掘ったりして、土壌生物を食べるので、杉並の道路整備では何度も土壌を掘り返したので、ツグミ数の渡りは激減した。周辺部へ拡散したと考える。道路開通前後は沼島園の豊かな土壌のところで採餌の報告あり。また、井の頭橋上流の上水内でも採餌を確認した。玉川上水整備計画前は上水内の土壌でツグミ類が!
シロハラ						トラツグミと同じようなことが言える。個体数はトラツグミより多かった。渡りの時期にはアカハラが少しい群れと一緒に浅間橋の地面に降りて群れが採餌をしているのも確認した。道路整備で緑のボリュームや地面の範囲も土型舗装で狭くなってからは、群れの降りる姿は確認できないし春先の元々な囀りもなく、警戒の地鳴き声がたまにあるく
アカハラ						シロハラと同様だが、シロハラより数は少ない。シロハラの方が暗く、アカハラは明るい環境を好むイメージ、上水は周りが道路に囲まれ上水内が繁化した。減少した野鳥には食物だけではなく安全面からも使いにくくなったと考える。玉川上水整備活用計画で一時、ムクノキやミズキなど大きくなる理由で伐採された。現象は複合的に影響する
ツグミ						道路開通前は越冬姿を確認していたが高井戸公園の方で確認することが多い。高井戸公園でも数は増減がある。整備中の人の入らない低い雑草が適当に繁る草地がある環境の時にツグミやツバメなどが多く来ていた。
コサメビタキ						渡りの通過の時期に杉並の岩通ガーデン榎木林などで囀りを確認した。また上水上流部の井の頭橋上流の榎木林なども姿や囀りを確認した。杉並上水では道路が開通してからは確認していない。
オオルリ						渡りの通過の時期に杉並の浅間橋上水内や兵庫橋で姿や囀りを聞いた。キビタキより数は少なかった。上水の道路整備が多くなると北鳥山7丁目緑地で確認するようになった。神田川でも報告があった。道路が開通してからは確認できていない。
コルリ						道路整備前に長山氏榎木林があった時に渡りの通過時に囀りを聞いた。。渡り鳥の通過は道路ができてから減少した。通過していても車の音で聞き取りにくい。または、囀らない。上水を通過しない他のルートを行っている可能性がある。
キビタキ						渡りの通過の時期に杉並の上水内で姿や囀りがよく聞かれた。段々と囀らなくなり聞かれるのは地鳴きになっていった。道路が開通してから、ここ数年、地鳴きも聞かれない。少数は通過していると考え。は確認。
ルビビタキ						井の頭橋と小鳥の森が多く観察できた。よく低木や低いロープに出てきては縄張り主張し愛嬌を振りまいていた。その姿も玉川上水整備計画であまり見られなくなった。バードウォッチングの人口が多くなるにつれカメラで追いかけて回す人が増え鳥との関係が悪化したのも大きいと考える。低木や藪、土壌の豊かなルビビタキの好む環境がない
ジョウビタキ						モズやジョウビタキは道路開通や玉川上水整備活用計画など、緑地が宅地に変わったり、緑地のボリュームが少なくなり一時、上水では減少した。留まらず周辺へ分散したり通過したりした。ジョウビタキはやはり以前より見る機会や数も少ない、高井戸公園の樹体がたまに来たりしている。兵庫橋公園や牟礼橋にもいたのだが、どこかへ行って
インヒヨドリ						北鳥山7丁目緑地でさえずりの報告あり。自宅近くで声は確認したが、2025年10月26日若鳥の姿を確認した。海辺の野鳥が環境悪化のためか不明だが、都会に新天地を求めて進出、人工物を利用し営巣するようになりました。インヒヨドリ、ヒバリなど以前とは違う環境で見られる野鳥が増えています。たくましさを感じますが、詳細を調べること
スズメ	●	●	●	●	● 8月26日	スズメ目スズメ科人家の瓦屋根に営巣する身近な小鳥だったが近年、減少している。食物や棲家のセツがなくなると言われている。久我我でも減少している。住宅街や電柱で繁殖しているが、幼鳥が移動できるようになると数が少なくなる。食性は雑食性。春先は苗の害虫を食べる益鳥、秋には穀米を食べる害鳥として扱われた。
キセキレイ	● 2月16日 神田川					スズメ目セキレイ科 黄色の美しいセキレイ、尾を上下に振り、水辺の昆虫類やクモなどを捕食する。冬季や渡りの時期はセキレイ類も上水に多かったが、近年は上水にいなくなり、神田川の方で見かけるようになった。ハクセキレイと縄張り争いをしている。
ハクセキレイ	●	●				スズメ目セキレイ科 近年は高井戸公園内や神田川の観察例が多いが渡りの時はセキレイ類を上空などで目にするところがある。以前のように止まらない。食性は雑食で、水辺や畑などに降りて歩きながら水中や岩陰、土中に潜む昆虫類やクモ、ミミズなどを主に捕えて食べる。神田川に多いが、高井戸公園の芝生や野球場、兵庫橋の
セグロセキレイ						神田川で確認した。めったには会えないが、渡りの時期にいたりする。キセキレイもハクセキレイも上水内で姿を見かけたのだが、最近ほとんどとお見かけしなくなった。数が繁って見通しが効かないせいもあるが、それだけではない。
アトリ						道路整備中にアトリの当たり年があって、群れがブルーシートに降りて茂った雑草の種子やケヤキの種子などを食べていた。浅間橋ではよく群れが降りて水浴びをしていた。道路開通後はたまに姿を見せる程度で現れないが、井の頭橋の榎木林や井の頭などでは、杉並よりは現れている。
シメ						井の頭橋上流の榎木林や周辺の畑に多く見られたが近年は数が少なくなった。見通しや広さなど安全面での不安や、餌となる実の成り具合など充分ではないのだろうか。土壌もかつてより貧弱だ、より多くの群れを養える場所へ移動しているのか。杉並の上水では、越冬前に1、2羽いついていたが、最近は見かけない。再来を期待する、
イカル	● 2024年1月15 日					昨年の1月15日に群れを杉並の上水と寺町の高源院で確認した。行き来をしていた。上水では兵庫橋で採餌を、高源院では16羽を確認した。水浴びをしていた。井の頭橋の榎木林では、シメと一緒にいることが多かったが、近年減少傾向です。
ウソ						高源院の池で何2015.1.5に確認した。萬動橋上流や井の頭公園の梅園で確認している。ツルウメモドキを食べていた。
カウラヒワ	● (群) 8月1日					スズメ目アトリ科以前は、よく群れが観察されたが、あまり見られなくなった。通過でたまにケヤキ実など食物があると群れが通るから程度。連続したヒノキなどの大木の林、広い草地減少で、上水の環境、広さや食物が充分でなくなった為と思われる。エノキハトリタマフシを食べていたのを春に観察した。オオカウラヒワは主に冬鳥として観
ホオジロ						上水では、道路開通前はアオジより見る機会は少なかった。浅間橋上流の畑付近などアオジよりひらけた草地の環境にいた。
カシラダカ						上水では道路開通前はアオジより見る機会は少なかったが、道路開通後は寺町で見かけた。ホオジロ類は周辺に拡散したと思われる。
アオジ						上水内で多い鳥だったが、道路の整備が進むにつれ減少した。周囲に拡散したと考える。神田川や高井戸公園、寺町で見かける。上水は、玉川上水整備活用計画で伐採があった。周囲に庭の残る住宅が立ち退きになった。アオジの安全に住む環境が狭められたと思われる。また雑草の種も刈られるので食物も得にくいのではないかと考える、
カワラハト(ドバト)	●	●	●	●	●	ハト目ハト科 飼育管理されたものをイエバト、野生化したものをドバトという。親鳥はタンパク質に富んだピジョンミルクと呼ばれるミルク状の乳をを口移しで与える。以前は団地によく営巣する群れの姿を見かけた。雑食性で植物食の傾向が強い。昆虫も食べる。サクラ、アカメガシワ、クワ、エゴノキ、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、草の実を食べる。
ワカケホンセイインコ	●	●	●	●	●	オウム目インコ科の鳥類 インド、スリランカ分布。緑色の体色でオスの成鳥は首の輪が目立ち、メスは目立たない。嘴は大きくて赤く、尾羽は長い。寿命は約30年、食性は雑穀の種子や花、果実、芽、穀物。樹洞に営巣する。高いコナラの上で囀っていた。オナガやハシボソガラスと場所を争う。芦花公園のねぐらへ帰る群れが上水に立ち寄
ガビチョウ(外来種)	● 6月末	● 7月28日				スズメ目チドリ科 生態系被害防止リスト掲載種、重点対策対象種。調査日以外では確認している。以前、高井戸公園で繁殖が確認された。昨年は見かけなかったが今年は時々見かける。カオジロガビチョウ、カオジロガビチョウなどいる。鶯などの在来種との競合が懸念されている。